

1. 多様な暮らしや働き方に関する調査結果（市民）

（1）調査の実施概要

1) 調査の目的

男女共同参画に関する市民の意識や実態を把握するとともに、令和8年度策定予定の「第4次浦添市男女共同参画行動計画」を検討するための基礎資料として活用することを目的に実施した。

2) 調査の実施方法・結果

対象者	20～69歳の浦添市民（71,690名）
サンプルサイズ	2,000件
抽出方法	住民基本台帳を基にした層化無作為抽出法
実施方法	郵送による配布・回収に加えてWEB回答を併用
調査期間	令和7年12月19日～令和8年1月13日
有効回収数・率	527件・26.4%

抽出対象	男性	女性	小計
20代	185 (9.3%)	191 (9.6%)	376 (18.8%)
30代	193 (9.7%)	195 (9.8%)	388 (19.4%)
40代	218 (10.9%)	221 (11.1%)	439 (22.0%)
50代	209 (10.5%)	234 (11.7%)	443 (22.2%)
60代	162 (8.1%)	192 (9.6%)	354 (17.7%)
計	967 (48.4%)	1,033 (51.7%)	2,000 (100%)

3) 結果の見方

- ・回答結果の割合は、回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入しているため、単数回答であっても、合計値が100%にならない場合がある。
- ・複数回答の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、割合を出している。そのため、複数回答の質問については、すべての選択肢の比率を合計すると、合計が100%を超える。
- ・表や図中で、選択肢の文章が長いものは省略して載せている場合がある。また、「n」は集計の対象者数（設問の限定条件に該当する人の数）を表している。
- ・標本調査を行っているため、調査結果には統計上の誤差（標本誤差）が生じることがある。母集団71,690人に対し、抽出調査の信頼度を95%（信頼度係数1.96）、許容誤差を±5%とした場合、統計学上の必要回答数は383件である。本調査の有効回収数は527件であ

り、本調査から得られた分析結果は、浦添市民全体の意見として推定するために十分な精度を得ている。

$$n = \frac{N}{\left(\frac{e}{Z}\right)^2 \times \frac{N-1}{P(1-P)} + 1}$$

n：必要回答数 N：母集団 Z：信頼度係数 (1.96)
P：母比率 (当該選択肢を選択した者の割合) e：誤差率

- ・ 標本誤差は次の数式で求められる (信頼度を 95%とした場合)。

$$b = \pm 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

b：信頼度 95%の標本誤差 N：母集団 n：有効回答数
p：回答比率

- ・ 母集団と調査結果との間の標本誤差を下表に示す。本調査において回答数が 527 件となる設問は、標本誤差が最大で±4.25%となり、国が実施している調査設計で目安とされることが多い標本誤差±5%を下回っている。

■ 標本誤差早見表

n \ p	10% または 90%	20% または 80%	30% または 70%	40% または 60%	50%
527	±2.55	±3.40	±3.90	±4.17	±4.25
456	±2.74	±3.66	±4.19	±4.48	±4.57
250	±3.71	±4.95	±5.67	±6.06	±6.19
100	±5.88	±7.83	±8.98	±9.60	±9.79

※母集団 71,690 (令和7年8月末住民基本台帳世帯数)、信頼度 95% (係数 1.96) として算出。

- ・ なお、アンケートは人によって答える／答えない対応が異なるため、回収されたデータの性別・年代別構成比は、母集団の構成比と必ずしも一致しない。そこで、回収されたデータの構成比を母集団とほぼ同じにするため、重み付け※による補正集計を行った。このため、報告書内に記載する集計上の件数と、上記に記載の有効回収数 (527 件) とは異なる。また、端数処理の関係で件数と内訳の合計が一致しない場合がある。
※重み付けとは、性別・年代ごとの回収率を、母集団 (人口) における構成比に合わせるため、性別・年齢ごとに乗じる係数のこと。
- ・ また、本調査には標本誤差があり、50%の回答割合では±4.25である (母集団において 45.75%～54.25%の範囲にあると考えられる)。回答割合の差を評価する際には、差の大ききで判断するのではなく、z 検定やカイ二乗検定で有意差を確認したうえで、有意水準 5%以下の場合に「有意差がある (統計的に意味がある差)」として記載している。

(2) 調査の結果概要

※以降の値は、重み付けによる補正を行った結果である。

1) 回答者の属性

- ・回答者の性別をみると、「1. 男性」が47.3%、「2. 女性」が50.8%、「3. その他」が0.4%、「4. 答えたくない」が1.0%となっている。
- ・回答者の年齢をみると、「4. 50代」が22.5%と最も割合が高く、次いで「3. 40代」が21.7%、「2. 30代」が19.2%、「1. 20代」が19.0%、「5. 60代」が17.6%となっている。
- ・回答者の職業をみると、「2. 会社員・公務員（管理職以外）」が37.2%と最も割合が高い。
- ・回答者の婚姻状況をみると、「1. 結婚している」が59.9%と最も割合が高い。
- ・回答者の世帯構成をみると、「3. 2世代家族（子ども）」が42.2%と最も割合が高い。
- ・回答者の子どもの有無をみると、「1. 子どもはいない」が34.0%、「2. いる」が61.4%となっている。

2) 男女平等に関する意識について

- ・各分野における男女の地位をみると、「ウ 学校教育の場」に関しては「平等になっている」が47.3%と約5割を占めている。一方で、「オ 政治の場」「キ 社会通念・慣習・しきたりなど」「ク 社会全体でみた場合」においては、『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）が約60~70%と高い傾向となっている。

3) 家庭生活について

- ・配偶者（またはパートナー）がいる回答者の家庭生活における役割をみると、「ク 家庭の問題の最終的な決定」に関しては、「夫と妻が同じ程度分担」が55.0%と5割以上を占めている。一方で、「イ 家事をする（掃除・洗濯・炊事）」は『妻の役割』（「主に妻が行い、夫が一部分担」+「主に妻が行う」）のほうが+57ポイント高く、「ア 家計を支える」は『夫の役割』（「主に夫が行う」+「主に夫が行い、妻が一部分担」）のほうが+47ポイント高くなっている。
- ・現在の家庭内の役割分担の満足度について、「2. やや満足している」が32.2%と最も割合が高い。
- ・結婚や家庭生活に関する考えについて、『賛成』（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）をみると、「ア 結婚は個人の自由であるから、結婚はしてもしなくてもどちらでもよい」が83.2%と最も割合が高い。一方、『反対』（「どちらかといえば反対」+「反対」）をみると、「カ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」が73.1%と最も割合が高い。
- ・男性が家事等に積極的に参加するにあたって必要なことを尋ねたところ、「3. 夫婦や家族間で家事などの分担をするよう十分話し合うこと」が69.1%と最も割合が高い。

4) 仕事について

- ・職場における性差に対する考えをみると、すべての項目において「平等になっている」が最も高い割合となっており、特に「エ 教育や研修制度」については59.2%と約6割を占めている。
- ・一方で、「イ 賃金・昇進・昇格」については『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）のほうが、『女性優遇』（「女性の方が優遇されている」＋「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）よりも42ポイント高くなっている。
- ・仕事と私生活の両立に必要なことについて、「1. フレックスタイム制やテレワーク、時短勤務など、多様な働き方を促進する制度の整備」が58.1%と最も割合が高い。
- ・キャリアアップへの考えを尋ねたところ、『キャリアアップしたい』（「1. キャリアアップしたい」＋「2. ややキャリアアップしたい」）が64.3%、『キャリアアップしたくない』（「3. あまりしたくない」＋「4. したくない」）が34.6%となっている。
- ・キャリアアップを「あまりしたくない」「したくない」と回答した理由をみると、「2. ストレスが増えそうだから」（67.4%）や「1. 責任が重くなりそうだから」（58.4%）といった精神的負担に関する理由が高い傾向となっている。

5) ハラスメント/配偶者等からの暴力について

- ・職場や学校、地域等におけるセクシュアル・ハラスメントについて、「受けたことがある」の内訳をみると、「カ 結婚、離婚、恋人、妊娠、子どもの有無等についてあれこれ言う」が19.4%と最も高い。
- ・暴力だと思う行動について、ほとんどの項目において「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高い傾向となっている。その中でも、「オ 嫌がっているのに性的な行為を強要する」が89.4%と最も割合が高い。
- ・配偶者等や交際相手からの暴力について、暴力が『あった』（「1. 2度あった」＋「何度もあった」）項目をみると、「イ 人格を否定するような暴言を受けた」が18.2%と最も高い割合となっている。
- ・全回答者のうち21.9%（526人中115人）が、なんらかのDV被害を受けたことがあると回答している。配偶者等や交際相手からの暴力に関する相談先をみると、「10. どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」が42.6%最も割合が高く、次いで、「8. 友人知人に相談した」が28.3%となっている。
- ・配偶者等や交際相手からの暴力に関して相談しなかった理由をみると、「11. 相談するほどの事ではないと思ったから」が67.3%と約7割を占めている。
- ・DV等の相談窓口の配慮事項をみると、「7. 匿名で相談ができる」が66.4%と最も割合が高い。

6) 性の多様性について

- ・性の多様性に関する語句の認知度について、『知っていた』（「内容もよく知っていた」＋「内容を少し知っていた」）語句をみると、「ウ）カミングアウト」が75.2%と最も割合が高い。一方、「知らなかった」語句をみると、「オ）SOGI」が79.9%と最も割合が高い。
- ・身近な方から性的少数者であることを打ち明けられた場合について、「3. いままで通り接する」が39.9%と最も割合が高い。
- ・自分の性などに悩んだ経験をみると、「2. ない」が81.4%と最も割合が高くなっている。『ある』（「1. よくある」＋「2. たまにある」）と回答した人は全体の5.5%を占めている。
- ・性の多様性を尊重する取組として必要なものについては、「2. 幼少期からの教育」が52.4%と最も割合が高い。

7) 男女共同参画について

- ・男女共同参画に関する語句の認知状況について、「内容もよく知っていた」をみると「オ ワークライフバランス」が31.8%と最も割合が高い。一方、「知らなかった」割合が高い項目をみると「カ アンコンシャス・バイアス」が53.6%、「ア 浦添市男女共同参画行動計画」が51.6%となっている。
- ・自治体の首長等に女性の参画が少ない理由について、「1. 家庭生活との両立が難しい」が67.5%と最も割合が高い。
- ・男女共同参画社会の実現に向けて浦添市が今後特に力を入れていくべきにことについてみると、「6. 育児や介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が64.0%と最も割合が高い。

(3) 調査の結果詳細

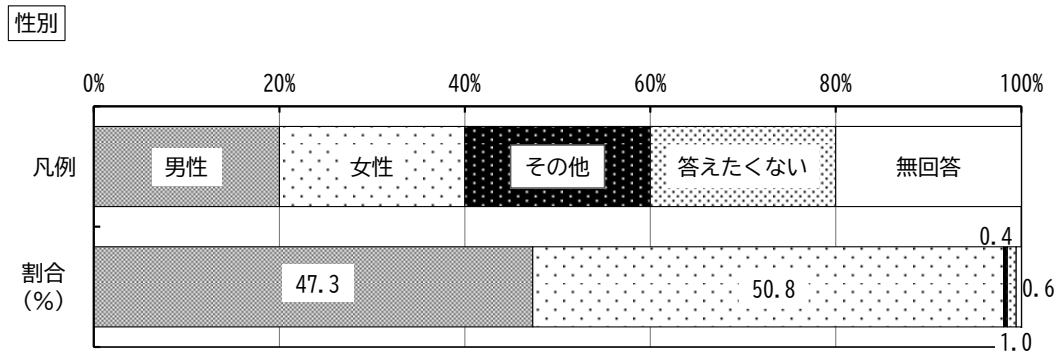
※以降の値は、重み付けによる補正を行った結果である。なお、前回の令和3年度調査結果に関しては重み付けによる補正を行っていない。

1) 回答者の属性

A あなたの性別をお答えください。あなたが自認する性でもけっこうです。(○は1つ)

1. 男性	2. 女性	3. その他	4. 答えたくない
-------	-------	--------	-----------

回答者の性別をみると、「1. 男性」が47.3%、「2. 女性」が50.8%、「3. その他」が0.4%、「4. 答えたくない」が1.0%となっている。

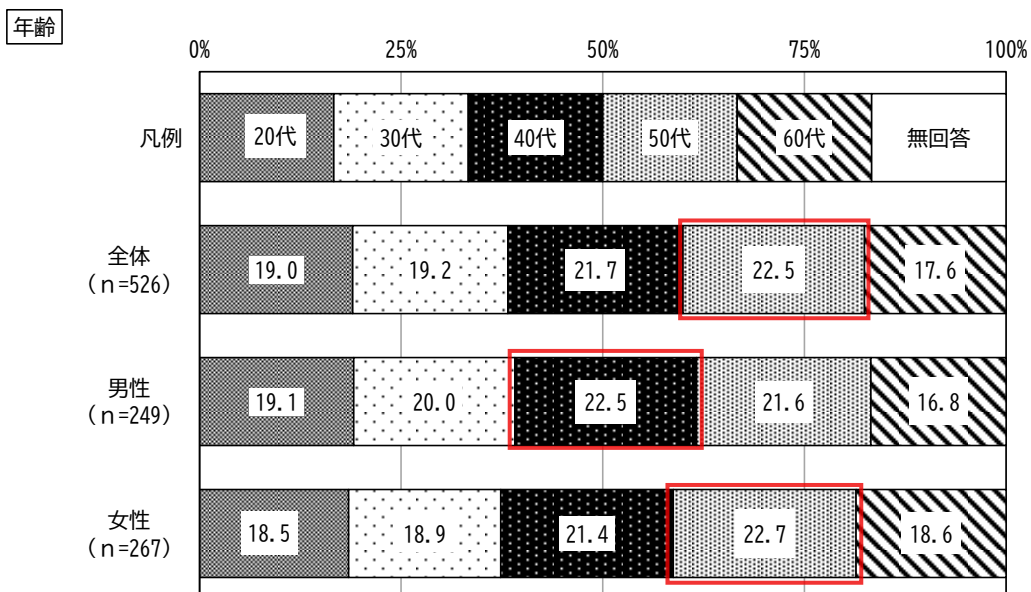


B あなたの年齢をお答えください。(○は1つ) ※2025年12月1日時点

1. 20代	2. 30代	3. 40代
4. 50代	5. 60代	6. 70代

回答者の年齢をみると、「4. 50代」が22.5%と最も割合が高く、次いで「3. 40代」が21.7%、「2. 30代」が19.2%、「1. 20代」が19.0%、「5. 60代」が17.6%となっている。

性別にみると、男性は「3. 40代」が22.5%と最も割合が高く、次いで「4. 50代」が21.6%となっている。女性は「4. 50代」が22.7%と最も割合が高く、次いで「3. 40代」が21.4%となっている。



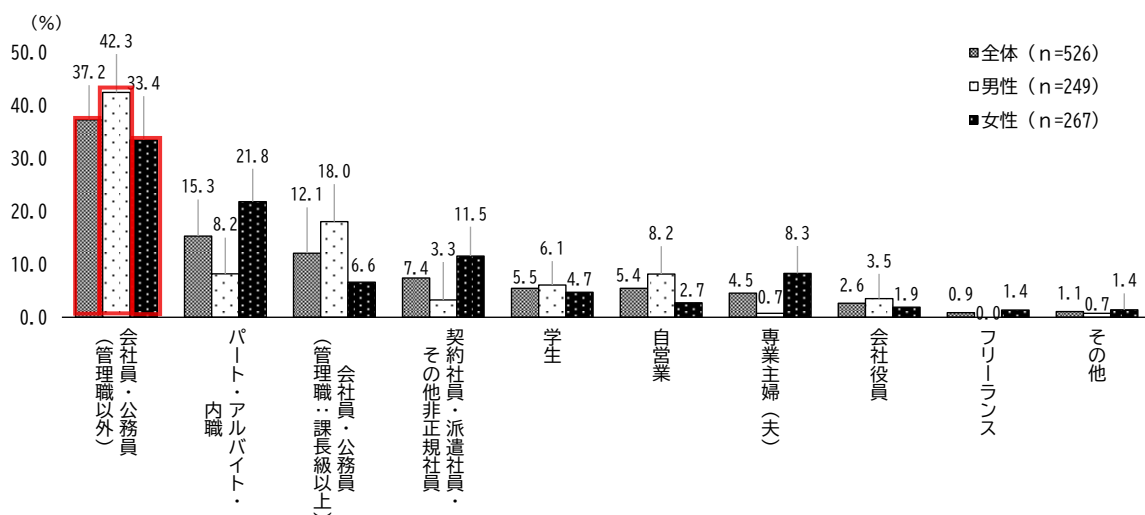
C あなたは現在働いていますか。あてはまる項目が複数ある方は、主なものを選んでください。
(○は1つ)

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 会社員・公務員（管理職：課長級以上） | 2. 会社員・公務員（管理職以外） |
| 3. パート・アルバイト・内職 | 4. 契約社員・派遣社員・その他非正規社員 |
| 5. 会社役員 | 6. 自営業 |
| 7. フリーランス | 8. 専業主婦（夫） |
| 9. 学生 | 10. 無職 |
| 11. その他（ ） | |

回答者の職業をみると、「2. 会社員・公務員（管理職以外）」が37.2%と最も割合が高く、次いで「3. パート・アルバイト・内職」が15.3%、「1. 会社員・公務員（管理職：課長級以上）」が12.1%となっている。

性別にみると、男性は「2. 会社員・公務員（管理職以外）」が42.3%と最も割合が高く、次いで「1. 会社員・公務員（管理職：課長級以上）」が18.0%となっている。女性は「2. 会社員・公務員（管理職以外）」が33.4%と最も割合が高く、次いで「3. パート・アルバイト・内職」が21.8%となっている。

就業状況（単数回答）



【その他】保育士（2件）/児童福祉施設管理者/育休中/休業中/生活保護世帯

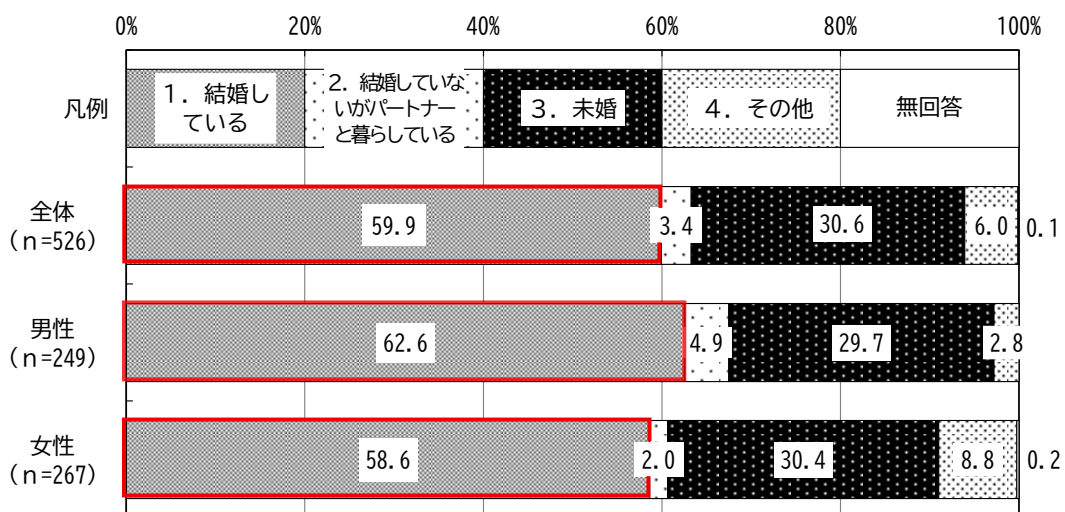
D あなたは、現在結婚していますか。(○は1つ)

1. 結婚している	2. 結婚していないがパートナーと暮らしている	⇒Eへ ⇒Fへ
3. 未婚	4. その他	

回答者の婚姻状況を見ると、「1. 結婚している」が 59.9%と最も割合が高く、次いで「3. 未婚」が30.6%となっている。

性別にみると、男性は「1. 結婚している」が 62.6%と最も割合が高く、次いで「3. 未婚」が 29.7%となっている。女性は「1. 結婚している」が 58.6%と最も割合が高く、次いで「3. 未婚」が 30.4%となっている。

婚姻状況



【Dで「1. 結婚している」、「2. 結婚していないがパートナーと暮らしている」と回答した】

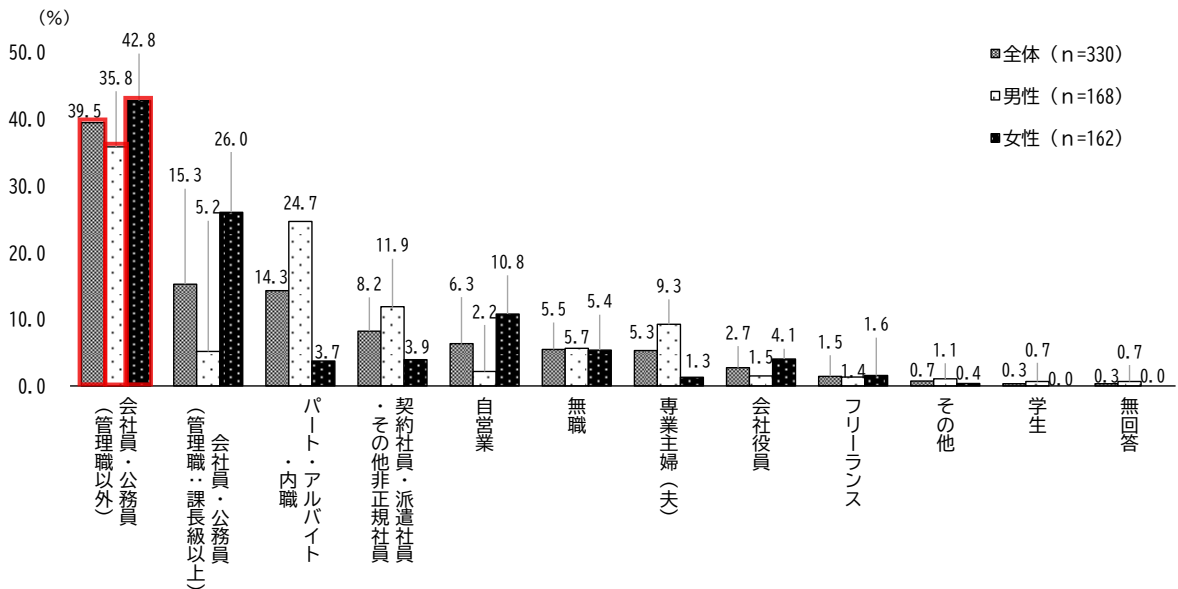
E 配偶者（またはパートナー）の職業をお答えください。（○は1つ）

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 会社員・公務員（管理職：課長級以上） | 2. 会社員・公務員（管理職以外） |
| 3. パート・アルバイト・内職 | 4. 契約社員・派遣社員・その他非正規社員 |
| 5. 会社役員 | 6. 自営業 |
| 7. フリーランス | 8. 専業主婦（夫） |
| 9. 学生 | 10. 無職 |
| 11. その他（ ） | |

『「1. 結婚している」、「2. 結婚していないがパートナーと暮らしている』を選択した回答者の配偶者（またはパートナー）の職業をみると、「2. 会社員・公務員（管理職以外）」が 39.5%と最も割合が高く、次いで「1. 会社員・公務員（管理職：課長級以上）」が 15.3%、「3. パート・アルバイト・内職」が 14.3%となっている。

性別にみると、男性は「2. 会社員・公務員（管理職以外）」が 35.8%と最も割合が高く、次いで「3. パート・アルバイト・内職」が 24.7%となっている。女性は「2. 会社員・公務員（管理職以外）」が 42.8%と最も割合が高く、次いで「1. 会社員・公務員（管理職：課長級以上）」が 26.0%となっている。

配偶者（またはパートナー）の職業（単数回答）



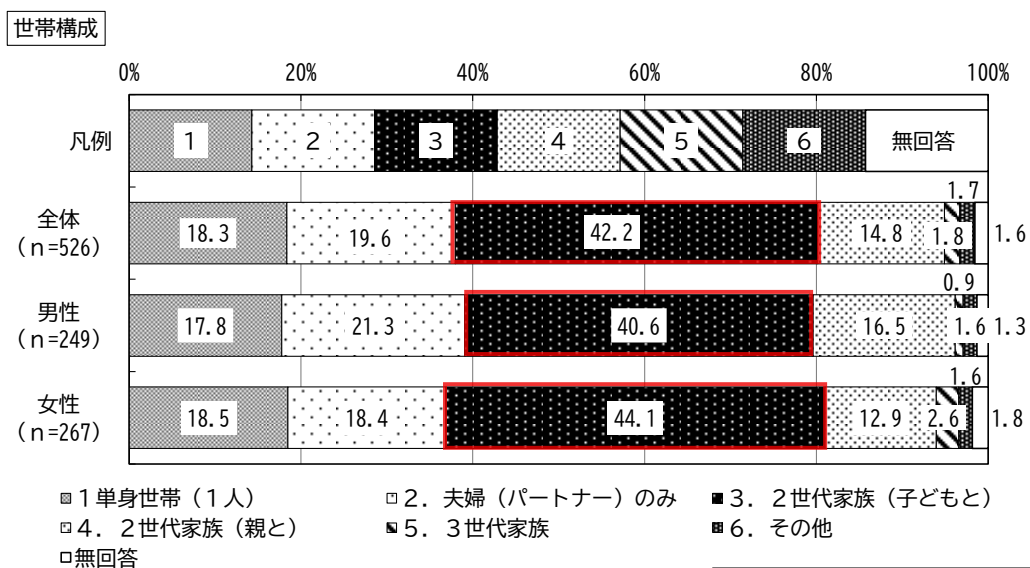
【その他】 B型事業所での作業/専従者従業員/大工

F あなたの世帯構成をお答えください。(〇は1つ)

1. 単身世帯 (1人)	2. 夫婦 (パートナー) のみ	3. 2世代家族 (子どもと)
4. 2世代家族 (親と)	5. 3世代家族	6. その他 ()

回答者の世帯構成をみると、「3. 2世代家族 (子どもと)」が42.2%と最も割合が高く、次いで「2. 夫婦 (パートナー) のみ」が19.6%、「1. 単身世帯 (1人)」が18.3%、「4. 2世代家族 (親と)」が14.8%となっている。

性別にみると、男性は「3. 2世代家族 (子どもと)」が40.6%と最も割合が高く、次いで「2. 夫婦 (パートナー) のみ」が21.3%となっている。女性は「3. 2世代家族 (子どもと)」が44.1%と最も割合が高く、次いで「1. 単身世帯 (1人)」が18.5%となっている。



【その他】兄弟・姉妹/義理の姉

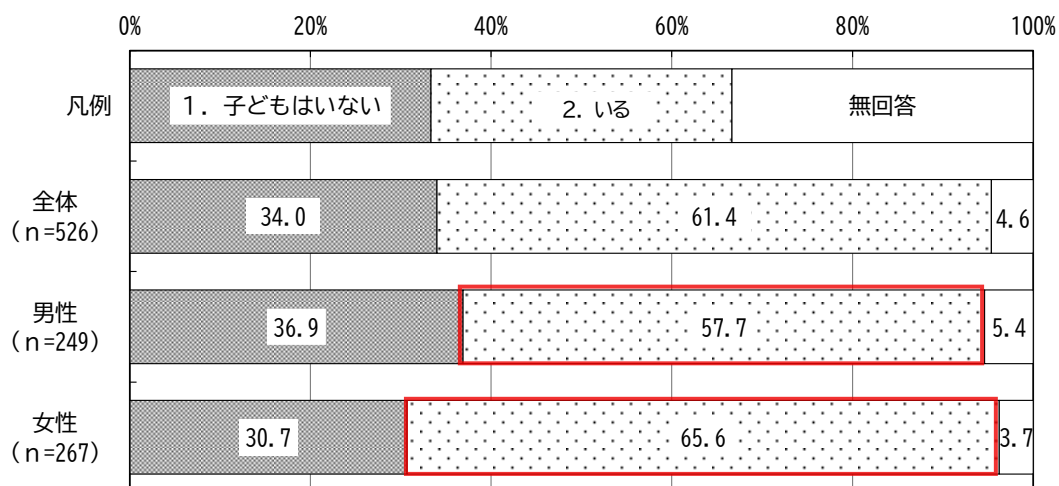
G お子さんはいらっしゃいますか (成人または別居している子どもも含みます)。(○は1つ)

1. 子どもはいない ⇒問1へ 2. いる (人) ⇒Hへ

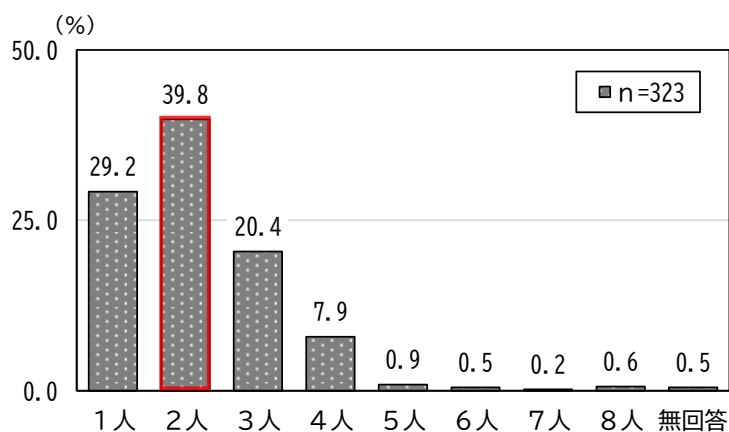
回答者の子どもの有無をみると、「1. 子どもはいない」が34.0%、「2. いる」が61.4%となっている。なお、子どもの数については、「2人」が39.8%と最も割合が高く、次いで「1人」が29.2%、「3人」が20.4%となっている。

性別にみると、男性は「2. いる」が57.7%と最も割合が高く、次いで「1. 子どもはいない」が36.9%となっている。女性も「2. いる」が65.6%と最も割合が高く、次いで「1. 子どもはいない」が30.7%となっている。

お子さんの有無



こどもの数 (n=323)



【Gで「2. いる」と回答した方】

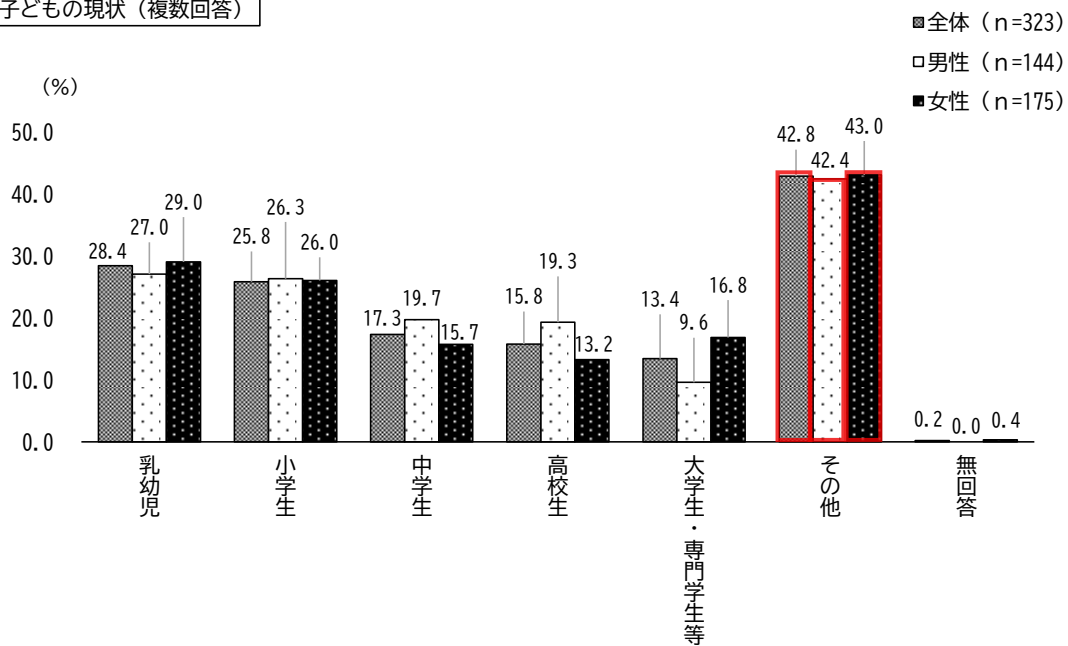
H お子さんはこの中ではどれにあたりますか。(〇はいくつでも)

1. 乳幼児	2. 小学生	3. 中学生
4. 高校生	5. 大学生・専門学生等	6. その他()

回答者の子どもの内訳をみると、「6. その他」(成人等)が42.8%となっており、次いで「1. 乳幼児」が28.4%、「2. 小学生」が25.8%となっている。

性別にみると、男性は「6. その他」(成人等)が42.4%と最も割合が高く、次いで「1. 乳幼児」が27.0%となっている。女性も「6. その他」(成人等)が43.0%と最も割合が高く、次いで「1. 乳幼児」が29.0%となっている。

子どもの現状(複数回答)



【その他】成人(46件)/社会人(29件)/浪人(2件)/障がい者(2件)

2) 男女平等に関する意識について

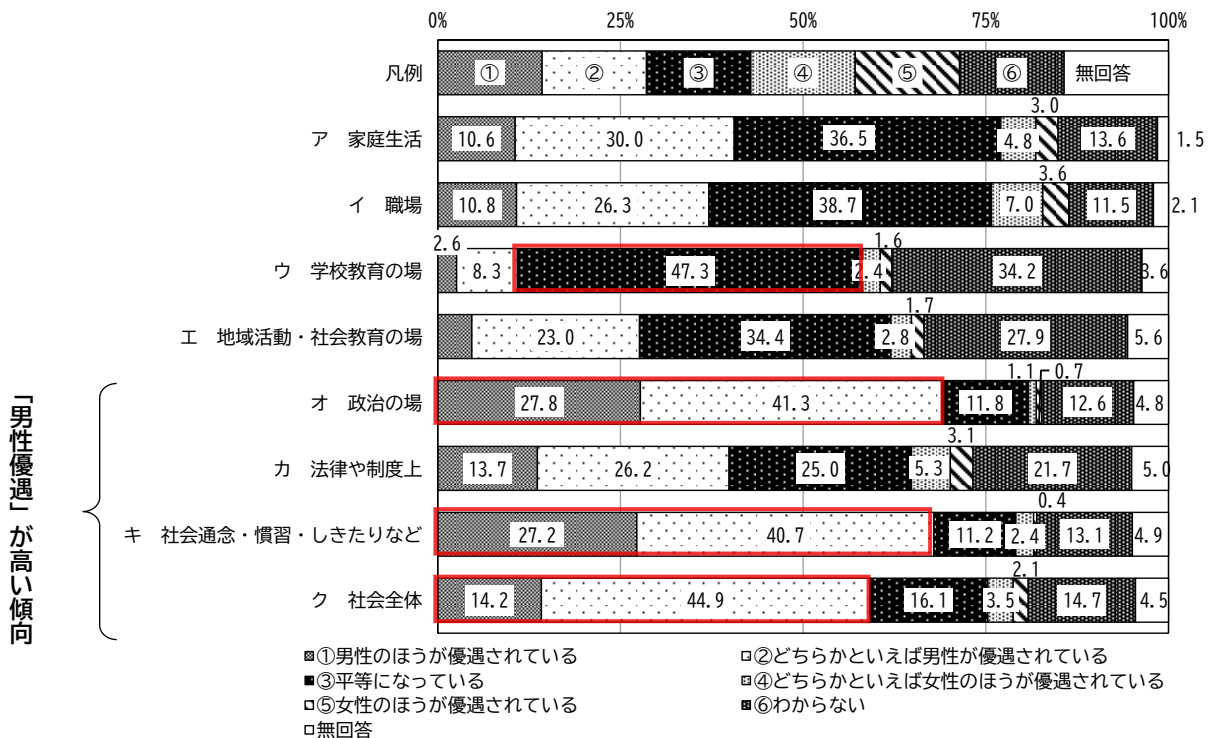
問1 あなたは、次にあげるア～ク分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
あなたの考えに近い選択肢（番号）を選んでください。（○はそれぞれ1つ）

項目	選択肢	い優男 る遇性 さの れ方 てが	さのいど れ方え がばら か と 優男 遇性	て平 等 に な っ て	さのいど れ方え がばら か と 優女 遇性	い優女 る遇性 さの れ方 てが	わ か ら な い
ア 家庭生活		1	2	3	4	5	6
イ 職場		1	2	3	4	5	6
ウ 学校教育の場		1	2	3	4	5	6
エ 地域活動・社会活動の場		1	2	3	4	5	6
オ 政治の場		1	2	3	4	5	6
カ 法律や制度上での扱い		1	2	3	4	5	6
キ 社会通念・慣習・しきたりなど		1	2	3	4	5	6
ク 社会全体でみた場合		1	2	3	4	5	6

男女の地位をみると、「ア 家庭生活」「イ 職場」「ウ 学校教育の場」「エ 地域活動・社会活動の場」においては、「平等になっている」の割合が最も高い。特に「ウ 学校教育の場」に関しては47.3%と約5割を占めている。

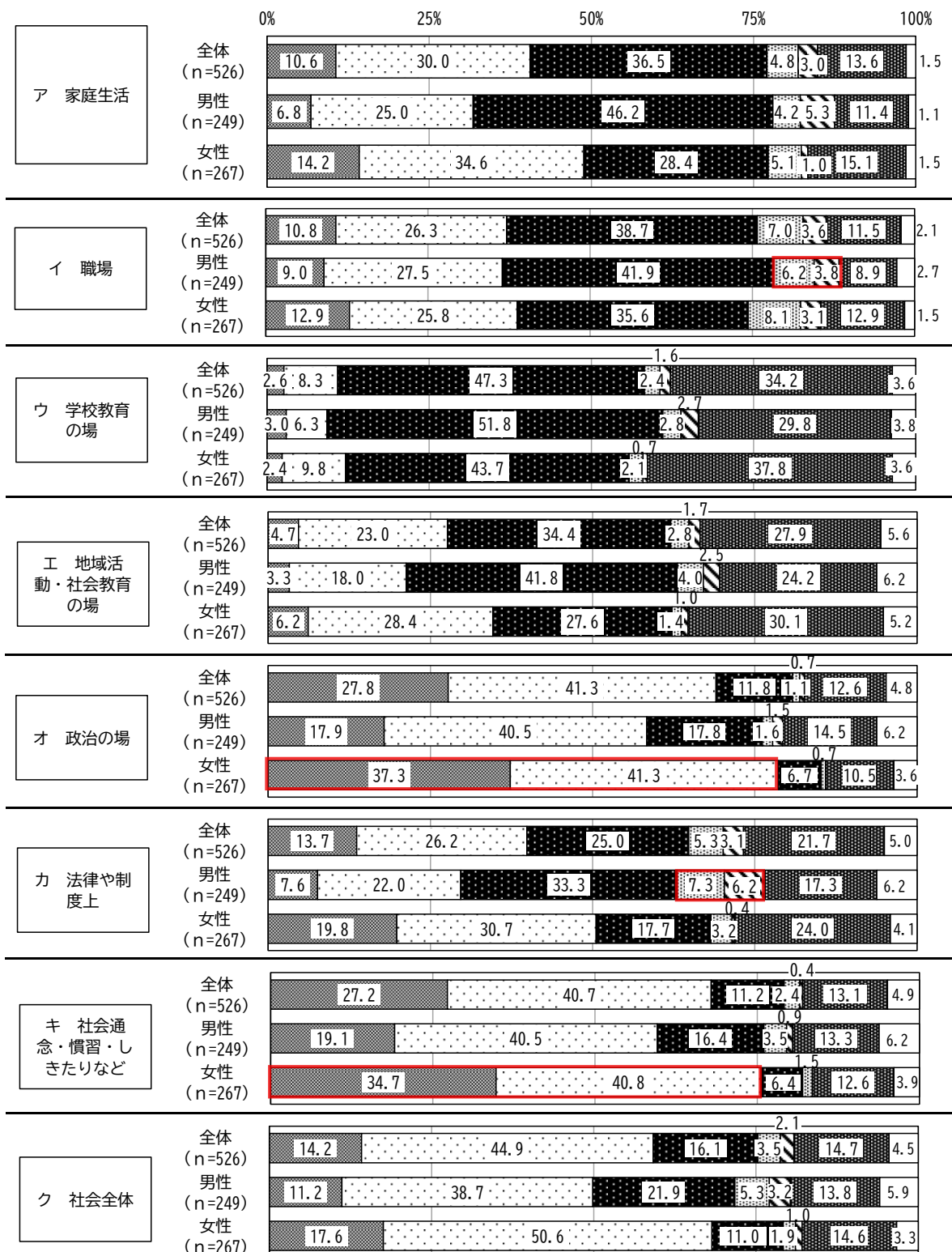
『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）と『女性優遇』（「女性の方が優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）を比較すると、「オ 政治の場」「キ 社会通念・慣習・しきたりなど」「ク 社会全体でみた場合」において、『男性優遇』は6～7割と非常に高い傾向となっている。

問1 男女平等に関する意識について

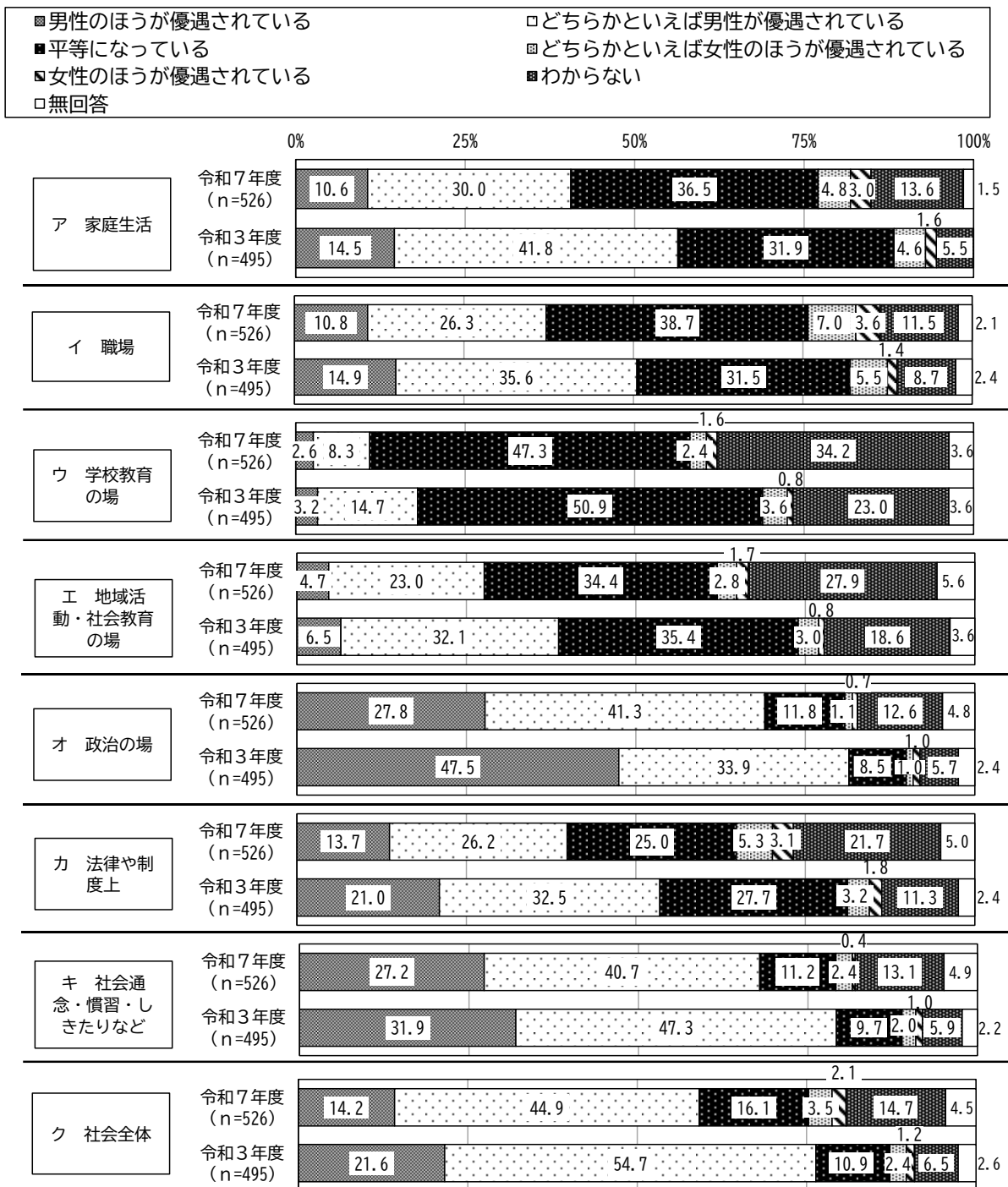


性別にみると、男性は『女性優遇』について「カ 法律や制度上での扱い」が13.5%と最も割合が高く、次いで「イ 職場」が10.0%となっている。女性は『男性優遇』について「オ 政治の場」が78.6%と最も割合が高く、次いで「キ 社会通念・慣習・しきたりなど」が75.5%となっている。

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| ■ 男性のほうが優遇されている | □ どちらかといえば男性が優遇されている |
| ■ 平等になっている | □ どちらかといえば女性のほうが優遇されている |
| □ 女性のほうが優遇されている | ■ わからない |
| □ 無回答 | |



参考までに令和3年度調査結果と比較すると、「平等になっている」が上昇した項目をみると、「イ 職場」が+7ポイント、次いで「ア 家庭生活」及び「ク 社会全体」が+5ポイントとなっている。一方、低下した項目は「ウ 学校教育の場」が-4ポイント、次いで「カ 法律や制度上での扱い」が-3ポイントとなっている。



3) 家庭生活について

【問2～3は、Dで「1. 結婚している」、「2. 結婚していないがパートナーと暮らしている」と回答した方】

問2 あなたの家庭では、ア～クの家庭内の事柄を主にどなたが行っていますか。

ア～クについて、あてはまる選択肢（番号）を選んでください。（○はそれぞれ1つ）

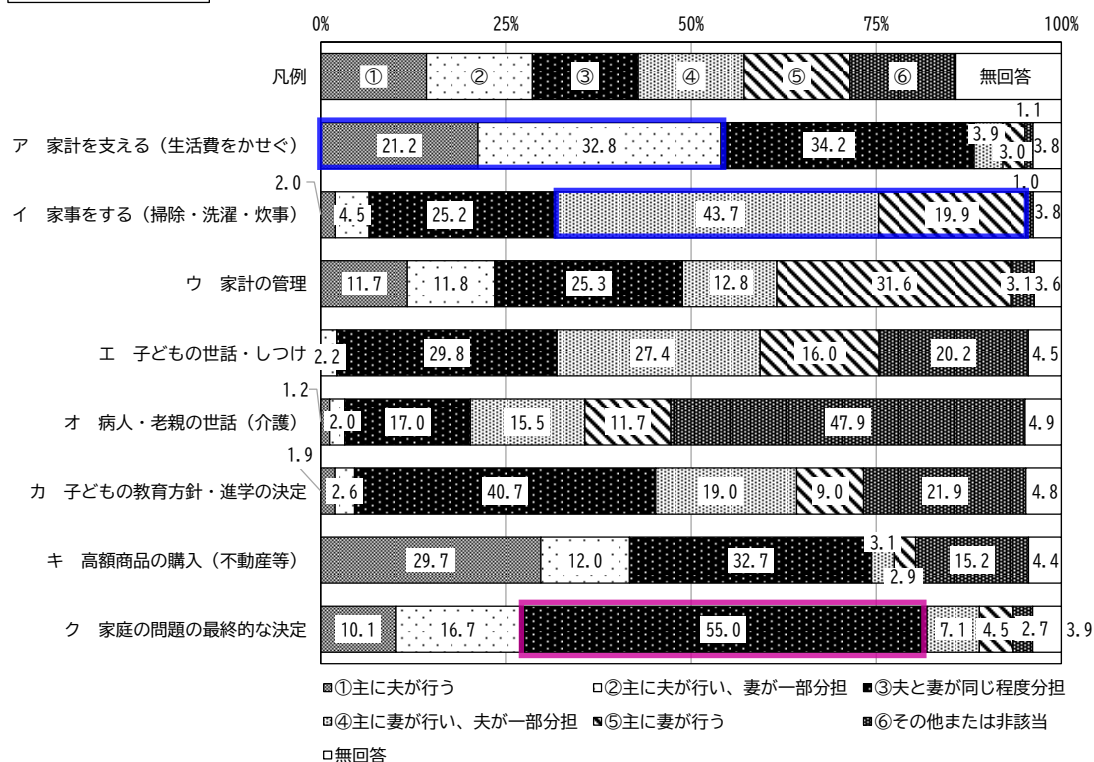
項目	選択肢	行主 うに 夫が	一 行主 に、 妻が 一部 分担	分 同 夫 と 妻 が 同 じ 程 度 分 担	一 行主 に、 夫が 一部 分担	行主 うに 妻が	非 ま 該 当 そ の 他
ア 家計を支える（生活費をかせぐ）		1	2	3	4	5	6
イ 家事をする（掃除・洗濯・炊事）		1	2	3	4	5	6
ウ 家計の管理		1	2	3	4	5	6
エ 子どもの世話・しつけ		1	2	3	4	5	6
オ 病人・老親の世話（介護）		1	2	3	4	5	6
カ 子どもの教育方針・進学の設定		1	2	3	4	5	6
キ 高額商品の購入（不動産等）		1	2	3	4	5	6
ク 家庭の問題の最終的な決定		1	2	3	4	5	6

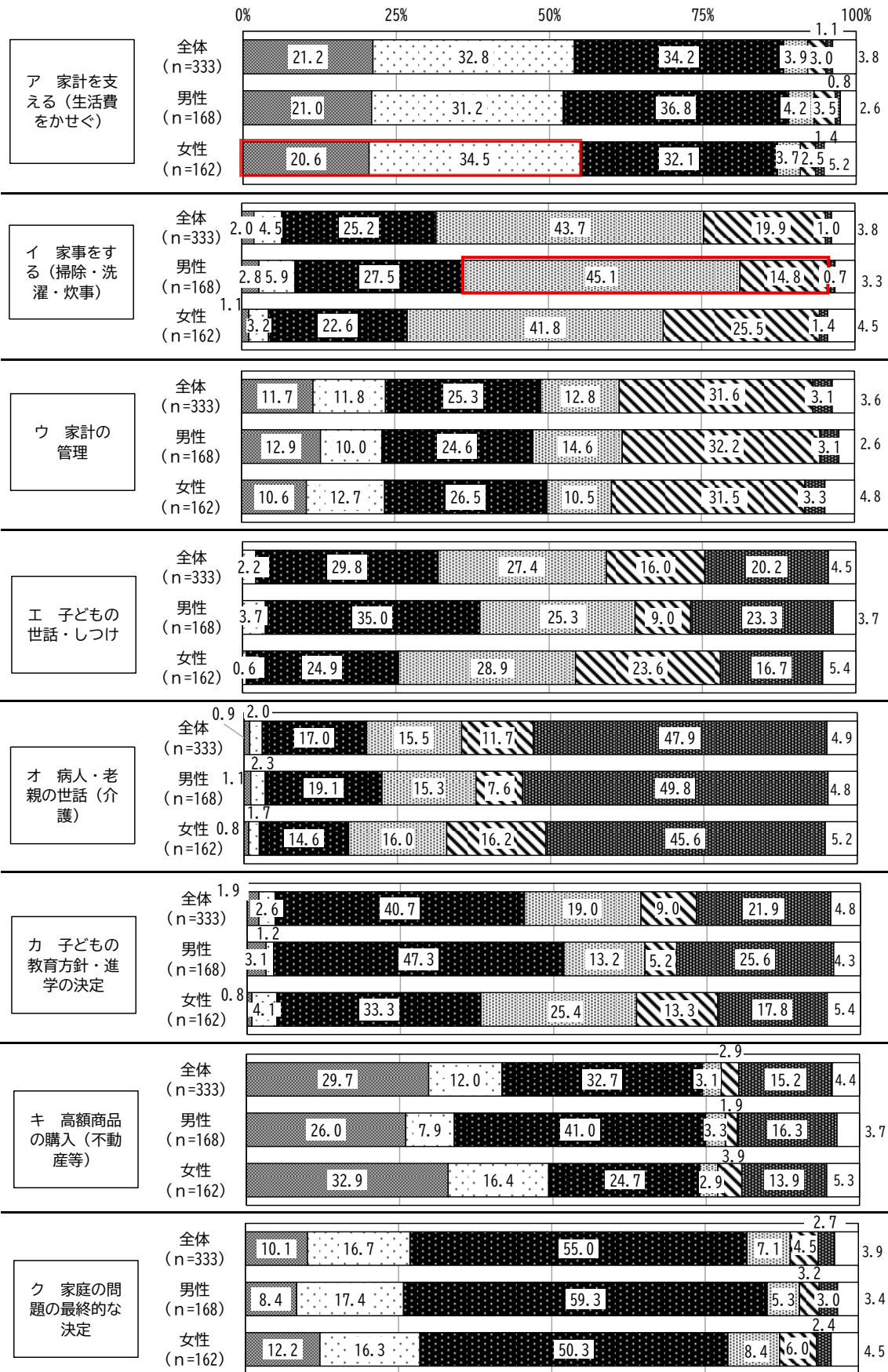
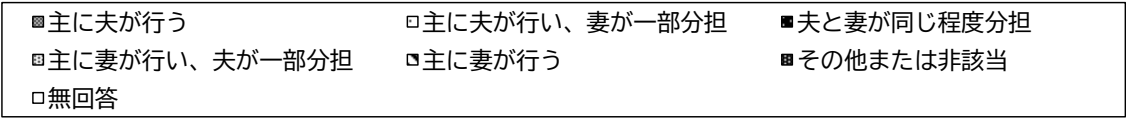
配偶者（またはパートナー）がいる回答者の家庭生活における役割をみると、「ア 家計を支える」「エ 子どもの世話・しつけ」「カ 子どもの教育方針・進学の設定」「ク 家庭の問題の最終的な決定」については、「夫と妻が同じ程度分担」の割合が最も高い。特に「ク 家庭の問題の最終的な決定」に関しては55.0%と5割以上を占めている。

一方で、「イ 家事をする（掃除・洗濯・炊事）」は『妻の役割』（「主に妻が行い、夫が一部分担」+「主に妻が行う」）のほうが+57ポイント高く、「ア 家計を支える」は『夫の役割』（「主に夫が行う」+「主に夫が行い、妻が一部分担」）のほうが+47ポイント高くなっている。

性別にみると、『妻の役割』について男性は「イ 家事をする（掃除・洗濯・炊事）」が59.9%と最も割合が高く、次いで「ウ 家計の管理」が46.8%となっている。『夫の役割』について、女性は「ア 家計を支える（生活費をかせぐ）」が55.1%と最も割合が高く、次いで「キ 高額商品の購入（不動産等）」が49.3%となっている。

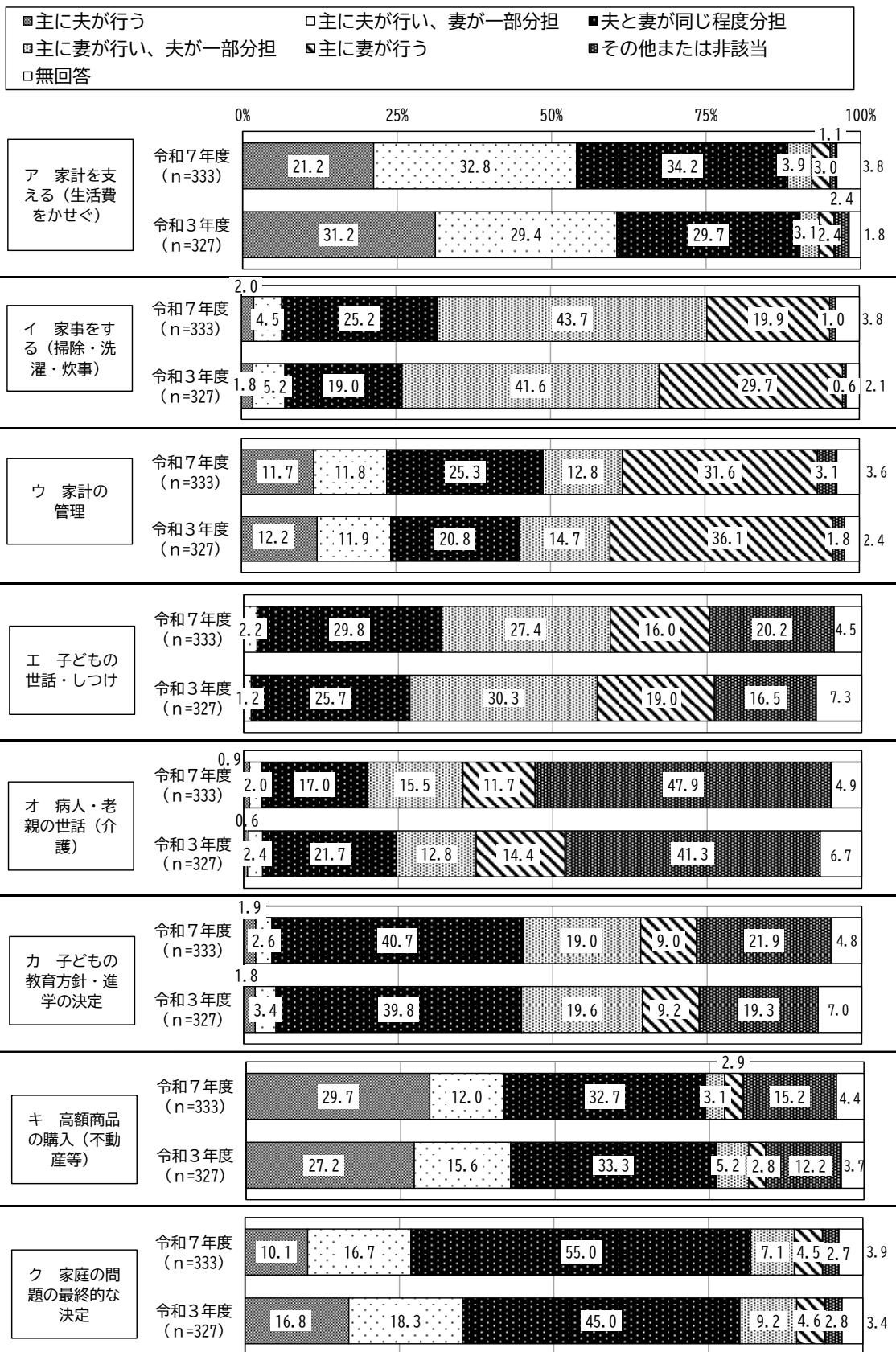
問2 家庭生活について





参考までに令和3年度調査結果と比較すると、「夫と妻が同じ程度分担」が上昇した項目をみると、「ク 家庭の問題の最終的な決定」が+10ポイント、次いで「イ 家事をする（掃除・洗濯・炊事）」が+6ポイントとなっている。

低下した項目は「オ 病人・老親の世話（介護）」が-5ポイント、次いで「キ 高額商品の購入（不動産等）」が-1ポイントとなっている。



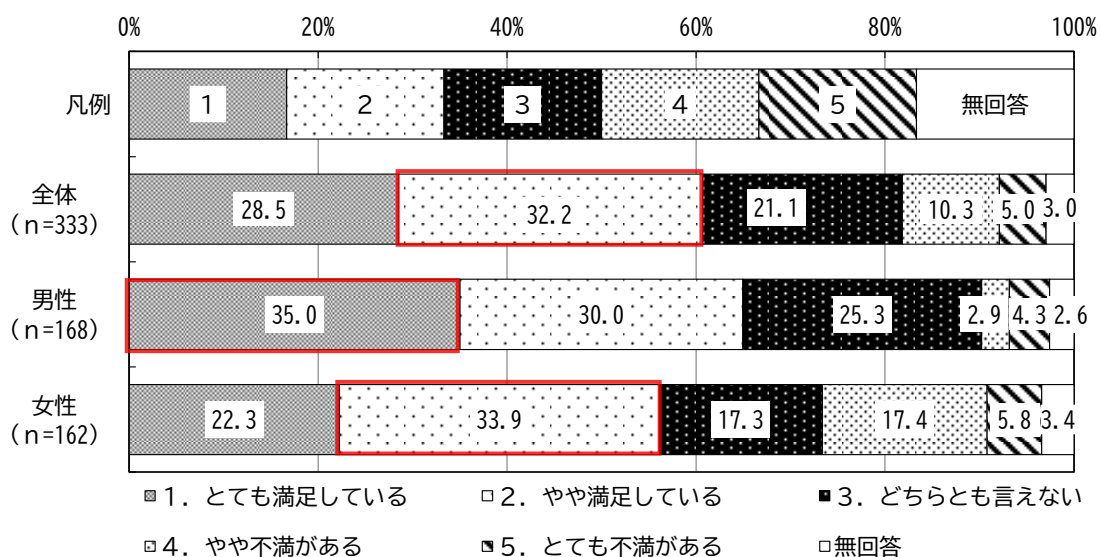
問3 あなたは、現在の家庭内の役割分担（家計・家事・育児等）に、どの程度満足していますか。
 (○は1つ)

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. とても満足している | 2. やや満足している |
| 3. どちらとも言えない | 4. やや不満がある |
| 5. とても不満がある | |

現在の家庭内の役割分担の満足度について、「2. やや満足している」が32.2%と最も割合が高い。次いで「1. とても満足している」が28.5%、「3. どちらとも言えない」が21.2%となっている。

性別にみると、男性は「1. とても満足している」が35.0%と最も割合が高く、次いで「2. やや満足している」が30.0%となっている。女性は「2. やや満足している」が33.9%と最も割合が高く、次いで「1. とても満足している」が22.3%となっている。

問3 家庭内の役割分担について

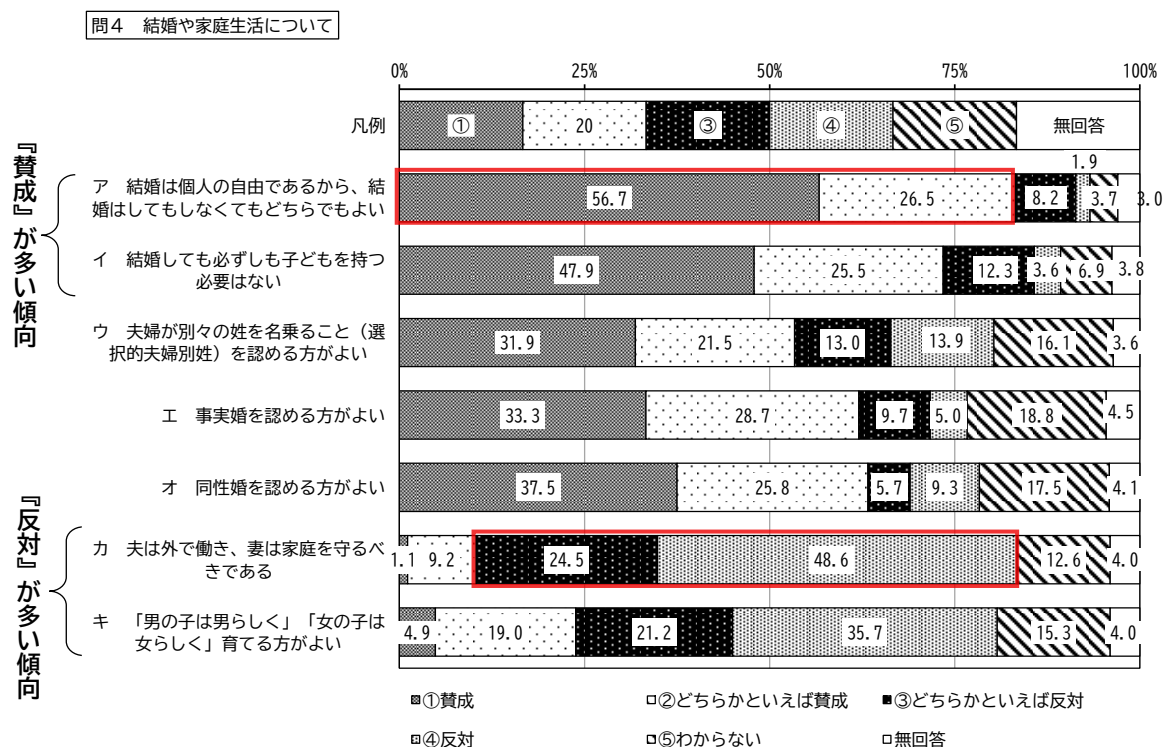


問4 結婚や家庭生活に関するア～キについて、あなたの考えに近い選択肢（番号）を選んでください。（○はそれぞれ1つ）

項目	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない
ア 結婚は個人の自由であるから、結婚はしてもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
イ 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
ウ 夫婦が別々の姓を名乗ること（選択的夫婦別姓）を認めるほうがよい	1	2	3	4	5
エ 事実婚を認めるほうがよい	1	2	3	4	5
オ 同性婚を認めるほうがよい	1	2	3	4	5
カ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
キ 「男の子は男らしく」「女の子は女らしく」育てるほうがよい	1	2	3	4	5

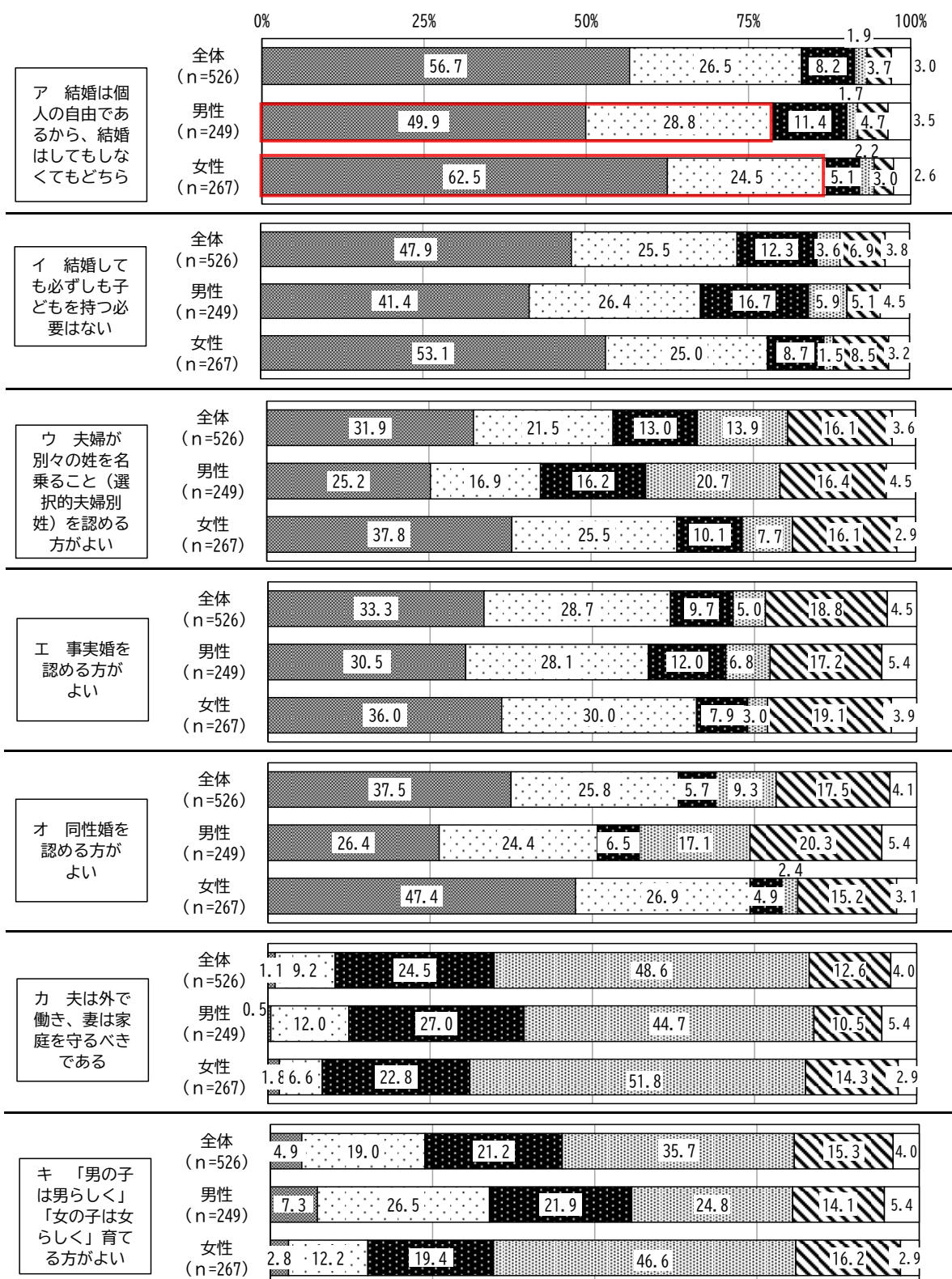
結婚や家庭生活に関する考えについて、『賛成』（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）をみると、「ア 結婚は個人の自由であるから、結婚はしてもしなくてもどちらでもよい」が83.2%と最も割合が高く、次いで「イ 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」が73.4%となっている。

一方、『反対』（「どちらかといえば反対」+「反対」）をみると、「カ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」が73.1%と最も割合が高く、次いで「キ 『男の子は男らしく』『女の子は女らしく』育てるほうがよい」が56.9%となっている。



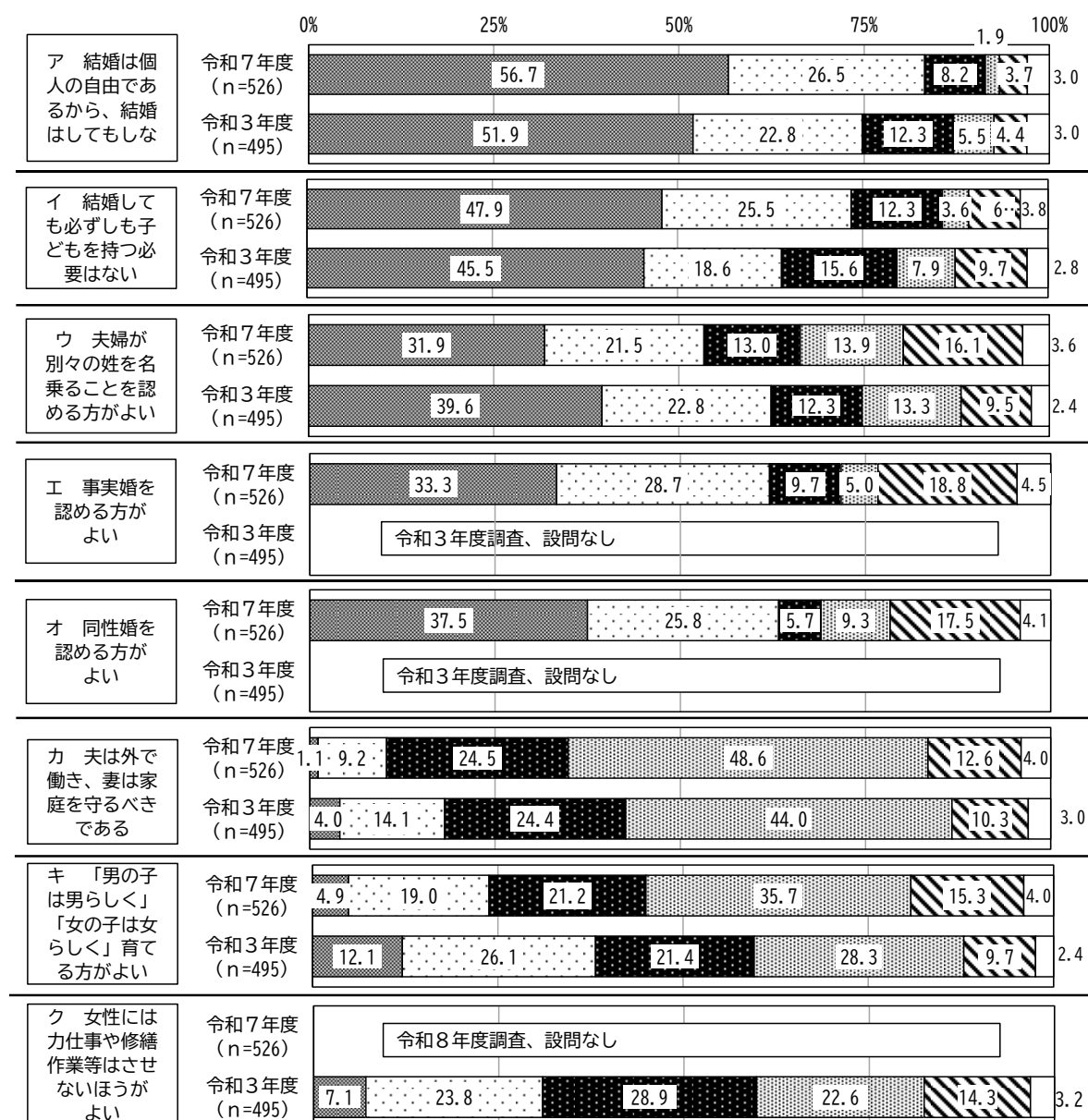
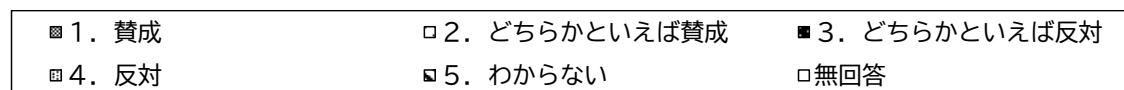
性別にみると、『賛成』について、男性は「ア 結婚は個人の自由であるから、結婚はしてもしなくてもどちらでもよい」が78.7%と最も割合が高く、次いで「イ 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」が67.8%となっている。女性は「ア 結婚は個人の自由であるから、結婚はしてもしなくてもどちらでもよい」が87.0%と最も割合が高く、次いで「イ 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」が78.1%となっている。

■ 1. 賛成 □ 2. どちらかといえば賛成 ■ 3. どちらかといえば反対 □ 4. 反対 ■ 5. わからない □ 無回答



参考までに令和3年度調査結果と比較すると、『賛成』が上昇した項目をみると、「イ 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」が+9ポイント、次いで「ア 結婚は個人の自由であるから、結婚はしてもしなくてもどちらでもよい」が+8ポイントとなっている。

低下した項目は「キ 「男の子は男らしく」「女の子は女らしく」育てるほうがよい」が-14ポイント、次いで「ウ 夫婦が別々の姓を名乗ること（選択的夫婦別姓）を認めるほうがよい」が-9ポイントとなっている。



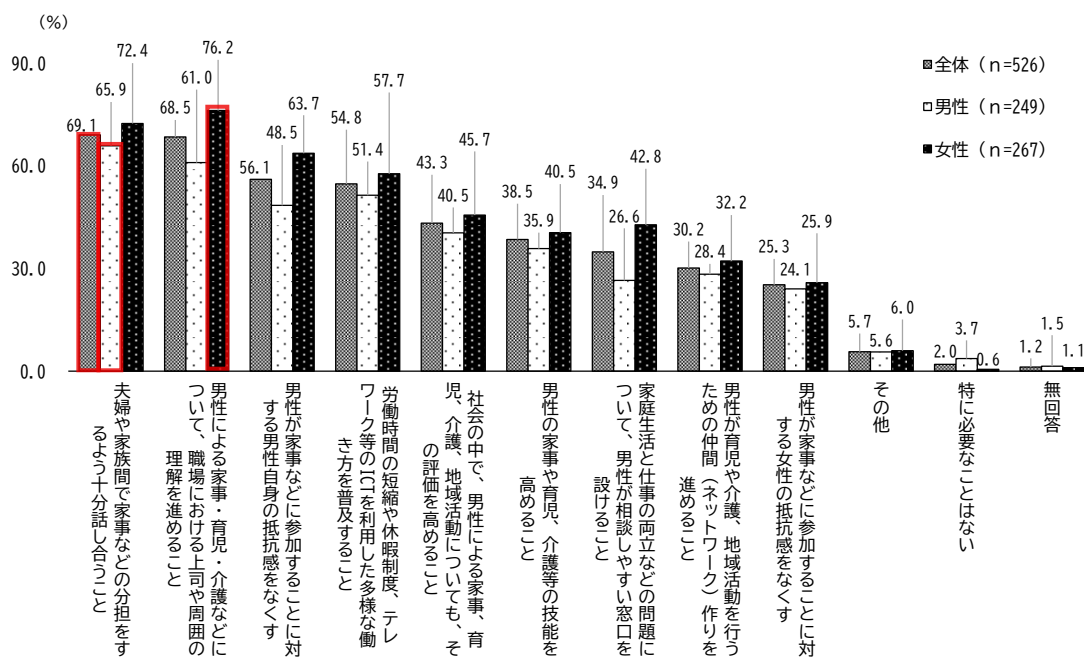
問5 あなたは今後、男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす
3. 夫婦や家族間で家事などの分担をするよう十分話し合うこと
4. 男性による家事・育児・介護などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
5. 労働時間の短縮や休暇制度、テレワーク等の ICT を利用した多様な働き方を普及すること
6. 社会の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動についても、その評価を高めること
7. 男性の家事や育児、介護等の技能を高めること
8. 男性が育児や介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）作りを進めること
9. 家庭生活と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
10. その他（具体的に）
11. 特に必要なことはない

男性が家事等に積極的に参加するにあたって必要なことを尋ねたところ、「3. 夫婦や家族間で家事などの分担をするよう十分話し合うこと」が69.1%と最も割合が高くなっている。次いで、「4. 男性による家事・育児・介護などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が68.5%、「1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」が56.1%、「5. 労働時間の短縮や休暇制度、テレワーク等の ICT を利用した多様な働き方を普及すること」が54.8%となっている。

性別にみると、男性は「3. 夫婦や家族間で家事などの分担をするよう十分話し合うこと」が65.9%と最も割合が高く、次いで「4. 男性による家事・育児・介護などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が61.0%となっている。女性は「4. 男性による家事・育児・介護などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が76.2%と最も割合が高く、次いで「3. 夫婦や家族間で家事などの分担をするよう十分話し合うこと」が72.4%となっている。

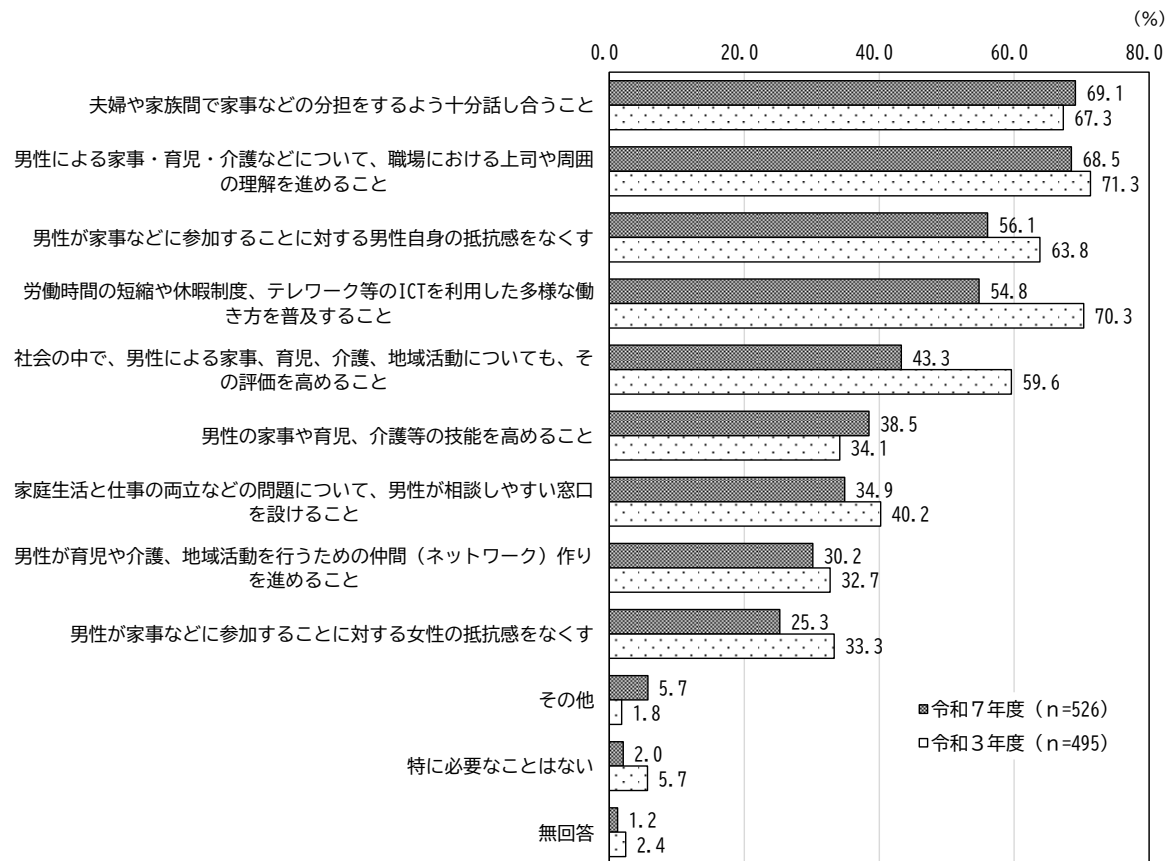
問5 男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要だと思うこと（複数回答）



参考までに令和3年度調査結果と比較すると、上昇した項目については、「7. 男性の家事や育児、介護等の技能を高めること」が+4ポイント、次いで「3. 夫婦や家族間で家事などの分担をするよう十分話し合うこと」が+2ポイントとなっている。

低下した項目については、「5. 労働時間の短縮や休暇制度、テレワーク等のICTを利用した多様な働き方を普及すること」及び「6. 社会の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動についても、その評価を高めること」が-16ポイントとなっている。

問5 男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要だと思うこと（複数回答）



【その他】

家庭生活と仕事の両立などの問題について、女性が相談しやすい窓口を設けること/前提として女性がそれを望んでいること/女性も働きながら育児や家庭のことを誰かに評価されようとして行なっているわけではない、男性だからとかではないと思う/職場や社会の理解の啓発活動を進める/子どもの頃からの教育(世間の意識改革)/家事を行うことが当たり前であると考え方を改めることが大事。指示される、頼まれるのでは無く自分から行動する意識改革が必要/産後ケア施設、支援センターなど母親向けのサービスを男女平等に提供する/専業主夫を世間的に認めること/男性も女性も仕事を持ち、家庭は各々の家庭で両立させて欲しい/家庭に根付いている「嫁は夫の実家に入る、介護をする」などの考え方を正す。家庭内にある夫が主人であるという考え方をなくす/男性とか、女性とかは関係ないと思います。誰が稼いでもいいのですが1人の収入で生活できる事が当たり前の社会になってほしいです。そこで共働きを選択するのか、主婦、主夫を選択するのか夫婦で話し合えばいいと思います/家庭内で男女が納得していれば、なんら問題なし/二人の間にできた子は女が責任を持って育てる、男は仕事せよ/幼少期から教育として男児女児ともに自立することを前提とする生活を送る/男、本人次第/人として、金のために働き、生きるためにそうじ、食事、洗濯する事を学校でも又、地域でも根づかせてほしい。人として、生きるために何が必要か/男性・女性どちらも男性が家事を「手伝う」みたいな考え方、捉え方から変わる必要があるかと思う。一緒に住んでいるからチームとして一緒にやるとか相談しながらやるとか考え方をすり合わせていくことが大切だと思う/仕事人間の男が退職後の行き場等（家事教室とか）を作る/子どもの時からしっかり男が家事するのは当たり前だということを教育する/ふたりで子どもを育てると決めたのに、いざとなれば女性任せ。お金を稼ぐ人がえらいみたいな考え方の変容/参加しなかったとしても批判しない事、自由で良い/育休制度などある程度法で定めて国が推奨すること/産院などで父親教室やテキストなどで子育てへの理解を深める機会があるとよい/常に全てこなしています/男性が結婚しない/個人的に男性が料理や育児に参加すること/男性の家事などが当たり前でできる社会、環境づくり（男子トイレにベビーシートなどが当たり前にあるなど）/お互いに日頃から自身にできることは積極的に協力し合う意識や行動が必要では

4) 仕事について

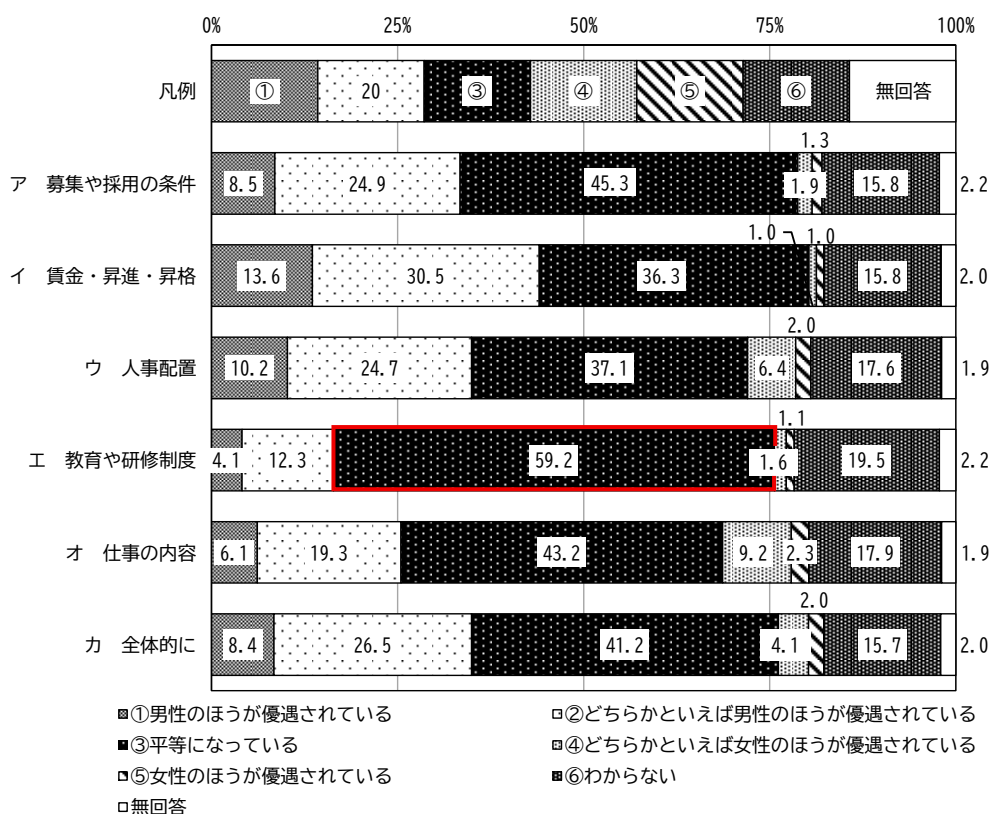
問6 あなたは、職場において、次にあげるア～カについて性別によって差があると思いますか。あなたの考えに近い選択肢（番号）を選んでください。（○はそれぞれ1つ）

項目	選択肢	男性のほう が優遇 されている	男性のほう が優遇 されている どちらか といえば	平等に なっている	女性 のほう が優遇 されている	女性 のほう が優遇 されている どちらか といえば	わからない
		1	2	3	4	5	6
ア 募集や採用の条件		1	2	3	4	5	6
イ 賃金・昇進・昇格		1	2	3	4	5	6
ウ 人事配置		1	2	3	4	5	6
エ 教育や研修制度		1	2	3	4	5	6
オ 仕事の内容		1	2	3	4	5	6
カ 全体的に		1	2	3	4	5	6

職場における性差に対する考えをみると、すべての項目において「平等になっている」が最も高い割合となっており、特に「エ 教育や研修制度」については59.2%と約6割を占めている。

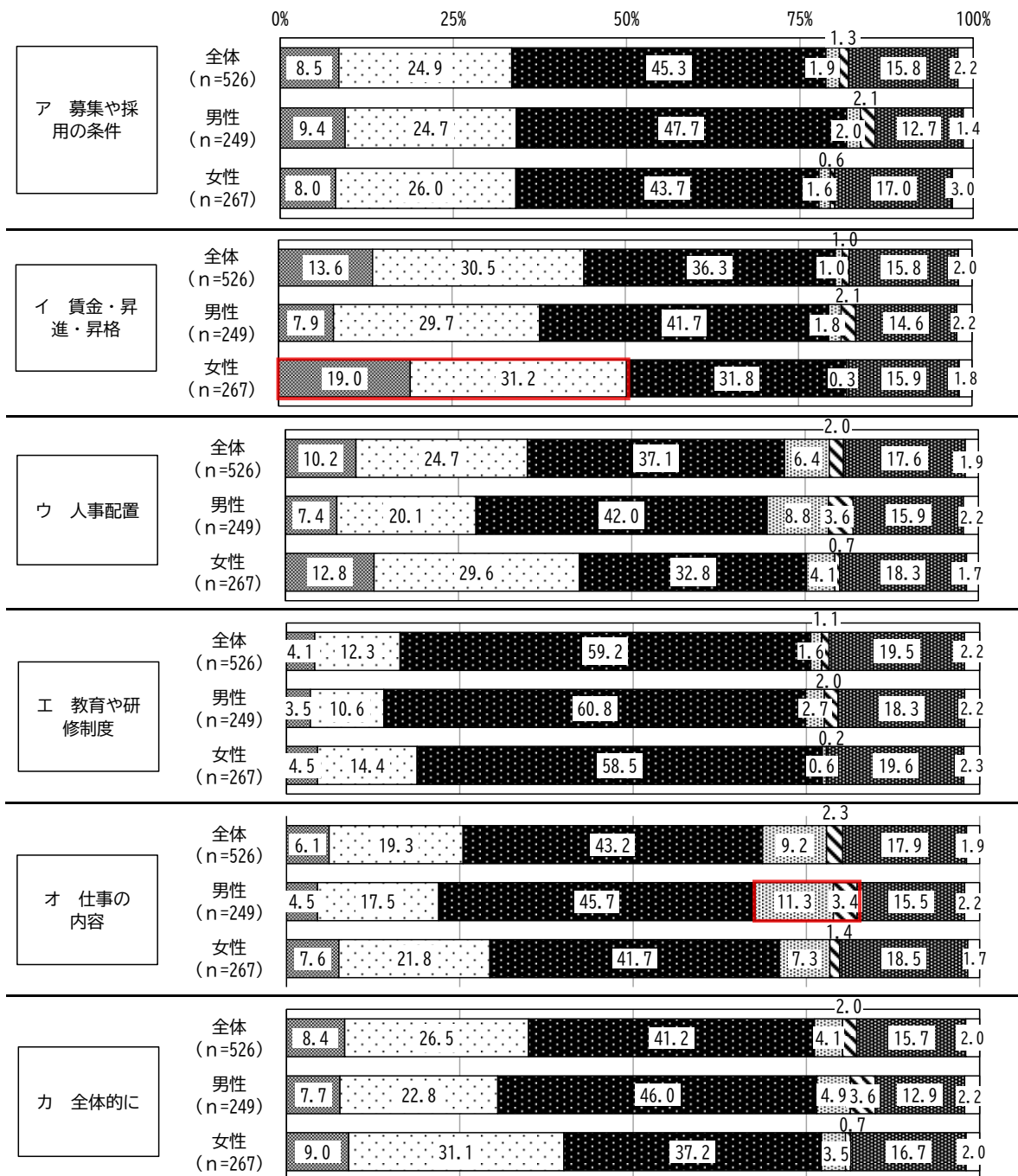
一方で、「イ 賃金・昇進・昇格」については『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）のほうが、『女性優遇』（「女性の方が優遇されている」＋「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）よりも42ポイント高くなっており、次いで「ア 募集や採用の条件」（＋30ポイント）、「カ 全体的に」（＋29ポイント）、「ウ 人事配置」（＋27ポイント）となっている。

問6 職場における性別による対応や評価の差

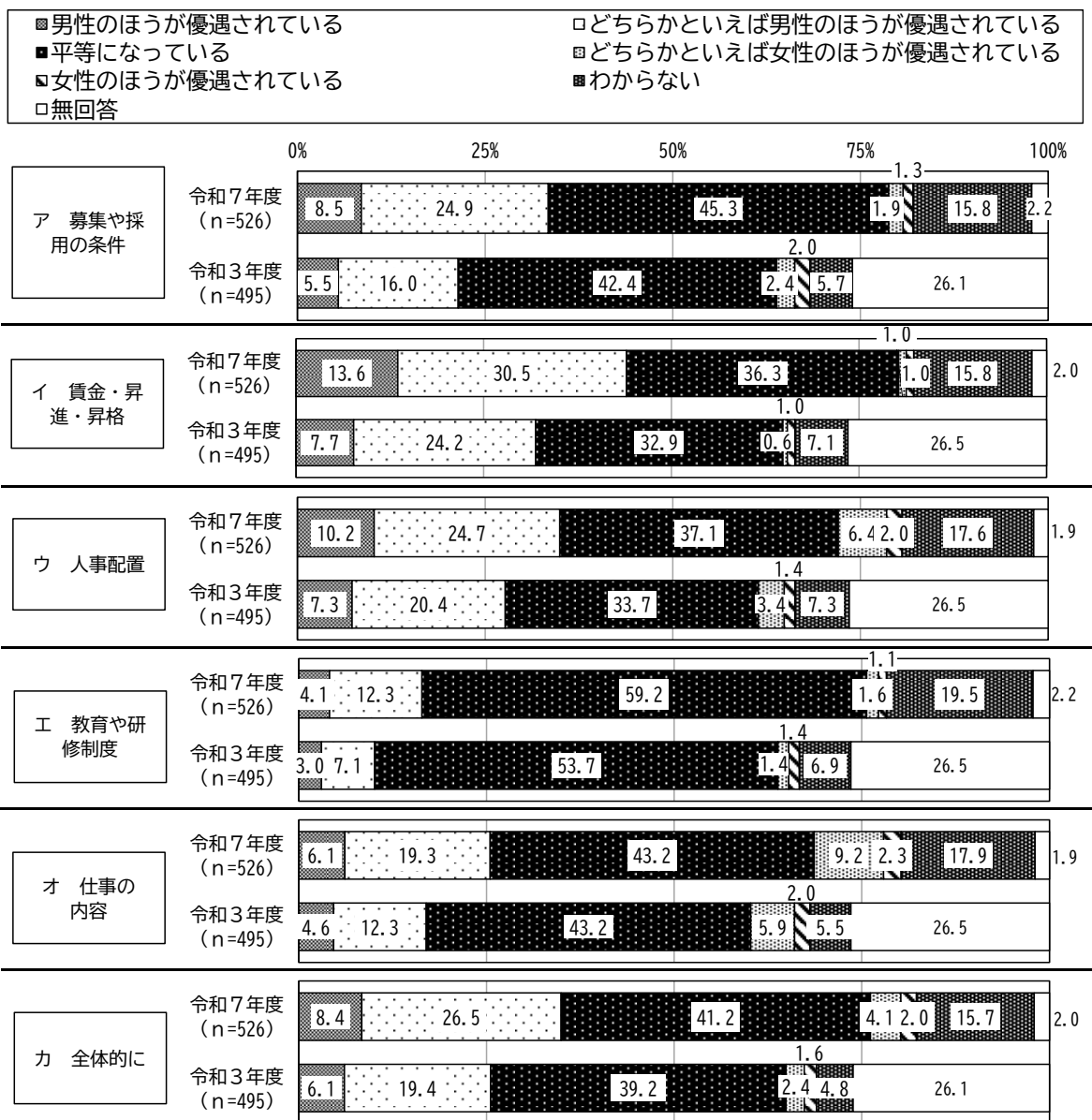


性別にみると、男性は『女性優遇』について「オ 仕事の内容」が14.7%と最も割合が高く、次いで「ウ 人事配置」が12.4%となっている。女性は『男性優遇』について「イ 賃金・昇進・昇格」が50.2%と最も割合が高く、次いで「ウ 人事配置」が42.4%となっている。

- 男性のほうが優遇されている
- 平等になっている
- 女性のほうが優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- わからない



参考までに令和3年度調査結果と比較すると、「平等になっている」が上昇した項目をみると、「エ 教育や研修制度」が+6ポイント、次いで「ア 募集や採用の条件」及び「イ 賃金・昇進・昇格」、「ウ 人事配置」が+3ポイントとなっている。なお、低下した項目は0件となっている。



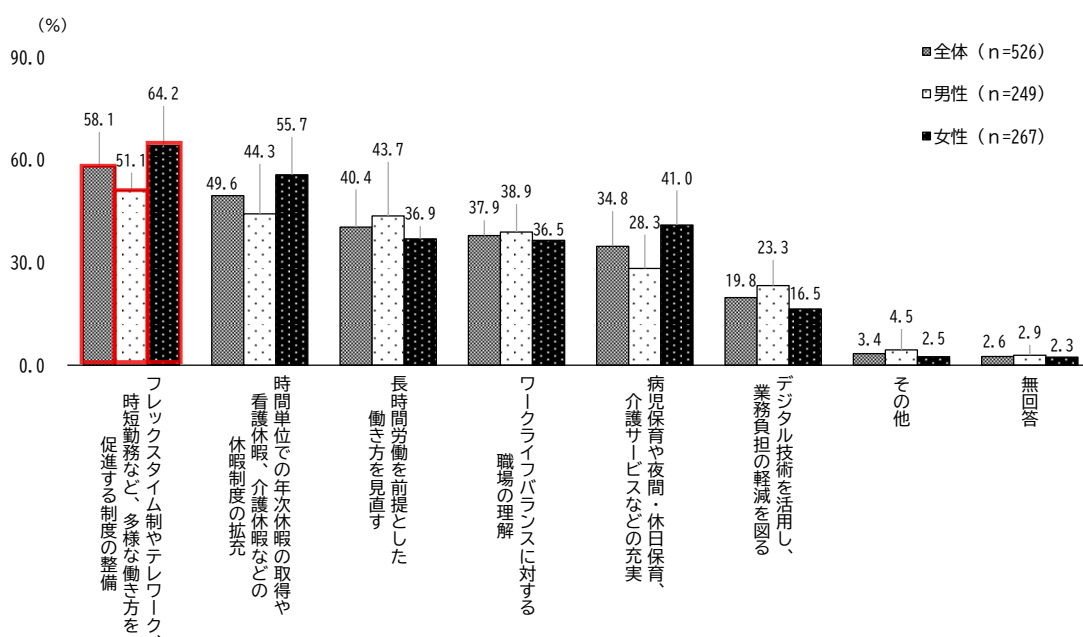
問7 あなた自身は、仕事も私生活もバランスよく両立させるために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1. フレックスタイム制やテレワーク、時短勤務など、多様な働き方を促進する制度の整備
2. 長時間労働を前提とした働き方を見直す
3. 時間単位での年次休暇の取得や看護休暇、介護休暇などの休暇制度の拡充
4. 病児保育や夜間・休日保育、介護サービスなどの充実
5. デジタル技術を活用し、業務負担の軽減を図る
6. ワークライフバランスに対する職場の理解
7. その他(具体的に)

仕事と私生活の両立に必要なことについて、「1. フレックスタイム制やテレワーク、時短勤務など、多様な働き方を促進する制度の整備」が58.1%と最も割合が高く、次いで「3. 時間単位での年次休暇の取得や看護休暇、介護休暇などの休暇制度の拡充」が49.6%、「2. 長時間労働を前提とした働き方を見直す」が40.4%となっている。

性別にみると、男性は「1. フレックスタイム制やテレワーク、時短勤務など、多様な働き方を促進する制度の整備」が51.1%と最も割合が高く、次いで「3. 時間単位での年次休暇の取得や看護休暇、介護休暇などの休暇制度の拡充」が44.3%となっている。女性も「1. フレックスタイム制やテレワーク、時短勤務など、多様な働き方を促進する制度の整備」が64.2%と最も割合が高く、次いで「3. 時間単位での年次休暇の取得や看護休暇、介護休暇などの休暇制度の拡充」が55.7%となっている。

問7 仕事も私生活もバランスよく両立させるために、必要だと思うこと(複数回答)



【その他】給与を補填する制度/給与アップ一択/私生活大事にしたい人への理解も必要、長く働きたいと思う人への理解も必要だと思う/医療職の人員不足/仕事の有無に関わらず子どもの預り制度の見直し/制度はあっても使いにくい職場の雰囲気改善・職場全体の理解を深める/入った時からある賃金の男女差をなくす/自身の仕事をアウトソーシングする/基本給(ベースアップ)、税が上がったことによる負担軽減対策/本人に合わせた働き方をさせる。働いて移りたい人はいるので/勤務希望(休み3日まで)が少ない日数だと用事ができない。シフトに関してももっと優遇してほしい/仕事の疲れをとるために休日はダラダラ過ごすのではなく、休日を楽しみ過ごすために仕事を頑張る。限られた時間内で効率よく業務をこなすために工夫する(ダラダラおしゃべりをしたり、ネットサーフィンしたりしない)。ワーク・ライフ・バランスに対する職場の理解ではなく、個人個人の捉え方、過ごし方を変えないと両立は難しいと思う。もっと休日がほしい、もっと残業減らせになっちゃわないか。研修も仕事と捉えて自己研鑽しない人も増えているように感じる。研修はあくまで自分の技術・知識のアップデートのためだと思うのだが/生理休暇年5日でもいいから有休でほしい/働き手が選択できる自由(今は働くことが集中すべき時か否か。学ぶべき時か否かを自由に選択できる雰囲気)

【現在働いている方（問Cで選択肢1～7を選んだ方）】

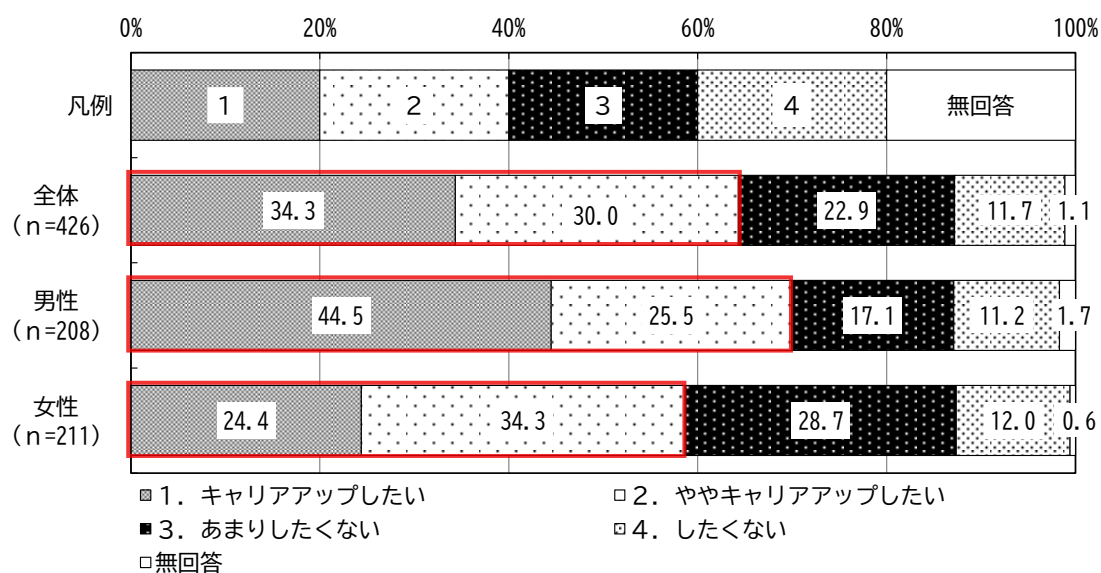
問8 あなたのキャリアアップへの考えについてお答えください。（○は1つ）

1. キャリアアップしたい	2. ややキャリアアップしたい	⇒問10へ
3. あまりしたくない	4. したくない	⇒問9へ

キャリアアップへの考えを尋ねたところ、『キャリアアップしたい』（「1. キャリアアップしたい」＋「2. ややキャリアアップしたい」）が64.3%、『キャリアアップしたくない』（「3. あまりしたくない」＋「4. したくない」）が34.6%となっている。

性別にみると、男性は『キャリアアップしたい』が70.0%、『キャリアアップしたくない』が28.3%となっている。女性は『キャリアアップしたい』が58.7%、『キャリアアップしたくない』が40.7%となっている。

問8 あなたのキャリアアップ(管理職への昇進など)への考えについて(n=426)



問9 【問8で「3. (キャリアアップを) あまりしたくない」「4. したくない」と答えた方】へ、その理由をお答えください。(〇はいくつでも)

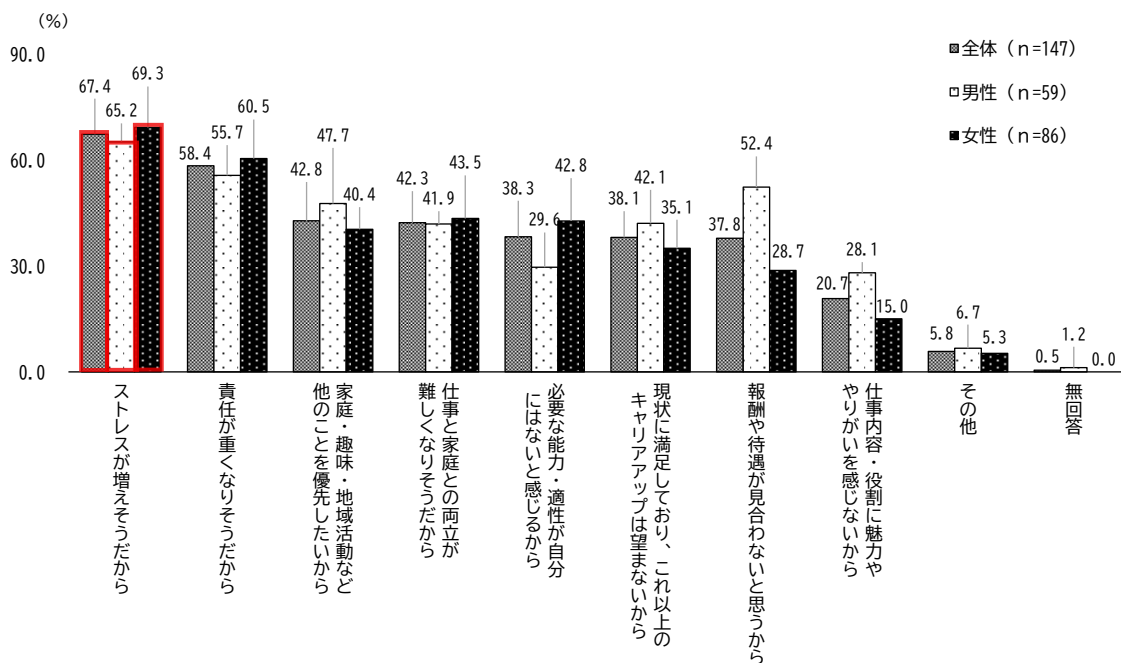
1. 責任が重くなりそうだから
2. ストレスが増えそうだから
3. 仕事と家庭との両立が難しくなりそうだから
4. 必要な能力・適性が自分にはないと感じるから
5. 仕事内容・役割に魅力ややりがいを感じないから
6. 報酬や待遇が見合わないと思うから
7. 現状に満足しており、これ以上のキャリアアップは望まないから
8. 家庭・趣味・地域活動など他のことを優先したいから
9. その他 (具体的に)

キャリアアップを「あまりしたくない」「したくない」と回答した理由をみると、「2. ストレスが増えそうだから」(67.4%)や「1. 責任が重くなりそうだから」(58.4%)といった精神的負担に関する理由が高い傾向となっている。

次いで、「8. 家庭・趣味・地域活動など他のことを優先したいから」(42.8%)、「3. 仕事と家庭との両立が難しくなりそうだから」(42.3%)といったプライベートや家庭生活に関する理由が続いている。

性別にみると、男性は「2. ストレスが増えそうだから」が65.2%と最も割合が高く、次いで「1. 責任が重くなりそうだから」が55.7%となっている。女性も「2. ストレスが増えそうだから」が69.3%と最も割合が高く、次いで「1. 責任が重くなりそうだから」が60.5%となっている。

問9 「3. (キャリアアップを) あまりしたくない」「4. したくない」と答えた理由 (複数回答)



【その他】どれだけやっても同じ。やらないやれない人も同じ/年なので/年齢的にも現状で良い/来年定年をむかえる/年齢的に仕事を辞めたいから/シングルでパートをしています、就職を他で考えているから/現在、定年退職をしたあとの仕事なのでゆっくり過ごしたい

5) ハラスメント/配偶者等からの暴力について

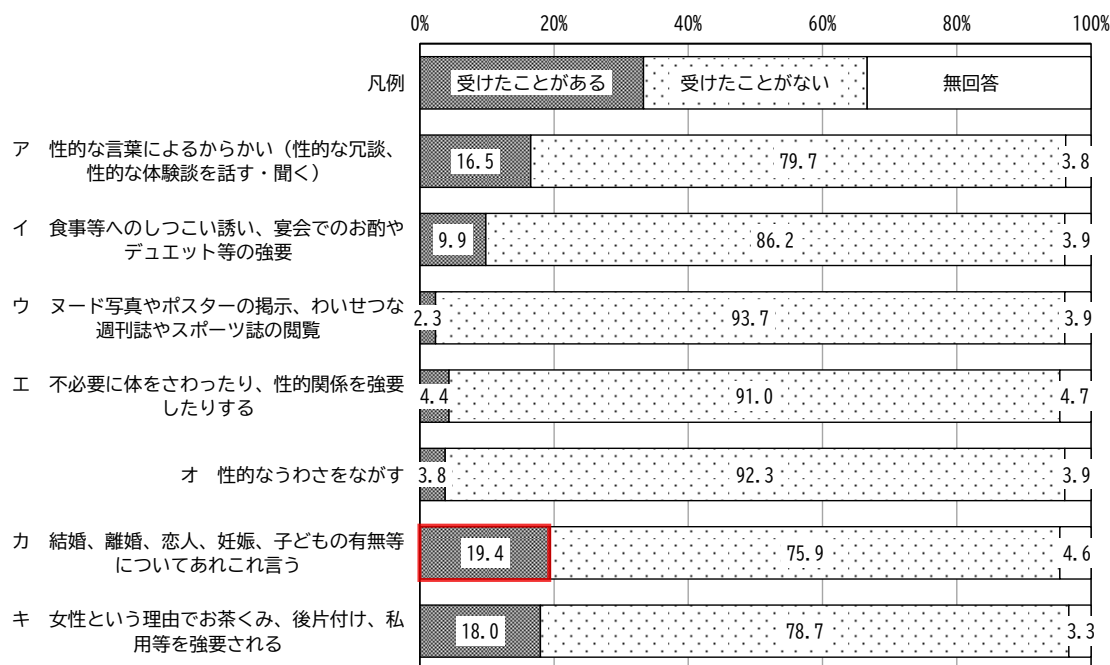
問 10 あなたは、過去5年ほどの間に、職場や学校、地域などで次にあげるア～キのようなセクシュアル・ハラスメント（性的な言動による不快な経験）を受けたことがありますか。あてはまる選択肢（番号）を選んでください。（○はそれぞれ1つ）

項目	選択肢	受けたことがある	受けたことがない
ア 性的な言葉によるからかい（性的な冗談、性的な体験談を話す・聞く）		1	2
イ 食事等へのしつこい誘い、宴会でのお酌やデュエット等の強要		1	2
ウ ヌード写真やポスターの掲示、わいせつな週刊誌やスポーツ誌の閲覧		1	2
エ 不必要に体をさわったり、性的関係を強要したりする		1	2
オ 性的なうわさをながす		1	2
カ 結婚、離婚、恋人、妊娠、子どもの有無等についてあれこれ言う		1	2
キ 女性という理由でお茶くみ、後片付け、私用等を強要される ※女性のみ回答してください		1	2

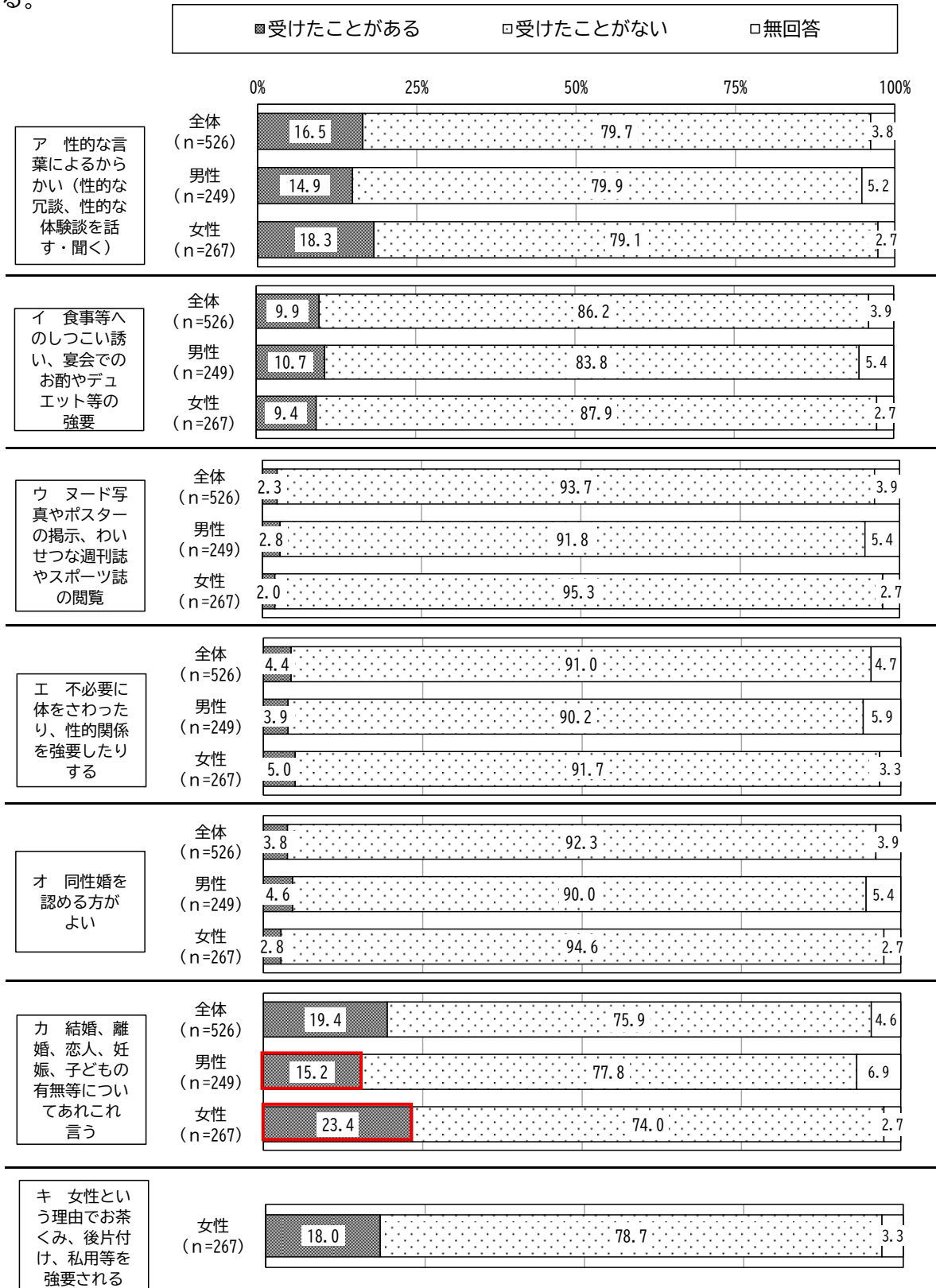
職場や学校、地域等におけるセクシュアル・ハラスメントについて、全項目において「受けたことがない」が75%以上を占めている。

「受けたことがある」の内訳をみると、「カ 結婚、離婚、恋人、妊娠、子どもの有無等についてあれこれ言う」が19.4%と最も高く、次いで「キ 女性という理由でお茶くみ、後片付け、私用等を強要される」が18.0%、「ア 性的な言葉によるからかい」が16.5%となっている。

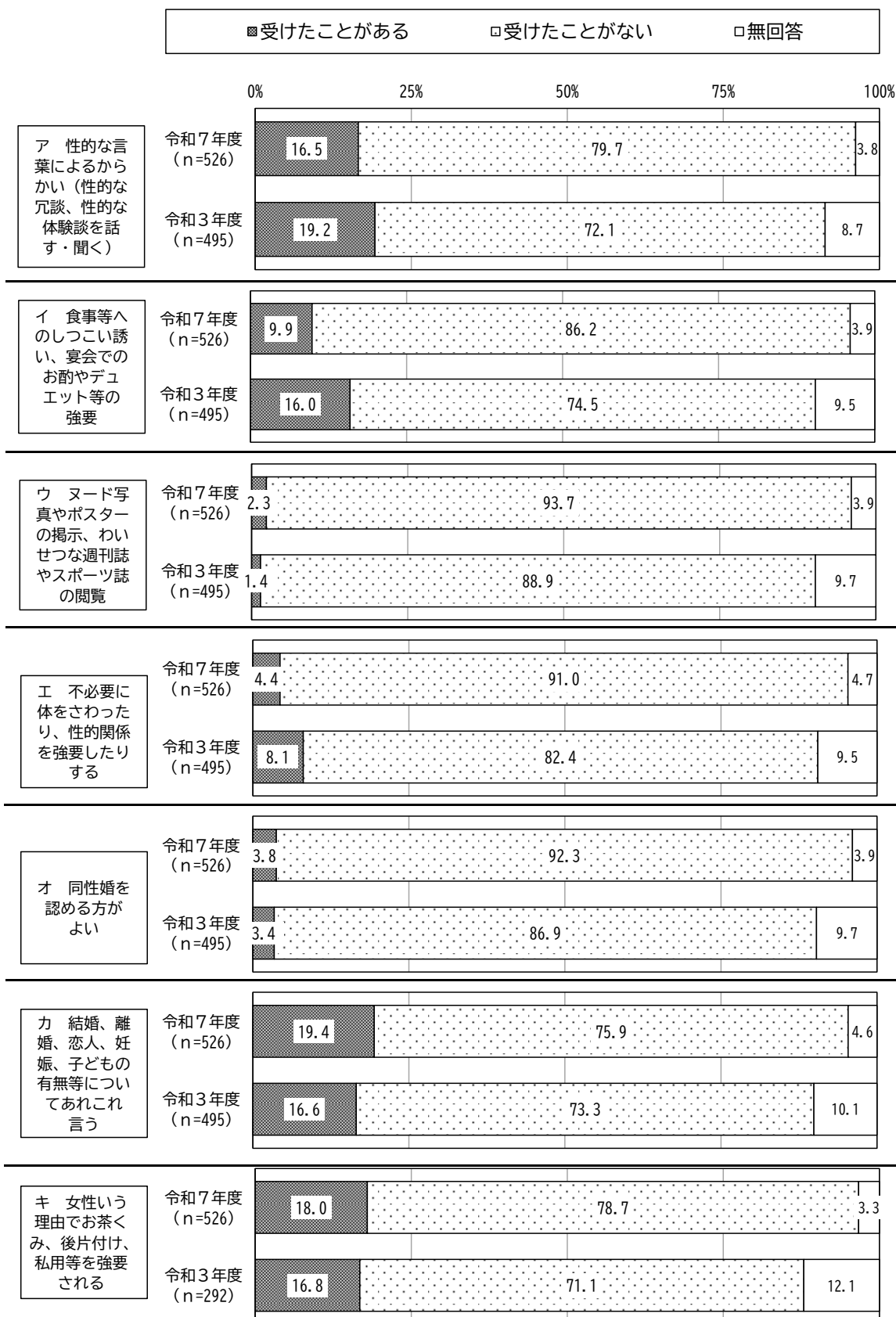
問10 職場や学校、地域などでハラスメントについて



性別にみると、男性は「カ 結婚、離婚、恋人、妊娠、子どもの有無等についてあれこれ言う」が15.2%と最も割合が高く、次いで「ア 性的な言葉によるからかい（性的な冗談、性的な体験談を話す・聞く）」が14.9%となっている。女性は「カ 結婚、離婚、恋人、妊娠、子どもの有無等についてあれこれ言う」が23.4%と最も割合が高く、次いで「ア 性的な言葉によるからかい（性的な冗談、性的な体験談を話す・聞く）」が18.3%となっている。



参考までに令和3年度調査結果と比較すると、「受けたことがある」については、「カ 結婚、離婚、恋人、妊娠、子どもの有無等についてあれこれ言う」が+3ポイント上昇している。低下した項目については、「イ 食事等へのしつこい誘い、宴会でのお酌やデュエット等の強要」が-6ポイント、次いで「エ 不必要に体をさわったり、性的関係を強要したりする」が-4ポイントとなっている。



問11 あなたは、夫婦や恋人の間で次のようなことが行われた場合、それを暴力だと思いませんか。
 下記のア～コについて、あなたの考えに近い選択肢(番号)を選んでください。(○はそれぞれ1つ)

	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もあたらぬ場合もある	暴力にあたるとは思わない
ア 平手で打つ	1	2	3
イ 殴るふりをしておどす	1	2	3
ウ 何を言っても長時間無視し続ける	1	2	3
エ 「誰のおかげで食べられるんだ」などに見下して言う	1	2	3
オ 嫌がっているのに性的な行為を強要する	1	2	3
カ 避妊に協力しない	1	2	3
キ 生活費を渡さない	1	2	3
ク お金の使いみちを細かくチェックする	1	2	3
ケ 親きょうだい、友人との付き合いを禁止・制限する	1	2	3
コ 相手の交友関係や電話、メール、SNSなどをチェックする	1	2	3

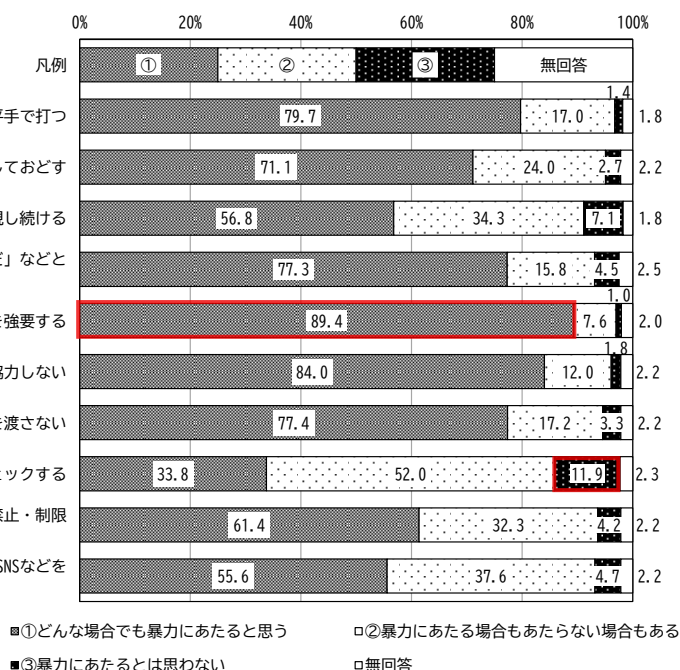
暴力だと思う行動について、ほとんどの項目において「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高い傾向となっている。その中でも、「オ 嫌がっているのに性的な行為を強要する」が89.4%と最も割合が高く、次いで「カ 避妊に協力しない」が84.0%、「ア 平手で打つ」が79.7%となっている。

一方、「暴力にあたるとは思わない」の割合が高い項目をみると、「ク お金の使いみちを細かくチェックする」では11.9%と最も高くなっている。

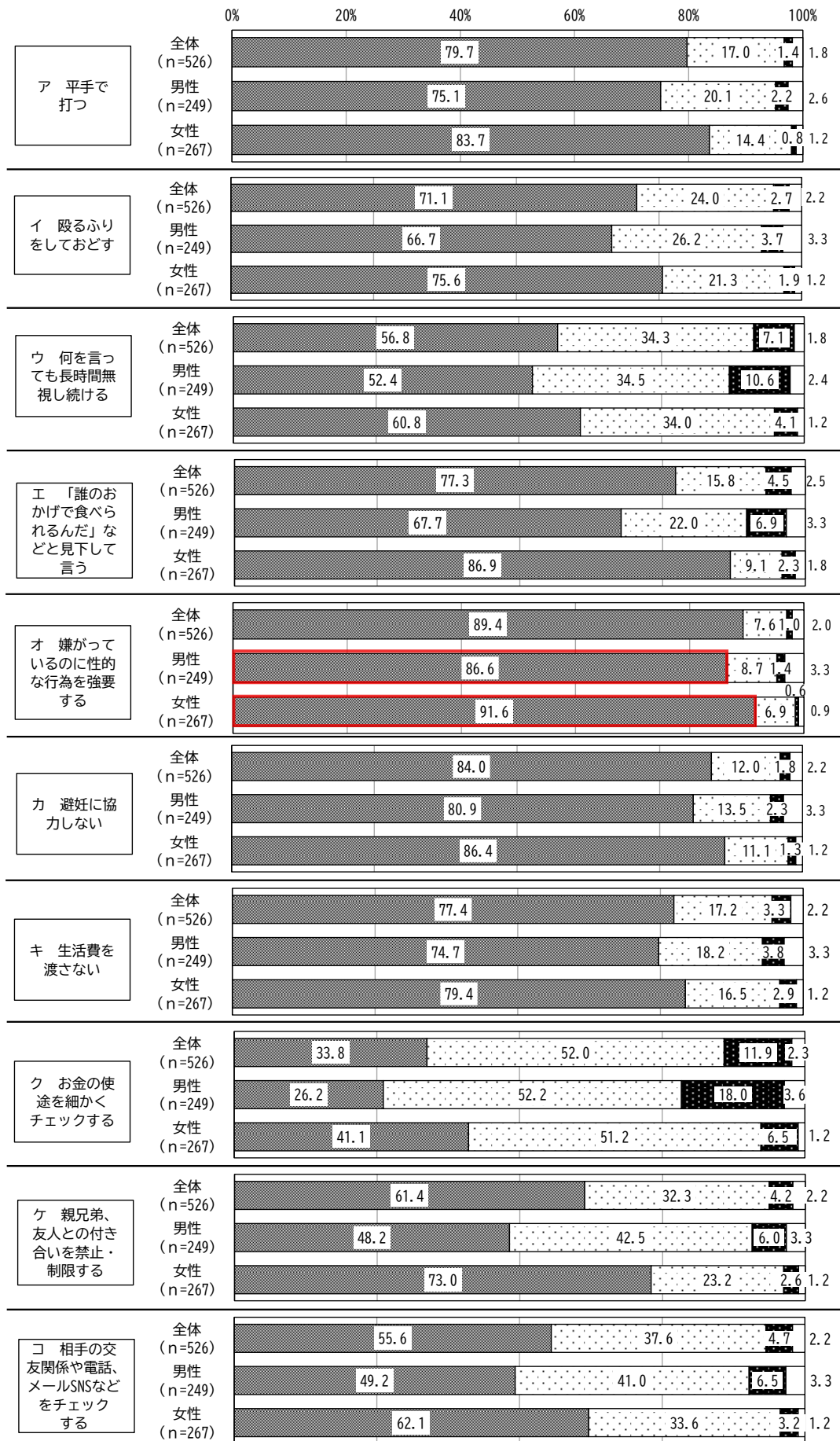
性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」行動について、男性は「オ 嫌がっているのに性的な行為を強要する」が86.6%と最も割合が高く、次いで「カ 避妊に協力しない」が80.9%となっている。女性は「オ 嫌がっているのに性的な行為を強要する」が91.6%と最も割合が高く、次いで「エ 「誰のおかげで食べられるんだ」などに見下して言う」が86.9%となっている。

参考までに令和3年度調査結果と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が上昇した項目については、「カ 避妊に協力しない」が+13ポイント、次いで「オ 嫌がっているのに性的な行為を強要する」が+6ポイントとなっている。低下した項目をみると、「ケ 親きょうだい、友人との付き合いを禁止・制限する」が-8ポイント、次いで「ク お金の使いみちを細かくチェックする」及び「コ 相手の交友関係や電話、メール、SNSなどをチェックする」が-3ポイントとなっている。

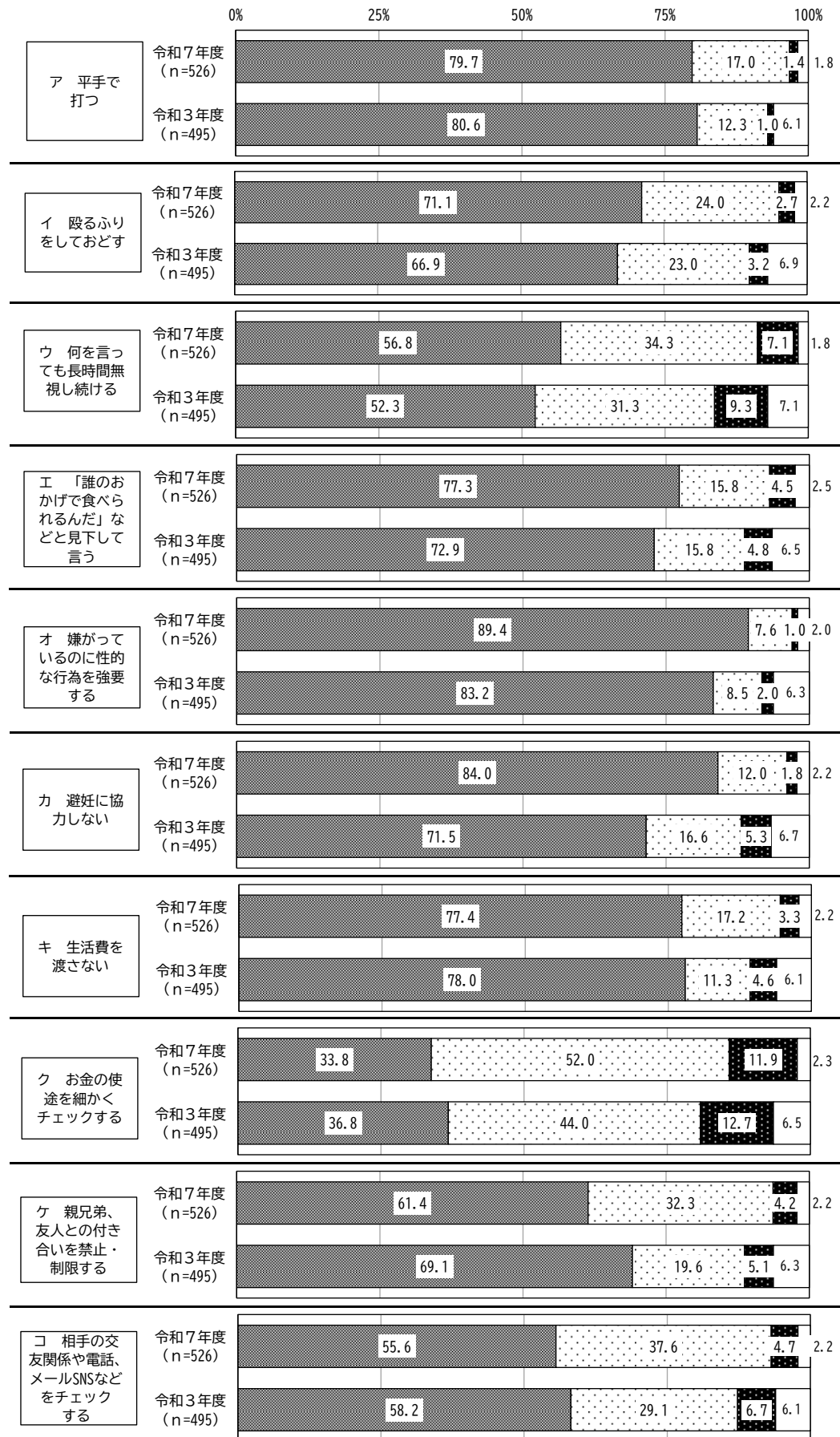
問11 暴力だと思う行動



どの場合でも暴力にあたると思う 暴力にあたる場合もあたらぬ場合もある
 暴力にあたるとは思わない 無回答



どの場合でも暴力にあたると思う
 暴力にあたる場合もあたらぬ場合もある
 暴力にあたるとは思わない
 無回答



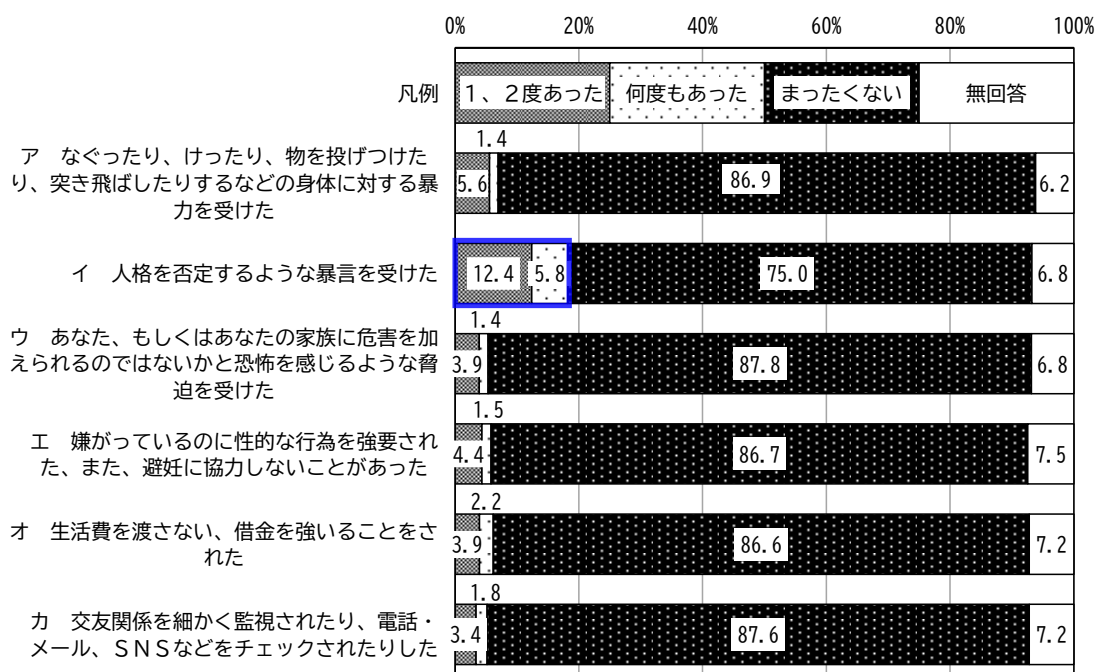
問12 あなたは、過去5年ほどの間に、配偶者等（事実婚や別居中、元配偶者も含む）や交際相手からの次のようなことをされたことがありますか。ア～カについて、あてはまる選択肢（番号）を選んでください。（○はそれぞれ1つ）

	1、2度あった	何度もあった	まったくない
ア なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力を受けた	1	2	3
イ 人格を否定するような暴言を受けた	1	2	3
ウ あなた、もしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	1	2	3
エ 嫌がっているのに性的な行為を強要された、または、避妊に協力しないことがあった	1	2	3
オ 生活費を渡さない、借金を強いることをされた	1	2	3
カ 交友関係を細かく監視されたり、電話・メール・SNSをチェックされたりした	1	2	3

配偶者等や交際相手からの暴力について、全ての項目において「まったくない」が最も高い割合を占めている。

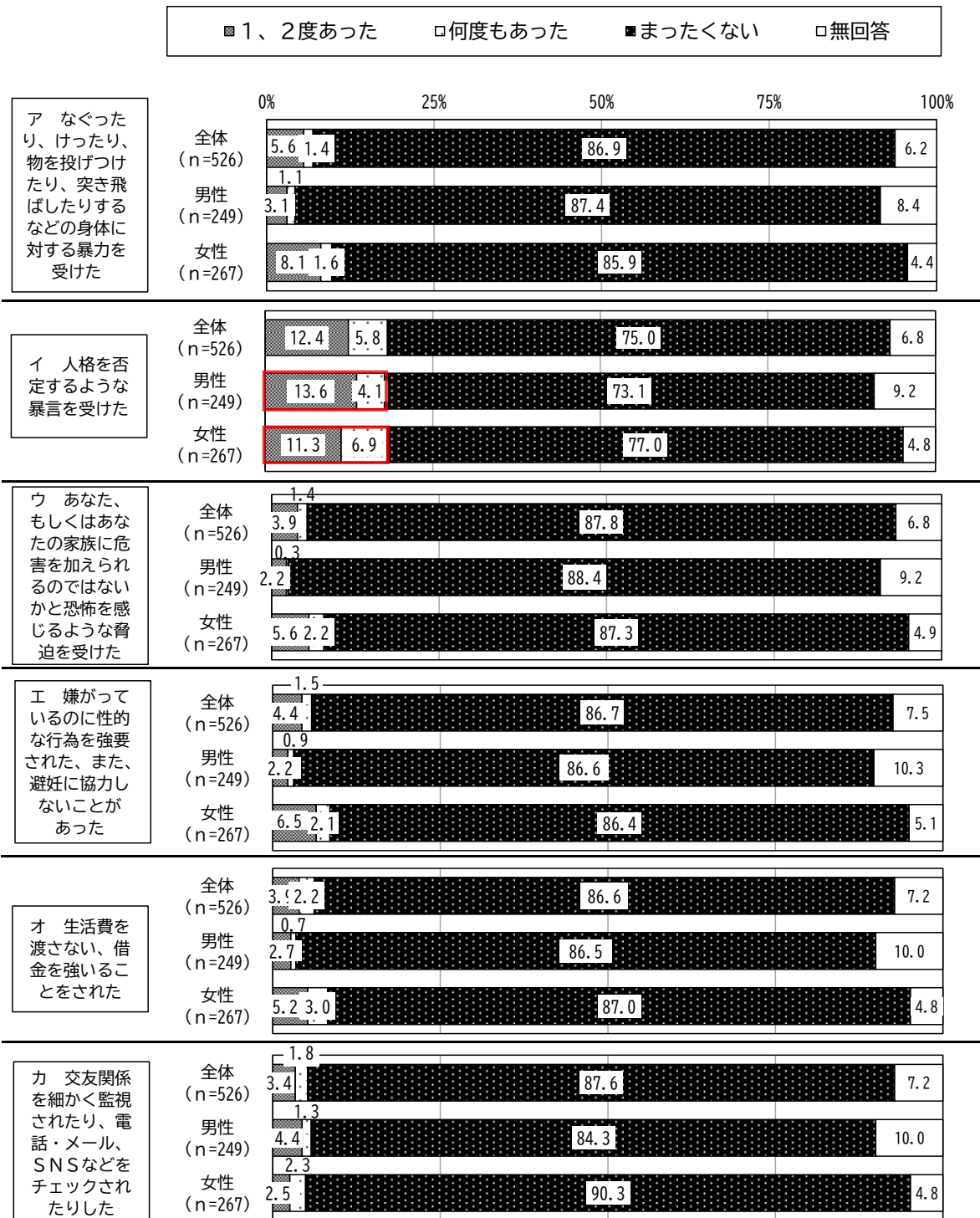
暴力が『あった』（「1、2度あった」＋「何度もあった」）項目をみると、「イ 人格を否定するような暴言を受けた」が18.2%と最も高い割合となっている。

問12 配偶者等や交際相手からの暴力について

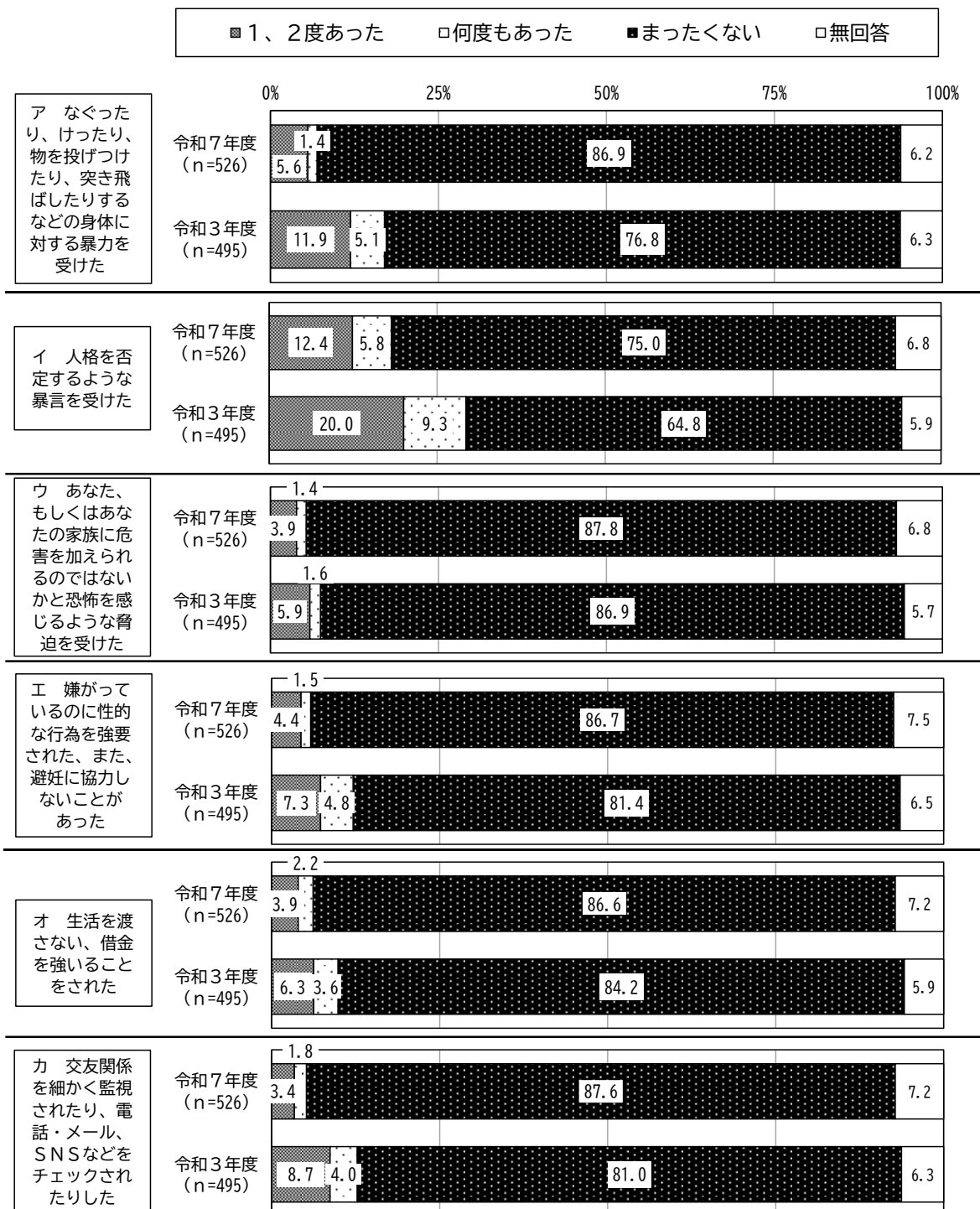


性別にみると、暴力が『あった』について、男性は「イ 人格を否定するような暴言を受けた」が17.7%と最も割合が高く、次いで「カ 交友関係を細かく監視されたり、電話・メール・SNSをチェックされたりした」が5.7%となっている。

女性は「イ 人格を否定するような暴言を受けた」が18.2%と最も割合が高く、次いで「ア なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力を受けた」が9.7%となっている。



参考までに令和3年度調査結果と比較すると、暴力が『あった』が上昇した項目は0項目となっている。低下した項目をみると、「イ 人格を否定するような暴言を受けた」が-11ポイント、次いで「ア なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力を受けた」が-10ポイントとなっている。



【問12で「1、2度あった」「何度もあった」と答えた方】

問13 あなたはそのことを、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○はいくつでも)

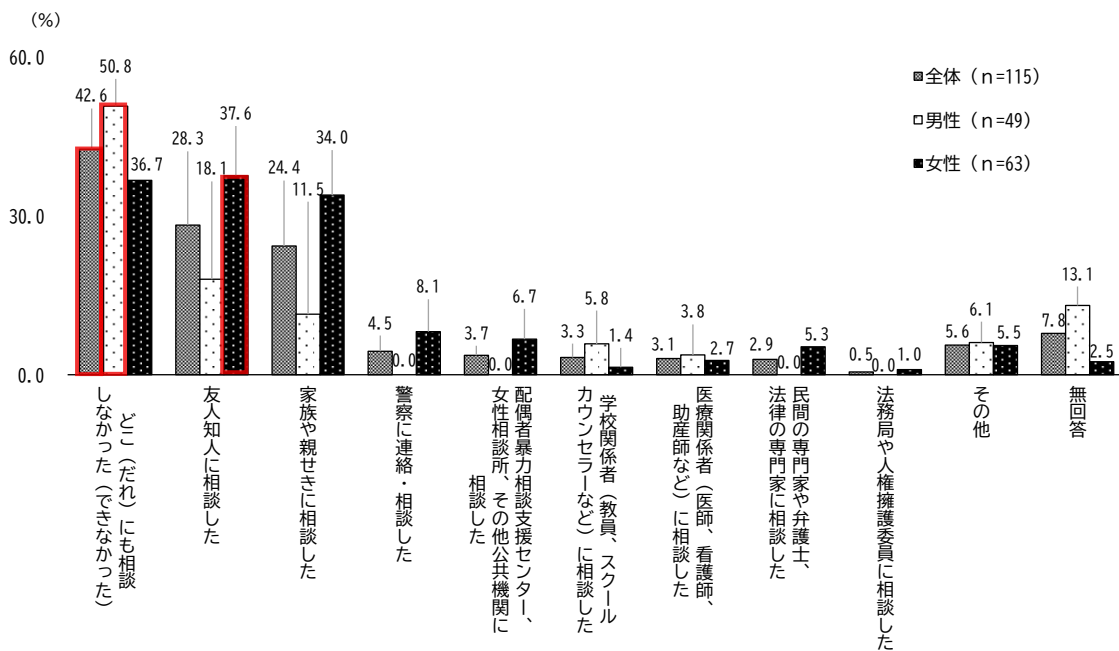
1. 警察に連絡・相談した
2. 法務局や人権擁護委員に相談した
3. 配偶者暴力相談支援センター、女性相談所、その他公共機関に相談した
4. 民間の専門家や弁護士、法律の専門家に相談した
5. 医療関係者（医師、看護師、助産師など）に相談した
6. 学校関係者（教員、スクールカウンセラーなど）に相談した
7. 家族や親せきに相談した
8. 友人知人に相談した
9. その他（具体的に _____)
10. どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった） ⇒ 問14へ

全回答者のうち 21.9%（526人中115人）が、問12のア～カのいずれかのDV被害を受けたことがあると回答している。

配偶者等や交際相手からの暴力に関する相談先をみると、「10. どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」が42.6%と最も割合が高い。次いで、「8. 友人知人に相談した」が28.3%、「7. 家族や親せきに相談した」が24.4%となっている。

性別にみると、男性は「10. どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」が50.8%と最も割合が高く、次いで「8. 友人知人に相談した」が18.1%となっている。女性は「8. 友人知人に相談した」が37.6%と最も割合が高く、次いで「10. どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」が36.7%となっている。

問13 誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか（複数回答）

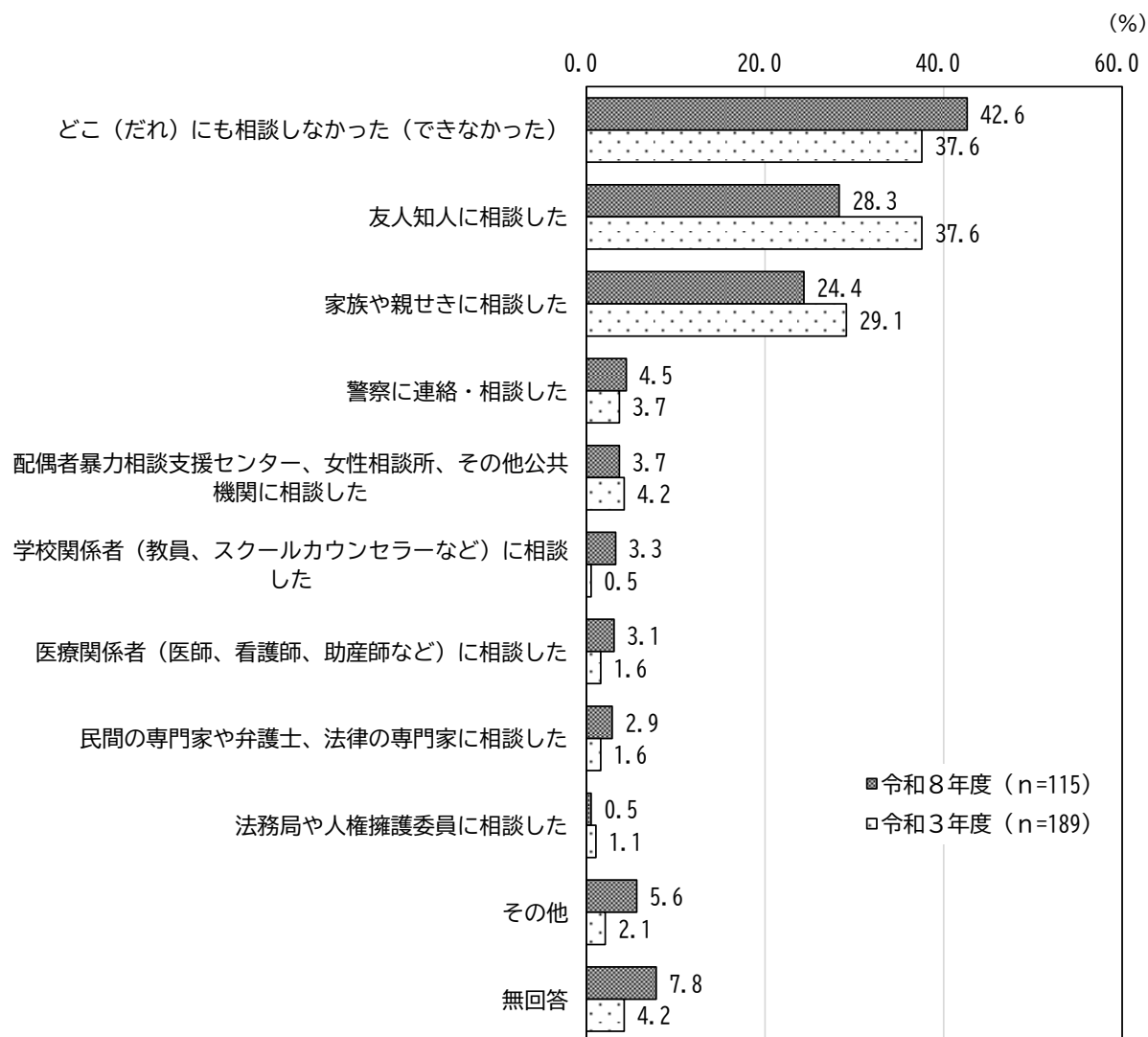


【その他】自分で解決できる程度なので、相談する必要もなかった/相談するほど深刻ではない/時間が解決した/本人と話し合った。現在は良くなっている。もし元に戻れば離婚も考えていいと思っている/本人に伝えた/自己処理、がまんしたら治まった

参考までに令和3年度調査結果と比較すると、上昇した項目については、「10. どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」が+5ポイント、次いで「6. 学校関係者（教員、スクールカウンセラーなど）に相談した」が+3ポイントとなっている。

低下した項目については、「8. 友人知人に相談した」が-9ポイント、次いで「7. 家族や親せきに相談した」が-5ポイントとなっている。

問13 誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか（複数回答）



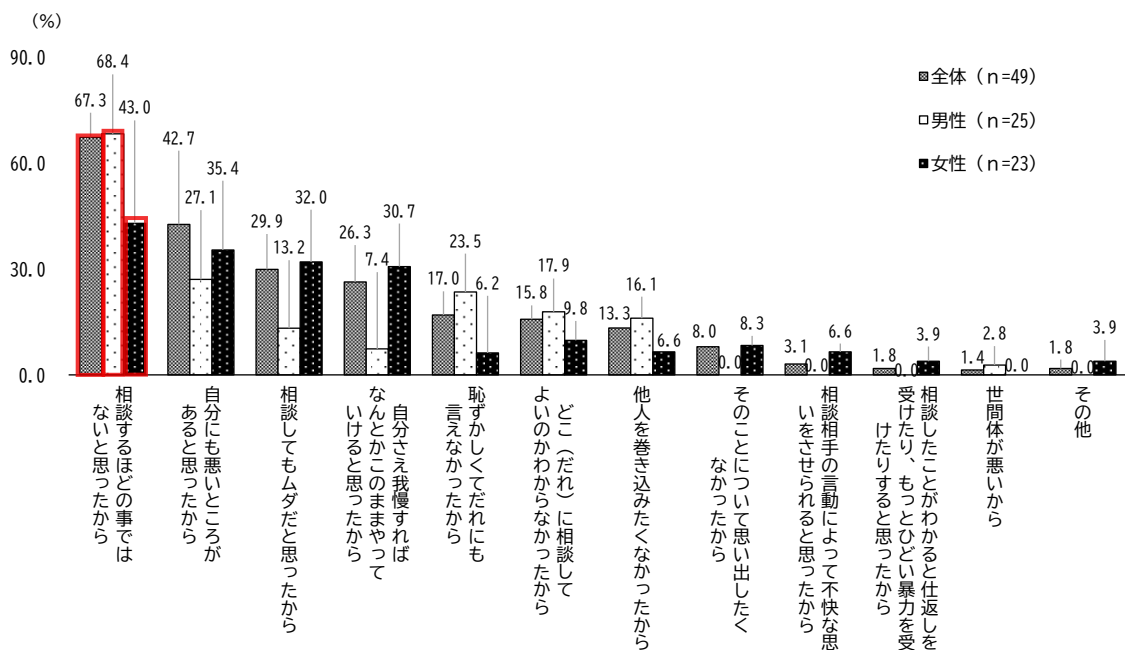
【問13で「10. どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」と答えた方】
 問14 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（○はいくつでも）

1. どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
2. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
3. 相談してもムダだと思ったから
4. 相談したことがわかると仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから
5. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
6. 自分さえ我慢すればなんとかこのままやっていけると思ったから
7. 世間体が悪いから
8. 他人を巻き込みたくなかったから
9. そのことについて思い出したくなかったから
10. 自分にも悪いところがあると思ったから
11. 相談するほどの事ではないと思ったから
12. その他（具体的に

配偶者等や交際相手からの暴力に関して相談しなかった理由をみると、「11. 相談するほどの事ではないと思ったから」が67.3%と約7割を占めている。次いで、「10. 自分にも悪いところがあると思ったから」が42.7%、「3. 相談してもムダだと思ったから」が29.9%となっている。

性別にみると、男性は「11. 相談するほどの事ではないと思ったから」が68.4%と最も割合が高く、次いで「10. 自分にも悪いところがあると思ったから」が27.1%となっている。女性も「11. 相談するほどの事ではないと思ったから」が43.0%と最も割合が高く、次いで「10. 自分にも悪いところがあると思ったから」が35.4%となっている。

問14 どこ（だれ）にも相談しなかった理由（複数回答）

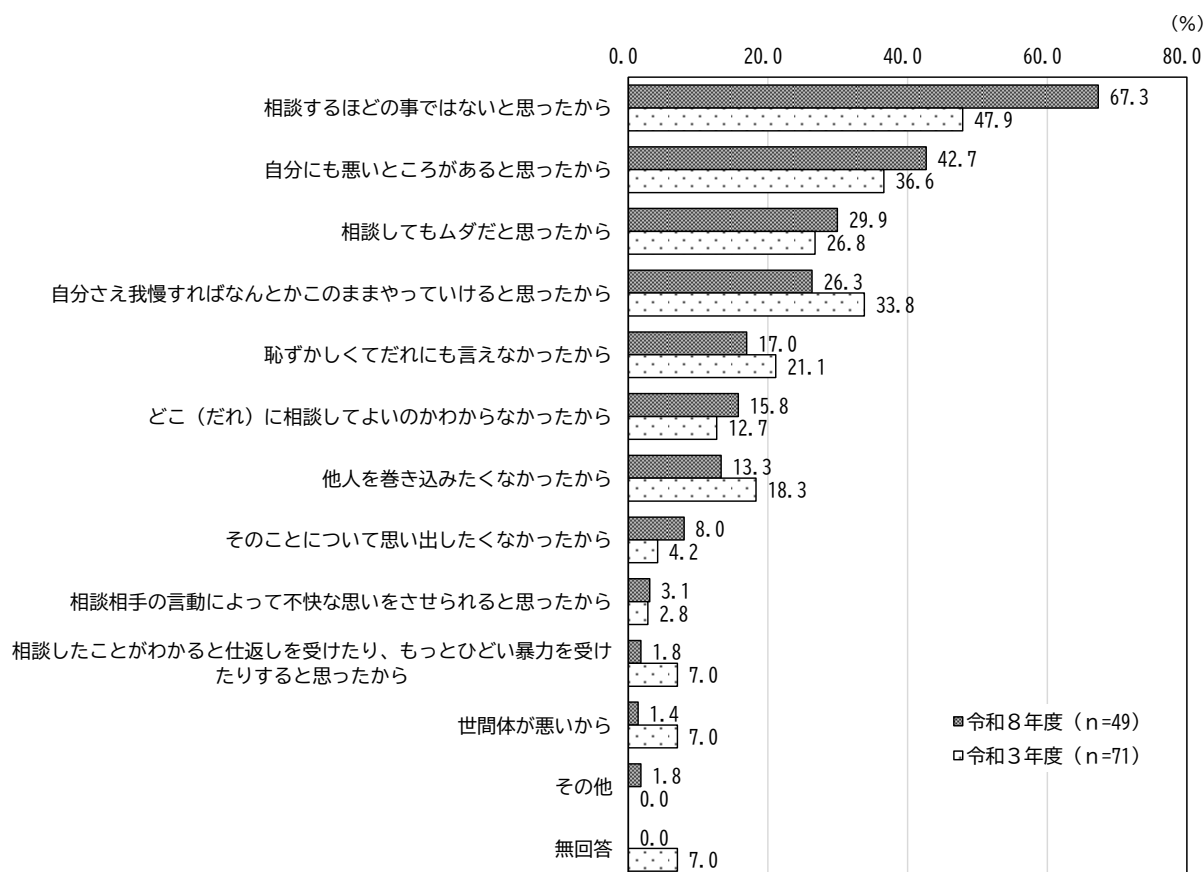


【その他】本人に関係を終わらせると言ったら止めるから

参考までに令和3年度調査結果と比較すると、上昇した項目については、「11. 相談するほどの事ではないと思ったから」が+19ポイント、次いで「10. 自分にも悪いところがあると思ったから」が+6ポイントとなっている。

低下した項目については、「6. 自分さえ我慢すればなんとかこのままやっていけると思ったから」が-8ポイント、次いで「7. 世間体が悪いから」が-6ポイントとなっている。

問14 どこ（だれ）にも相談しなかった理由（複数回答）



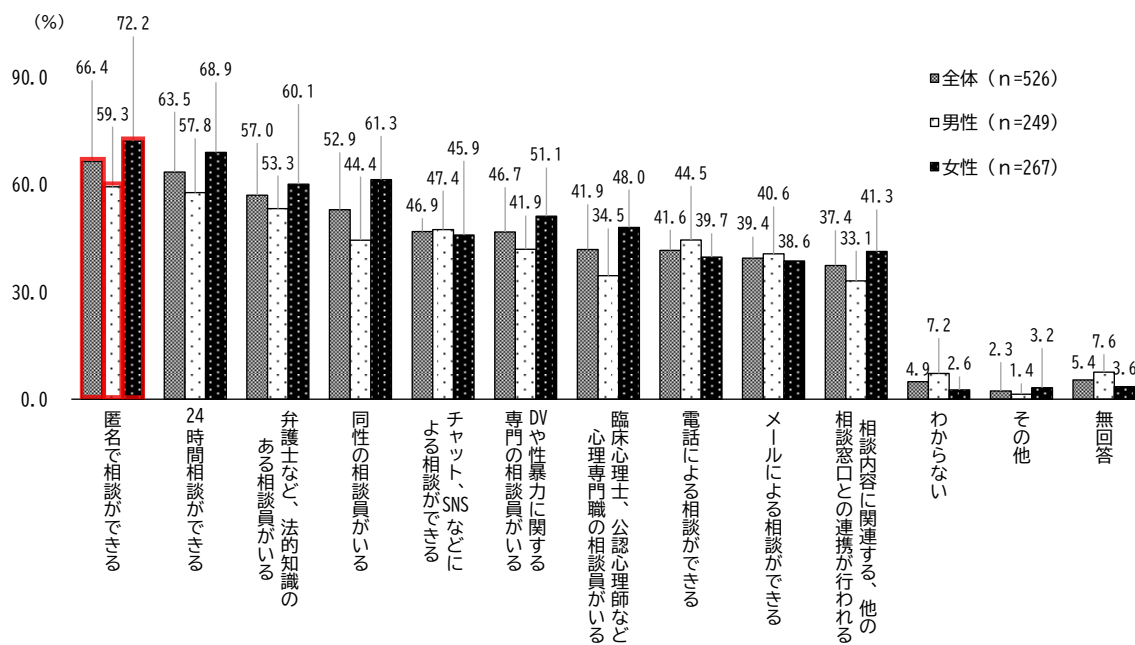
問 15 あなたが、DV や性暴力の被害やそれに関する悩みを相談できる窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

1. メールによる相談ができる
2. チャット、SNS などによる相談ができる
3. 電話による相談ができる
4. 24 時間相談ができる
5. 相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる
6. 同性の相談員がいる
7. 匿名で相談ができる
8. 弁護士など、法的知識のある相談員がいる
9. 臨床心理士、公認心理師など、心理専門職の相談員がいる
10. DV や性暴力に関する専門の相談員がいる
11. その他 (具体的に)

DV 等の相談窓口の配慮事項をみると、「7. 匿名で相談ができる」が 66.4%と最も割合が高く、次いで「4. 24 時間相談ができる」が 63.5%、「8. 弁護士など、法的知識のある相談員がいる」が 57.0%、「6. 同性の相談員がいる」が 52.9%と 5 割以上を占めている。

性別にみると、男性は「7. 匿名で相談ができる」が 59.3%と最も割合が高く、次いで「4. 24 時間相談ができる」が 57.8%となっている。女性も「7. 匿名で相談ができる」が 72.2%と最も割合が高く、次いで「4. 24 時間相談ができる」が 68.9%となっている。

問15 DVや性暴力の被害、それに関する悩みを相談できる窓口等、配慮してほしいこと（複数回答）



【その他】相談員の処遇を改善し専門性を高める/秘密厳守であることが絶対/同年代の相談員がいる。具体的な行動を教えてもらえる/専門家への無料相談・時間制限なし/費用安い。無料/すぐに避難できるような関係図を提案できる環境づくり/相談窓口有る事をしっかり伝えよ。行政のサービス全体に言える事だがただあるだけで市民に十分知られていないサービスが多過ぎる/専門性の高い人の配置。いくら相談できますよと言われても初回の感じで、「この人に相談できない」と思ったらそこまで。窓口あってないようなもの/個人保護の重視/ビデオチャット/ボランティア残業の廃止/メール、電話等、相談となると長時間になると思うのでできれば無料であって欲しい

6) 性の多様性について

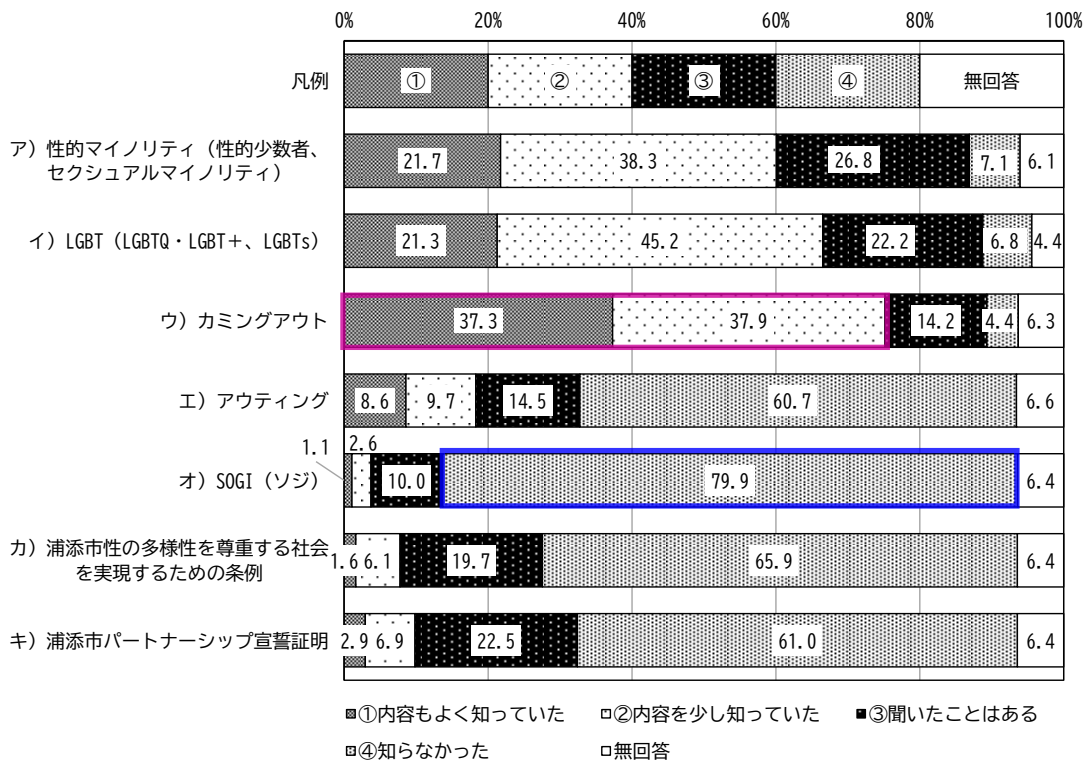
問16 あなたは、性の多様性に関する次のア～キの言葉を知っていますか。あてはまる選択肢(番号)を選んでください。(○はそれぞれ1つ)

項目	選択肢			
	知内容もよく 知っていた	知内容を少し 知っていた	聞いたこと はある	知らなかった
ア) 性的マイノリティ (性的少数者、セクシュアルマイノリティ)	1	2	3	4
イ) LGBT (LGBTQ・LGBT+、LGBTs)	1	2	3	4
ウ) カミングアウト	1	2	3	4
エ) アウティング	1	2	3	4
オ) SOGI (ソジ)	1	2	3	4
カ) 浦添市性の多様性を尊重する社会を実現するための条例	1	2	3	4
キ) 浦添市パートナーシップ宣誓証明	1	2	3	4

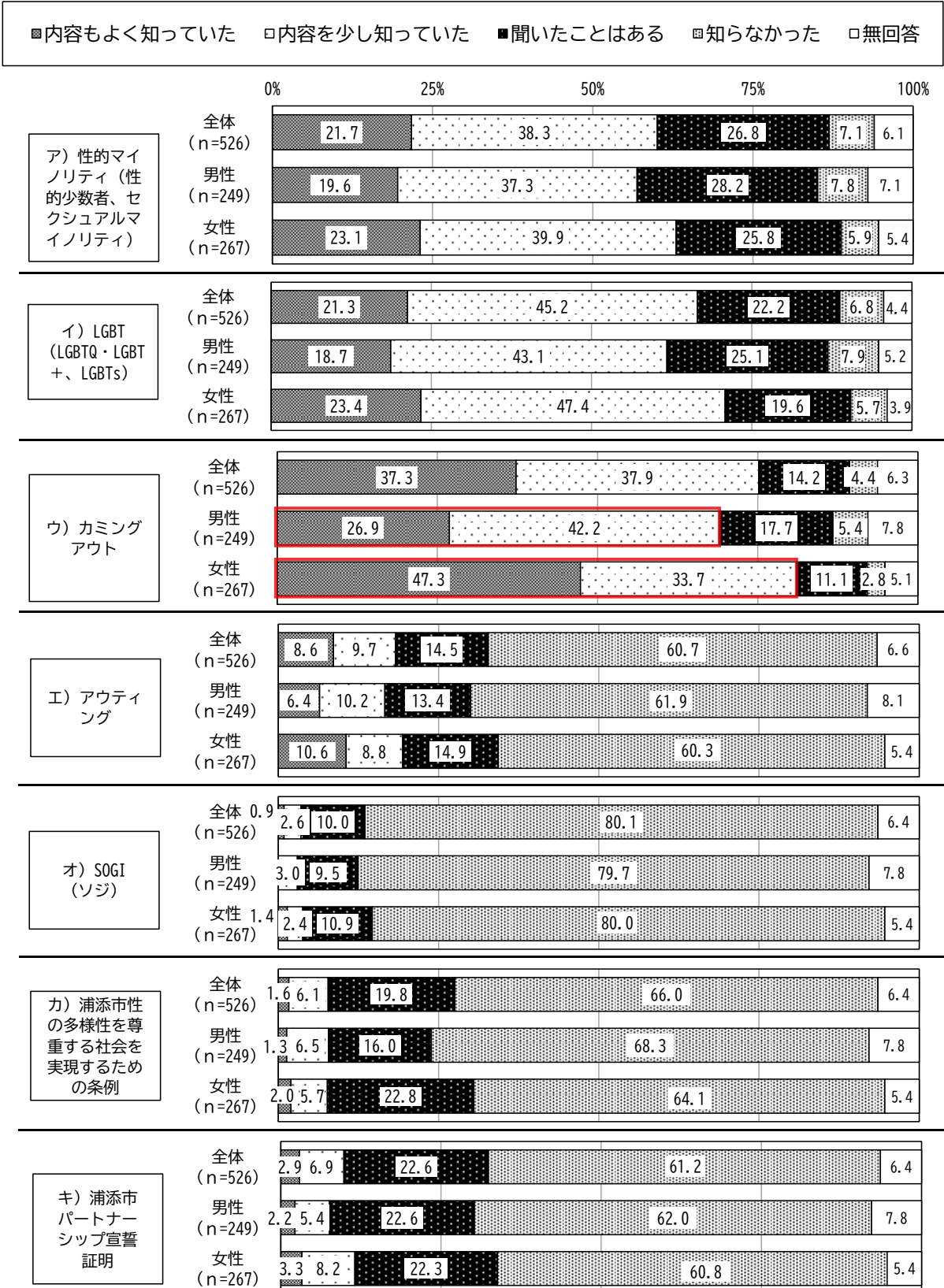
性の多様性に関する語句の認知度について、『知っていた』(「内容もよく知っていた」+「内容を少し知っていた」)語句をみると、「ウ) カミングアウト」が75.2%と最も割合が高く、次いで「イ) LGBT」が66.5%、「ア) 性的マイノリティ」が60.0%となっている。

一方、「知らなかった」語句をみると、「オ) SOGI」が79.9%と最も割合が高く、次いで「カ) 浦添市性の多様性を尊重する社会を実現するための条例」が65.9%、「キ) 浦添市パートナーシップ宣誓証明」が61.0%、「エ) アウティング」が60.7%となっている。

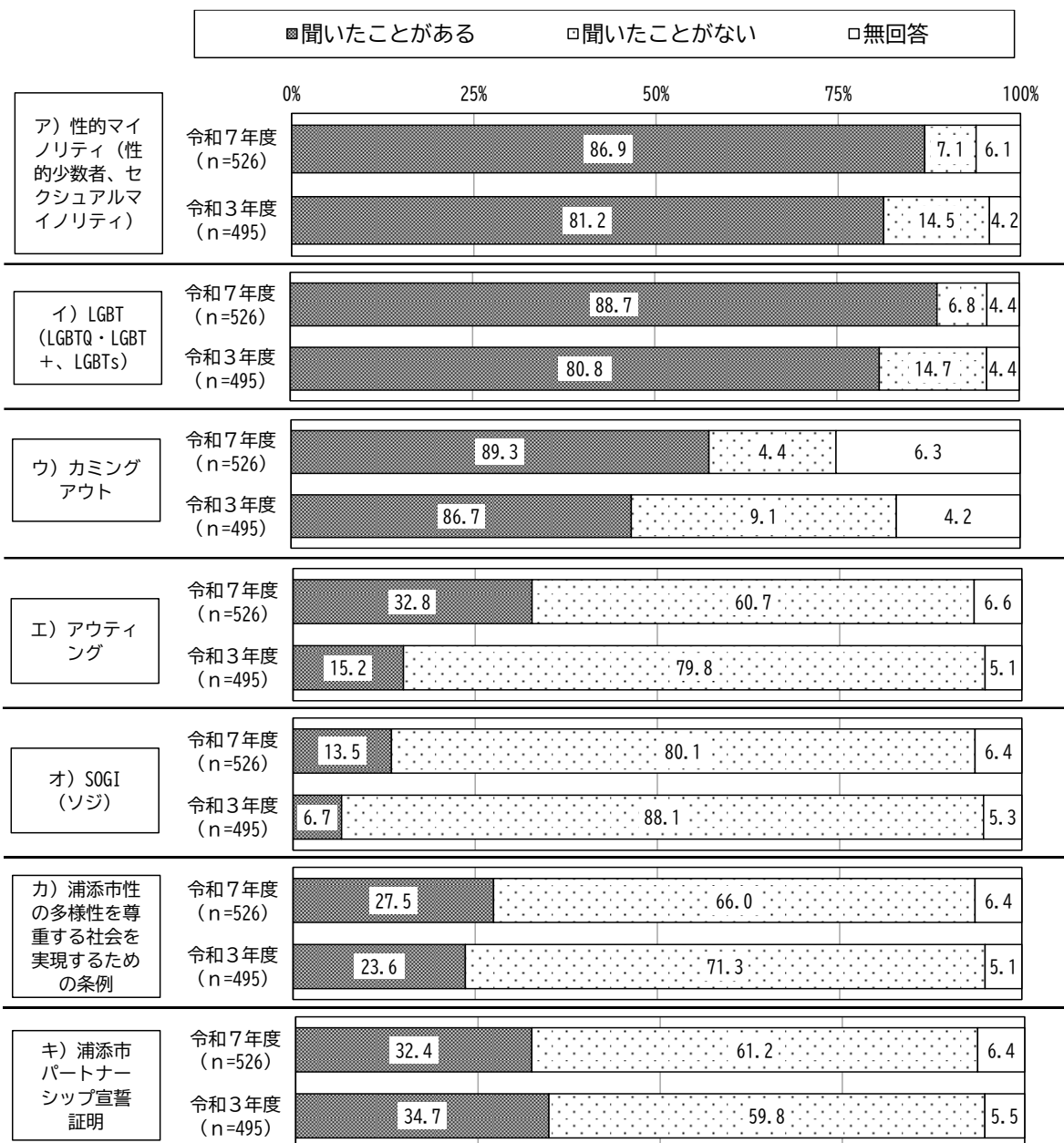
問16 性の多様性に関する語句の認知度



性別にみると、『知っていた』語句について、男性は「ウ) カミングアウト」が69.1%と最も割合が高く、次いで「イ) LGBT (LGBTQ・LGBT+、LGBTs)」が61.8%となっている。女性も「ウ) カミングアウト」が81.0%と最も割合が高く、次いで「イ) LGBT (LGBTQ・LGBT+、LGBTs)」が70.8%となっている。



令和3年度調査結果とは選択肢が異なるため一概に比較できないが、参考までに「聞いたことがある」が上昇した項目についてみると、「エ）アウティング」が+18ポイント、次いで「イ）LGBT（LGBTQ・LGBT+、LGBTs）」が+8ポイントとなっている。一方、「キ）浦添市パートナーシップ宣誓証明」は-2ポイント低下している。



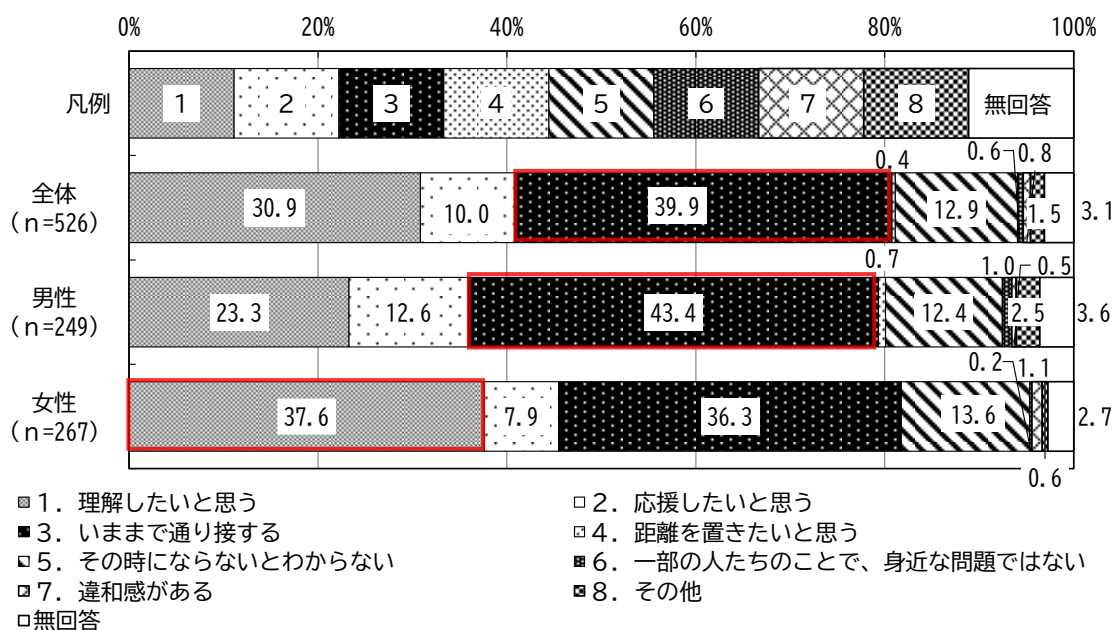
問 17 あなたは、家族や友人など身近な方から性的少数者（セクシュアルマイノリティ）であることを打ち明けられたとしたら、どのように思いますか。（○は1つ）

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. 理解したいと思う | 2. 応援したいと思う |
| 3. いままで通り接する | 4. 距離を置きたいと思う |
| 5. その時にならないとわからない | 6. 一部の人のことで、身近な問題ではない |
| 7. 違和感がある | 8. その他（ ） |

身近な方から性的少数者であることを打ち明けられた場合について、「3. いままで通り接する」が39.9%と最も割合が高く、次いで「1. 理解したいと思う」が30.9%、「5. その時にならないとわからない」が12.9%となっている。

性別にみると、男性は「3. いままで通り接する」が43.4%と最も割合が高く、次いで「1. 理解したいと思う」が23.3%となっている。女性は「1. 理解したいと思う」が37.6%と最も割合が高く、次いで「3. いままで通り接する」が36.3%となっている。

問17 身近な方から性的少数者であることを打ち明けられた時



【その他】嗜好の問題だけなら気にしない。異性として対応して欲しいならケースバイケース/相手が求めている対応による/LGB は性的思考なので今までとおりに接する。Tは性自認なので対応が難しく距離を置くかもしれない/絶対守らないし

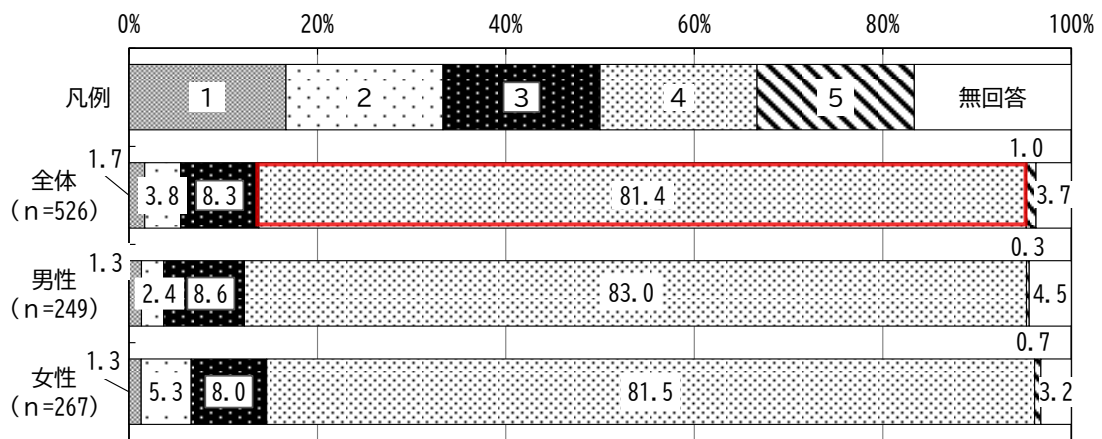
問 18 あなたは今までに、自分のからだの性と心の性が異なることや、好きになる相手の性別などに悩んだことはありますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. よくある | 2. たまにある |
| 3. ほとんどない | 4. まったくない |
| 5. 答えたくない | |

自分の性などに悩んだ経験をみると、「4. まったくない」が 81.4%と最も割合が高くなっている。『ある』(「1. よくある」+「2. たまにある」)と回答した人は全体の 5.5%を占めている。

性別にみると、『ある』と回答した男性は 3.7%、女性は 6.6%となっている。

問18 自分の身体の性、心の性または性的指向(同性愛など)に悩んだこと



■ 1. よくある □ 2. たまにある ■ 3. ほとんどない □ 4. まったくない ■ 5. 答えたくない □ 無回答

問 19 あなたは、性の多様性を尊重する取組としてどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

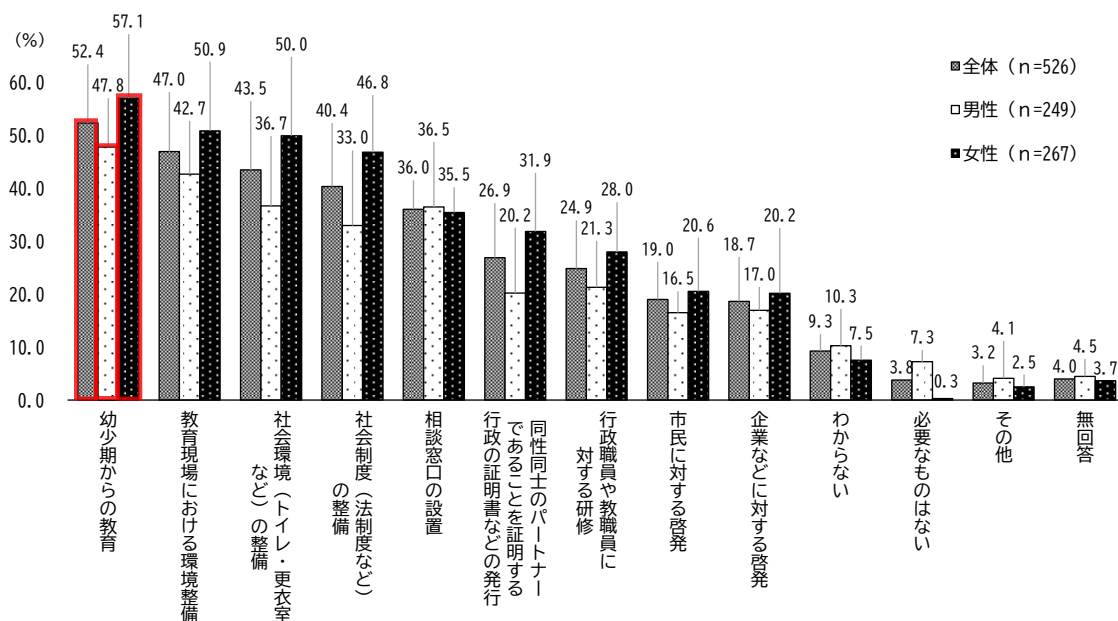
- | | |
|------------------------------------|-------------------|
| 1. 市民に対する啓発 | 2. 幼少期からの教育 |
| 3. 相談窓口の設置 | 4. 社会制度（法制度など）の整備 |
| 5. 社会環境（トイレ・更衣室など）の整備 | 6. 教育現場における環境整備 |
| 7. 行政職員や教職員に対する研修 | 8. 企業などに対する啓発 |
| 9. 同性同士のパートナーであることを証明する行政の証明書などの発行 | 10. その他（ ） |
| 11. わからない | 12. 必要なものはない |

性の多様性を尊重する取組として必要なものについては、「2. 幼少期からの教育」が52.4%と最も割合が高く、次いで「6. 教育現場における環境整備」が47.0%、「5. 社会環境（トイレ・更衣室など）の整備」が43.5%となっている。

一方、「1. 市民に対する啓発」（19.0%）や「8. 企業などに対する啓発」（18.7%）は低い傾向となっている。

性別にみると、男性は「2. 幼少期からの教育」が47.8%と最も割合が高く、次いで「6. 教育現場における環境整備」が42.7%となっている。女性も「2. 幼少期からの教育」が57.1%と最も割合が高く、次いで「6. 教育現場における環境整備」が50.9%となっている。

問19 性の多様性を尊重する取組として必要だと思うこと（複数回答）



【その他】保育園等の幼少期からの、保護者への講和/そもそも性の多様性に対して取り組む必要性がどれくらい有るのかの説明が無いので回答出来ません/法律で多様な形の婚姻を認めること/法的に認められることは必要だが、社会全体に「理解を強要」するのは違うと思う/必要以上に配慮されず、同等に、当たり前扱われる社会的評価の醸成/啓発活動のみ。多様性の許容は必要だが、あくまで嗜好の違いのため、対応を変える必要はないと認識してる/過剰にやり過ぎているせいで当事者が生きづらくなってる気がする/現状多様性ばかり気にして、多様性というカテゴリーに含まれていない人には我慢を強いている気がする。どちらかを尊重（優遇）ではなく、両方の不安や心配している点を解決するだけでいいと思う。希望を通すよりも、不安な個所を解消したら各々の衝突などは減ると思う/トイレを男女一緒にするなどは危険なのでやめてほしい/性の多様性というとなんとなくいい物と勘違いするが、単なる性的嗜好の問題である。そんな事をわざわざ他者に知らせ、理解を求める事がおかしいと思う/その人を理解してあげること/当事者からの話/すべての人が理解出来ること/一般への意識啓発/家庭でのアンコンバイアスを減らす

7) 男女共同参画社会について

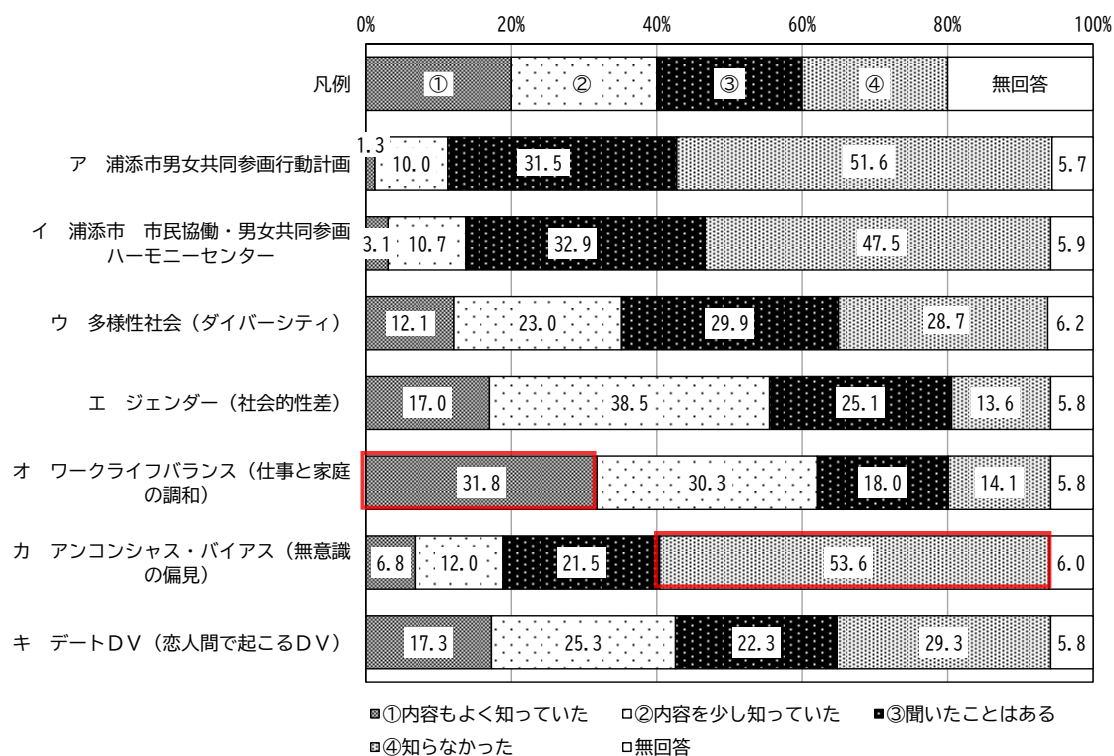
問 20 次のア～キの言葉について、知っていますか。あてはまる選択肢（番号）を選んでください。
 (○はそれぞれ1つ)

項目	選択肢	内容もよく知っていた	内容を少し知っていた	聞いたことはある	知らなかった
ア 浦添市男女共同参画行動計画	1	2	3	4	
イ 浦添市 市民協働・男女共同参画ハーモニーセンター	1	2	3	4	
ウ 多様性社会（ダイバーシティ）	1	2	3	4	
エ ジェンダー（社会的性差）	1	2	3	4	
オ ワークライフバランス（仕事と家庭の調和）	1	2	3	4	
カ アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）	1	2	3	4	
キ デートDV（恋人間で起こるDV）	1	2	3	4	

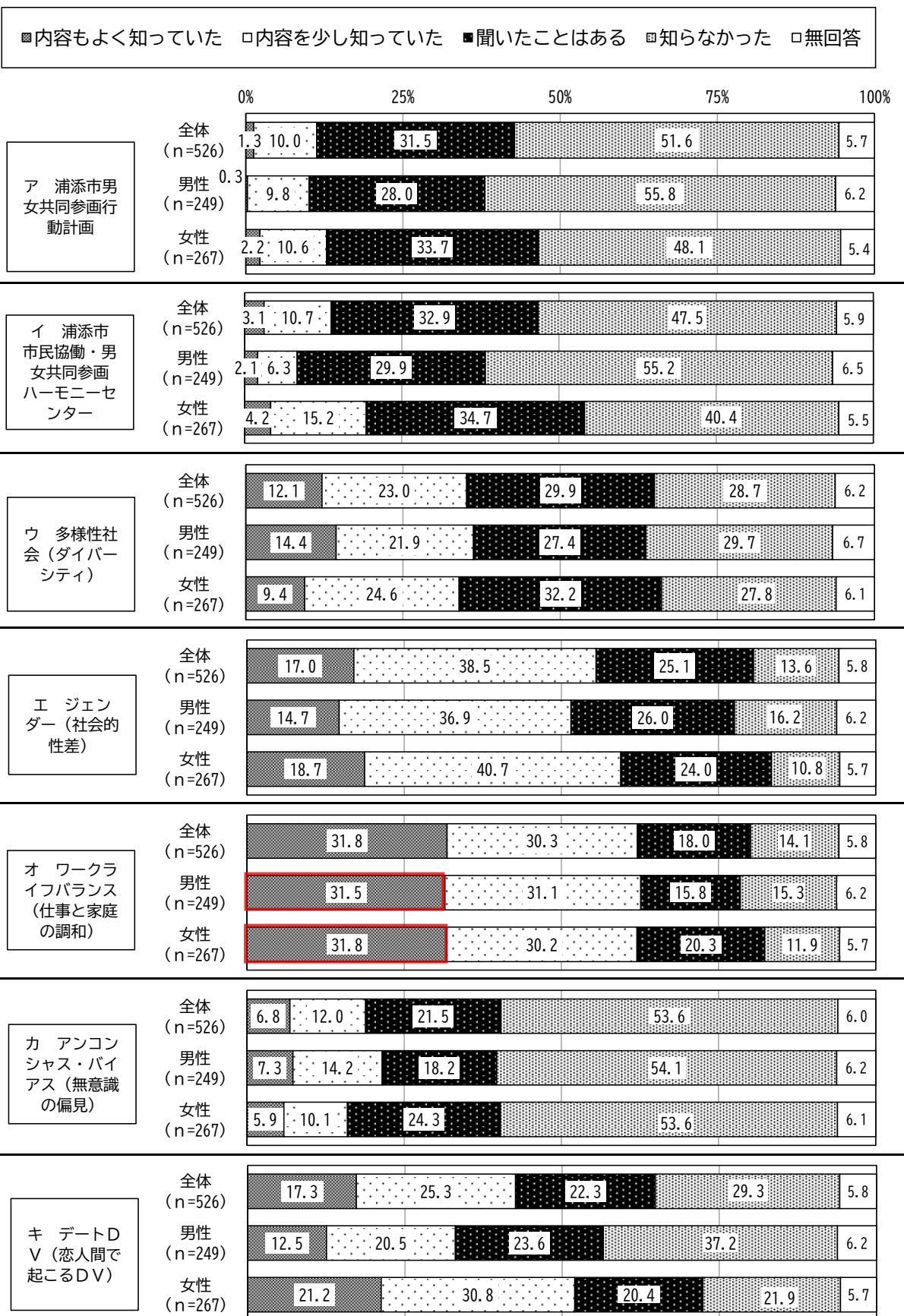
男女共同参画に関する語句の認知状況について、「内容もよく知っていた」をみると「オ ワークライフバランス」が31.8%と最も割合が高く、次いで「キ デートDV」が17.3%、「エ ジェンダー」が17.0%となっている。

一方、「知らなかった」割合が高い項目をみると「カ アンコンシャス・バイアス」が53.6%、「ア 浦添市男女共同参画行動計画」が51.6%、「イ 浦添市 市民協働・男女共同参画ハーモニーセンター」が47.5%となっている。

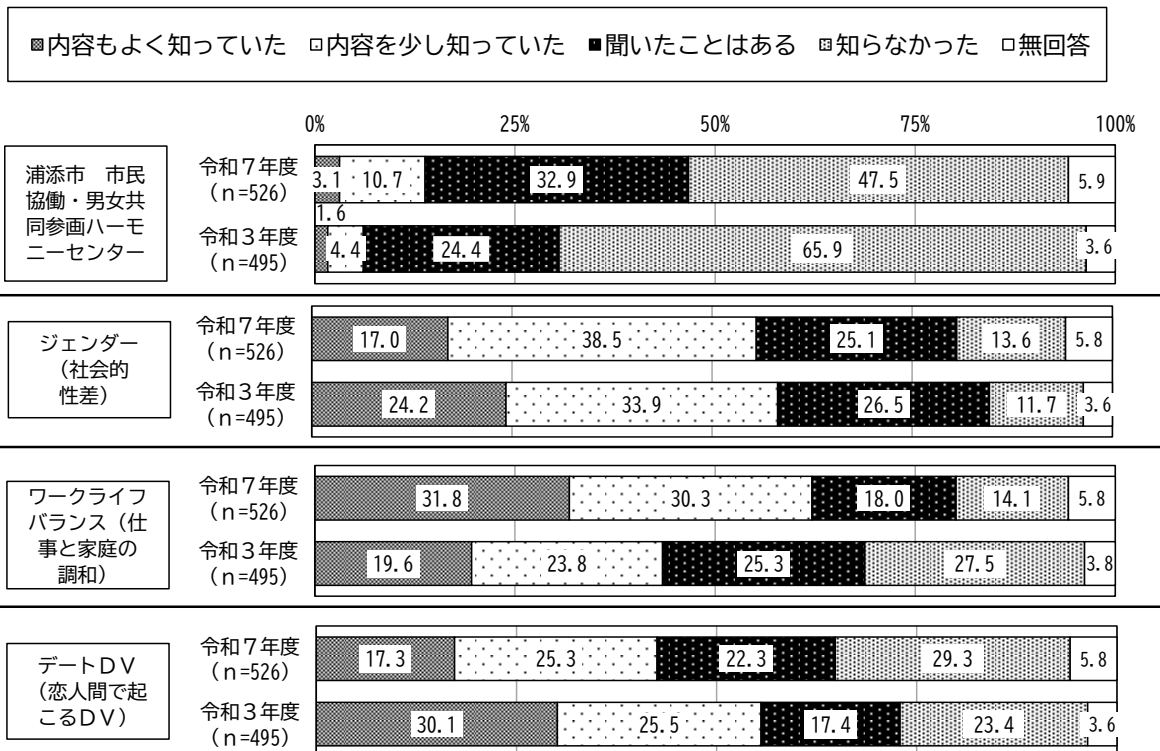
問20 男女共同参画社会について



「内容もよく知っていた」について性別にみると、男性は「オ ワークライフバランス」が31.5%と最も割合が高く、次いで「エ ジェンダー」が14.7%となっている。女性は「オ ワークライフバランス」が31.8%と最も割合が高く、次いで「キ デートDV」が21.2%となっている。



参考までに令和3年度調査結果と比較すると、「内容もよく知っていた」が上昇した項目については、「オ ワークライフバランス」が+12ポイント、次いで「ア 浦添市男女共同参画行動計画」が+2ポイントとなっている。低下した項目をみると、「キ デートDV」が-13ポイント、次いで「エ ジェンダー」が-7ポイントとなっている。



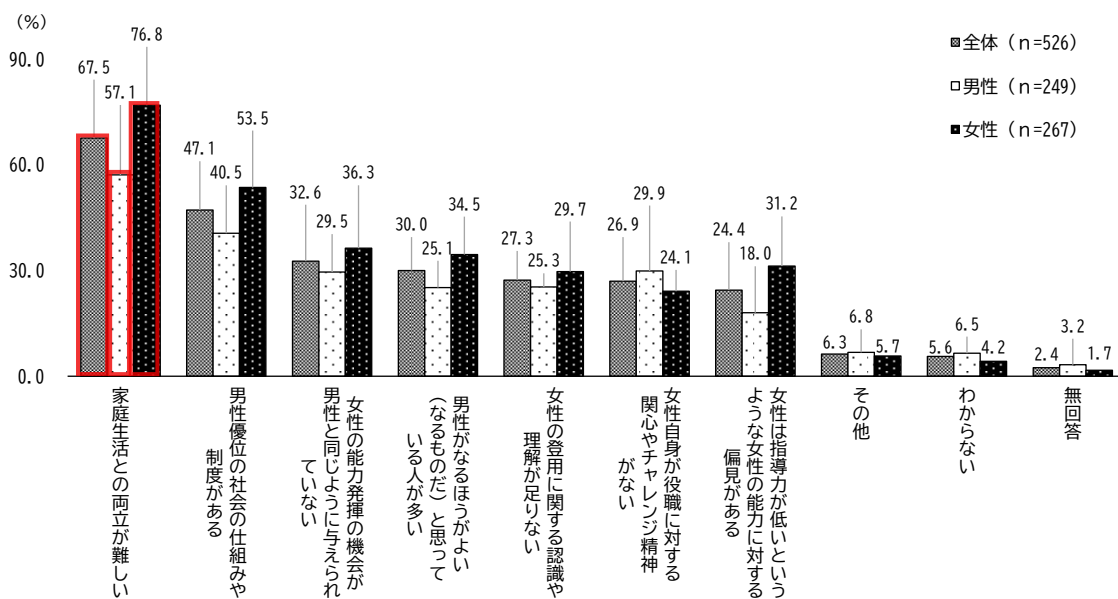
問 21 女性の社会進出は進みつつありますが、自治体の首長（知事や市町村長）や議員、企業の管理職などはまだ女性が少ないのが現状です。このように女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。（〇はいくつでも）

1. 家庭生活との両立が難しい
2. 男性優位の社会の仕組みや制度がある
3. 女性は指導力が低いというような女性の能力に対する偏見がある
4. 女性の能力発揮の機会が男性と同じように与えられていない
5. 女性の登用に関する認識や理解が足りない
6. 男性になるほうがよい（なるものだ）と思っている人が多い
7. 女性自身が役職に対する関心やチャレンジ精神がない
8. その他（具体的に
9. わからない

自治体の首長等に女性の参画が少ない理由について、「1. 家庭生活との両立が難しい」が67.5%と最も割合が高く、次いで「2. 男性優位の社会の仕組みや制度がある」が47.1%、「4. 女性の能力発揮の機会が男性と同じように与えられていない」が32.6%、「6. 男性になるほうがよい（なるものだ）と思っている人が多い」が30.0%となっている。

性別にみると、男性は「1. 家庭生活との両立が難しい」が57.1%と最も割合が高く、次いで「2. 男性優位の社会の仕組みや制度がある」が40.5%となっている。女性も「1. 家庭生活との両立が難しい」が76.8%と最も割合が高く、次いで「2. 男性優位の社会の仕組みや制度がある」が53.5%となっている。

問21 自治体の首長や議員、企業の管理職などで女性の参画が少ない理由（複数回答）



【その他】女性の妊娠、出産、育児により職場復帰がしづらい状況/そもそも日本女性自身の大半がそれを望んでいないと感じる。(金銭的余裕があるなら専業主婦になりたいと思う女性も多い)/ 家族の理解や協力/この質問の仕方はおかしい。そもそも女性に対して直接質問すべきだと思う/妊娠出産による離脱/いろいろな面で女性は身体的な負担が男性に比べ大きい。子育てとの両立、閉経後の体調不良など/家事や子育ては女性がやるのが当然/その役職への能力が足りていない/女性がそういった役職についても周囲からの評価を得づらい。女性の方が社会的な立場よりもプライベートの充実を優先する傾向にある/男性の方が女性より長けている部分が多いからだと思う/男女は生物学的に違うのに全ての役割において同数にする必要があるのかの検証が充分されていない/妊娠での現場離脱による経験、スキル不足を補うための環境整備の費用/更年期や体の不調も男性よりはるかにあるのではないかとと思う/能力で決めれば、下駄を履かせると誰も幸せにならない/家庭にかかわる全てが女性負担の現状で、キャリアをつもうとすると家庭と両立しないといけない。当たり前で難しい。男性は家庭を考えないで仕事だけを考えるのでキャリアアップしやすいのは当たり前。家事育児出産介護人付き合いすべを、夫婦で協力できる社会(男性が家庭を大事にしてたら、男性間で良くない状況になると聞いたことがある)になれば女性もキャリアアップできると思う。(子供の体調不良での早退や欠勤もまずは母親にみたいのが無くなればいい)/全ての役職にいえる事ではないと思いますが、内閣総理大臣である高市首相が誕生した際に今まで女性活動家として活躍している方々はあまり望ましく思っていないように見えました。今までの役職に就く能力を持った女性が周りの女性から支持されない、あるいは妨害を受けてなれなかったこともあると思うので、そういったことが起こらない環境を作ることでも大事だと思う/妊娠・出産時、できないことやできることに制限があるから/男女の比率/女性側も積極的に表に立つ習慣をつけたほうがよい/圧倒的に家事をする男性が少ない。子供が熱で呼び出しがあっても休むのは女性が当たり前とか/育児等との両立がふつうに出来ない、多い/キャリアを築く時期と妊娠出産丸かぶり。そこに対する保障もなければ理解もない。社会が変わらないと女性にとっては無理/女性への意識啓発が必要。中高年の意識啓発/元々男性が多い職場なので女性が入りづらい/コミュニティの作り方がそもそも男女で違うと感じる/女性の下で働くのはいやだという男性の良くないプライド/女性のほうが賢いから/女性が活躍するのを快く思わない男性からの嫌がらせ等に耐えてまでやりたいと思う人がいない/家庭生活と言うよりもライフサイクルで子どもを持つ育てるの過程の中で、年齢的な限界にあってない日本の社会慣習が問題なのではないかと思う/女性は気負いすぎて、融通がきかないから選ばない

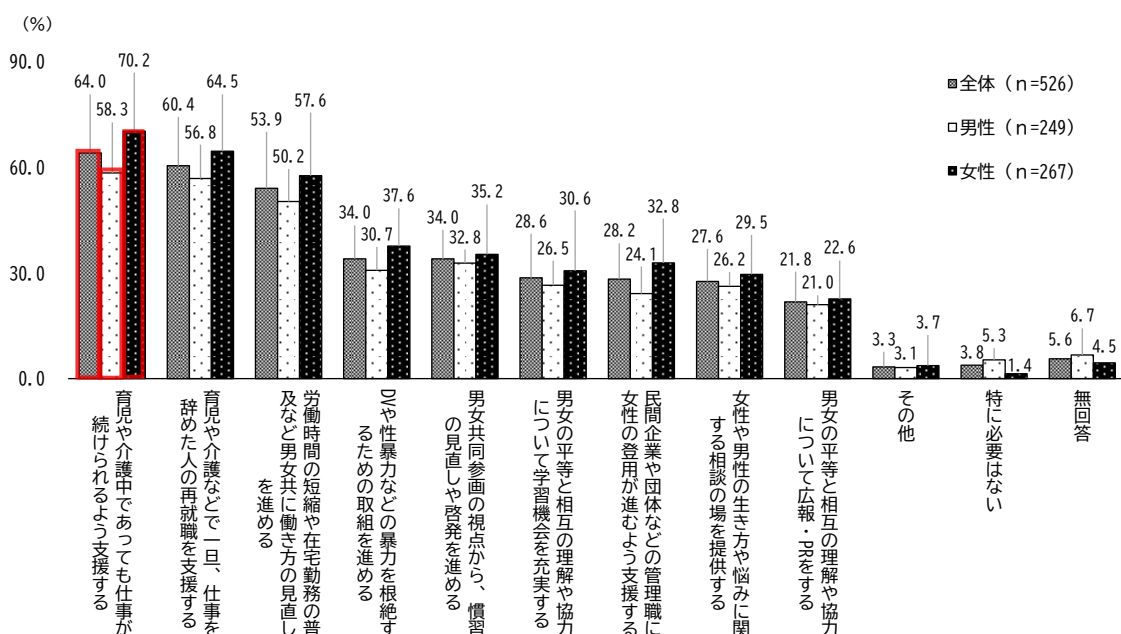
問 22 男女共同参画社会の実現に向けて、浦添市が今後特に力を入れていくべきだと思うものはどれですか。(〇はいくつでも)

1. 男女共同参画の視点から、慣習の見直しや啓発を進める
2. 民間企業や団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する
3. 女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する
4. 男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する
5. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める
6. 育児や介護中であっても仕事が続けられるよう支援する
7. 育児や介護などで一旦、仕事を辞めた人の再就職を支援する
8. 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PR をする
9. DV や性暴力などの暴力を根絶するための取組を進める
10. その他 (具体的に)
11. 特に必要はない

男女共同参画社会の実現に向けて浦添市が今後特に力を入れていくべきにことについてみると、「6. 育児や介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が64.0%と最も割合が高く、次いで「7. 育児や介護などで一旦、仕事を辞めた人の再就職を支援する」が60.4%、「5. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」が53.9%となっている。

性別にみると、男性は「6. 育児や介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が58.3%と最も割合が高く、次いで「7. 育児や介護などで一旦、仕事を辞めた人の再就職を支援する」が56.8%となっている。女性も「6. 育児や介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が70.2%と最も割合が高く、次いで「7. 育児や介護などで一旦、仕事を辞めた人の再就職を支援する」が64.5%となっている。

問22 男女共同参画社会の実現に向けて、浦添市が今後特に力を入れていくべきこと (複数回答)



【その他】仕事に支障をきたす原因(子育て介護等)の支援が重質する方法を考える/お手伝いさんほしい/どんどん発信(広報)するべき/子どもの不登校支援充実させてほしい。(女が)仕事を辞めないといけなくなる。仕事をやめて、生活ができない。金銭的問題、再就職支援を検討してほしい/市の組織の中に男女共同参画について具体的に行動化できるような構図をつくる/賃上、生活保護世帯への対応/男性・女性の相互理解をすすめる教育活動・イベント

8) 調査票

ご記入にあたってのお願い
 ○この調査には、郵便の便のため本人様だけでお返ください。
 ○質問に当たっては、回答欄のあてはまる番号に○をつけてください。
 ○まつける数は、「1」だけ、のものに、「複数」のものがあります。



【回答を統計的に分析するためにおうかがいします。】

- A あなたの性別をお答えください。あなたがお返する性でつけこずです。(Oは1つ)
 1. 男性 2. 女性 3. その他 4. 答えたくない
- B あなたの年齢をお答えください。(Oは1つ) ※2025年12月1日時点
 1. 20代 2. 30代 3. 40代
 4. 50代 5. 60代 6. 70代
- C あなたは現在働いていますか。あてはまる項目が複数ある方は、左のものを選んでください。(Oは1つ)
 1. 会社員・公務員(管理職・課長級以上) 2. 会社員・公務員(管理職以外)
 3. パート・アルバイト・内職 4. 契約社員・派遣社員・その他の正社員
 5. 会社役員 6. 自営業
 7. フリーランス 8. 専業主婦(夫)
 9. 学生 10. 無職
 11. その他()
- D あなたは、現に結婚していますか。(Oは1つ)
 1. 結婚している 2. 結婚していないがパートナーと暮らしている →Eへ
 3. 未婚 4. その他 →Fへ

【Dで「1」に結婚している、「2」に結婚していないがパートナーと暮らしている」と回答した方にお聞きします。】

- E 配偶者(またはパートナー)の職業をお答えください。(Oは1つ)
 1. 会社員・公務員(管理職・課長級以上) 2. 会社員・公務員(管理職以外)
 3. パート・アルバイト・内職 4. 契約社員・派遣社員・その他の正社員
 5. 会社役員 6. 自営業
 7. フリーランス 8. 専業主婦(夫)
 9. 学生 10. 無職
 11. その他()

- 1 -

【専業主婦について】

【問2へは、「Dで「1」に結婚している」「2」に結婚していないがパートナーと暮らしている」を回答した方にお聞きします。あてはまらない方は該当を○でください。】

問2 あなたの家庭では、アンケートの家庭内の事柄を主にあなたが持っていますか。アンケートについて、あてはまる選択肢(番号)を選んでください。(Oはそれぞれ1つ)

項目	選択肢					
	1 主にあなたが 行う	2 あなたが 行うが、 配偶者が 行う	3 あなたが 行うが、 子どもが 行う	4 あなたが 行うが、 配偶者が 行うが、 子どもが 行う	5 配偶者が 行う	6 その他
A 家計を支える(生活費をかせぐ)	1	2	3	4	5	6
イ 家事をする(掃除・洗濯・食事)	1	2	3	4	5	6
ウ 家計の管理	1	2	3	4	5	6
エ 子どもの世話・しつけ	1	2	3	4	5	6
オ 親入・老親の世話(介護)	1	2	3	4	5	6
カ 子どもの教育方針・進学の設定	1	2	3	4	5	6
キ 高額商品の購入(不動産等)	1	2	3	4	5	6
ク 家計の得意な最終的な決定	1	2	3	4	5	6

問3 あなたは、現在の家庭内の役割分担(家事・家事・育児等)にどの程度満足していますか。(Oは1つ)

1. とても満足している 2. やや満足している
 3. どちらとも言いえない 4. やや不満がある
 5. とても不満がある

- 3 -

F あなたの世帯構成をお答えください。(Oは1つ)

1. 単身世帯(1人) 2. 夫婦(パートナー)のみ 3. 2世代世帯(子どもと)
 4. 2世代世帯(親と) 5. 3世代世帯 6. その他()

G お子さんはいらっしゃいますか(成人または同居している子どもも含めます)。(Oは1つ)

1. 子どもはいない →問1へ 2. いる(人) →HA

【伝言「お返す」を回答した方にお聞きします。】

H お子さんはこの中ではどれにあたりますか。(Oはいくつでも)

1. 乳幼児 2. 小学生 3. 中学生
 4. 高校生 5. 大学生・専門学校生 6. その他()

【男女平等に関する意識について】

問4 あなたは、次におけるアンケートまでの分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。アンケートの分野について、あなたの考えに近い選択肢(番号)を選んでください。

(Oはそれぞれ1つ)

項目	選択肢					
	1 とても 同意している	2 同意がある	3 どちらか に同意がある	4 どちらか に同意はない	5 同意はない	6 わからない
A 家庭生活	1	2	3	4	5	6
イ 職場	1	2	3	4	5	6
ウ 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
エ 地域活動・社会教育の場	1	2	3	4	5	6
オ 政治の場	1	2	3	4	5	6
カ 法律や制度上	1	2	3	4	5	6
キ 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	6
ク 社会全体	1	2	3	4	5	6

- 2 -

【すべての方にお聞きします。】

問4 結婚や家庭生活に関してアンケートの項目について、あなたの考えに近い選択肢(番号)を選んでください。(Oはそれぞれ1つ)

項目	選択肢				
	1 賛成	2 どちらか に賛成	3 どちらか に反対	4 反対	5 わからない
A 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
イ 結婚しても必ずしも子どもを産む必要はない	1	2	3	4	5
ウ 夫婦の互々の性を尊重すること(遺伝的差別差別)を認めるほうがよい	1	2	3	4	5
エ 専業主婦を認めるほうがよい	1	2	3	4	5
オ 同性婚を認めるほうがよい	1	2	3	4	5
カ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
キ 「男の子は男らしく」「女の子は女らしく」育てるほうがよい	1	2	3	4	5

問5 あなたは今後、男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(Oはいくつでも)

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の意識をなくす
 2. 男性が家事などに参加することに対する女性の意識をなくす
 3. 夫婦や家族間で家事などの分担をより公平にする
 4. 男性による家事・育児・介護などについて、雇用における上司や周囲の理解を促すこと
 5. 労働時間の短縮や休暇制度、フレックスタイム等の1日を利用した多様な働き方を普及すること
 6. 社会の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動についても、その評価を高めること
 7. 男性の家事や育児、介護等の技能を高めること
 8. 男性が育児や介護、地域活動を行うための事例(ネットワーク)作りを促すこと
 9. 家庭生活と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
 10. その他(具体的に)
 11. 特に必要なことはない

- 4 -

仕事について

問6 あなたは、職場において、次にあげるア～カについて性別によって差があると思いますが、あなたの考えに近い選択(番号)を選んでください。(〇はそれぞれ1つ)

項目	選択肢	差がほとんどない	男性の方が大きい	女性の方が大きい	どちらかといえば男性の方が大きい	どちらかといえば女性の方が大きい	わからない
ア 業務や採用の条件	1	2	3	4	5	6	
イ 賃金・昇進・昇格	1	2	3	4	5	6	
ウ 人事配置	1	2	3	4	5	6	
エ 教育や研修制度	1	2	3	4	5	6	
オ 仕事の内容	1	2	3	4	5	6	
カ 全体的に	1	2	3	4	5	6	

問7 あなた自身は、仕事も生活もバランスよく満足させるために、どのようなことが必要だと感じますか。(〇は3つまで)

1. フレックスタイム制やテレワーク、有給取得など、多様な働き方を促進する制度の整備
2. 長時間労働を前提とした働き方を見直す
3. 労働単位での年次休暇の取得や健康休暇、多様な休暇などの休暇制度の拡充
4. 育児休業や夜間・休日勤務、介護サービスなどの充実
5. デジタル技術を活用し、業務負担の軽減を図る
6. ワークライフバランスに対する職場の理解
7. その他(具体的に)

【現在働いている方(問6で選択肢1〜7を選んだ方)にお聞きします。問6で選択肢8〜11を選んだ方は問11をお読みください。】

問8 あなたのキャリアアップへの考えについてお答えください。(〇は1つ)

1. キャリアアップしたい	2. ややキャリアアップしたい	→問10へ
3. あまりしたくない	4. したくない	→問9へ

※ここでいうキャリアアップとは、昇進(管理職・上位職)、職務昇格の拡大、専門性の向上、技能・事業拡大など、仕事や働き方における持続可能なステップ全般を指します。

問11 あなたは、夫婦や恋人の間で次のようなことが行われた場合、それを暴力だと思えますか。下記のA～Cについて、あなたの考えに近い選択(番号)を選んでください。

(〇はそれぞれ1つ)

(配偶者等からの暴力は、性別にかかわらず被害者になることがありますので全員が答えください)

項目	選択肢	暴力にあたると思う	ほとんど暴力ではないと思う	暴力にあたると思う	暴力にあたると思う	暴力にあたると思う
ア 平手で打つ	1	2	3			
イ 殴るふりをしておどす	1	2	3			
ウ 何を言っても長時間無視し続ける	1	2	3			
エ 「顔のおかげで食べられるんだ」などと見下して言う	1	2	3			
オ 嫌がっているのに性的な行為を強要する	1	2	3			
カ 絶対に協力しない	1	2	3			
キ 生活費を渡さない	1	2	3			
ク お金の使途を細かくチェックする	1	2	3			
ケ 親兄弟、友人との付き合いを禁止・制限する	1	2	3			
コ 相手の交友関係や電話、メール36などをチェックする	1	2	3			

問9 ●問8で「3. (キャリアアップを)あまりしたくない」「4. したくない」と答えた方へ、その理由をお答えください。(〇はいくつでも)

1. 責任が増くなりそうだから
2. ストレスが増えそうだから
3. 仕事と家庭との両立が難しくなりそうだから
4. 必要な能力・適性が自分にはないと感じるから
5. 仕事内容・役割に魅力ややりがいを感じないから
6. 報酬や待遇が見合わないと思うから
7. 現状に満足しており、これ以上のキャリアアップは望まないから
8. 家庭・趣味・地域活動など他のことを優先したいから
9. その他(具体的に)

ハラスメント/配偶者等からの暴力について

【すべての方にお聞きします。】

問10 あなたは、過去5年ほどの間に、職場や学校、地域などで次にあげるア～キのようなセクシュアル・ハラスメント(性的な言動による不快な経験)を受けたことがありますか。あてはまる選択肢(番号)を選んでください。(〇はそれぞれ1つ)

項目	選択肢	受けたいことがある	受けたくないがない
ア 性的な言動によるからかい(性的な冗談、性的な戯言を話す・聞く)	1	2	
イ 食事等へのしつこい誘い、宴会でのお酌やデュエット等の強要	1	2	
ウ マード写真やポスターの掲示、おしゃべりな選択肢やスポーツ誌の閲覧	1	2	
エ 不必要に休ませられたり、性的関係を強要したりする	1	2	
オ 性的なうたをながす	1	2	
カ 結婚、離婚、恋人、妊娠、子どもの有無等についてあれこれ言う	1	2	
キ 女性という理由でおどく、後片付け、私用車を強要される	1	2	

問12 あなたは、過去5年ほどの間に、配偶者等(事実婚や交際中、元配偶者も含む)や交際相手からの次のようなことをされたことがありますか。A～Cについて、あてはまる選択肢(番号)を選んでください。(〇はそれぞれ1つ)

項目	選択肢	あつたことがある	あつたことがない	なまじい
ア なぐったり、げつたり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力を受けた	1	2	3	
イ 人格を否定するような暴言を受けた	1	2	3	
ウ あなた、もしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	1	2	3	
エ 嫌がっているのに性的な行為を強要された。また、絶対に協力しないことがあった	1	2	3	
オ 生活費を渡さない、借金強いることをされた	1	2	3	
カ 交友関係を細かく監視されたり、電話・メール、SNSなどをチェックされたりした	1	2	3	

【問12で「1」「2」を複数選んだ方「無回答もあつた」と答えた方にお聞きします。どの項目も「あつたことがない」という方は問11をお読みください。】

問13 あなたはそのことを、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇はいくつでも)

1. 警察に連絡・相談した
2. 区市町村や地域福祉委員に相談した
3. 配偶者暴力相談支援センター、女性相談所、その他公共機関に相談した
4. 医師の専門家や弁護士、法律の専門家に相談した
5. 高専関係者(医師、看護師、臨床心理士など)に相談した
6. 学校関係者(教員、スクールカウンセラーなど)に相談した
7. 家族や親せきに相談した
8. 友人知人に相談した
9. その他(具体的に)
10. どこ(だれ)にも相談しなかった(できなかった)

【開 13】で「はい」と答えた項目にも相関しなかった(できなかった)と答えた方にお聞きします。

開 14 どこ(どれ)にも相関しなかったのは、なぜですか。(Oはいくつでも)

1. どこ(どれ)に相関してよいか分からなかったから
2. 恥ずかしくてこれにも書えなかったから
3. 相関してもふざけと思ったから
4. 相関したことがわかると迷惑を受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから
5. 相関相手の意図によって不快な思いをさせられると思ったから
6. 自分さえ我慢すればなんとかなるのをまやがていけると思ったから
7. 仲間が嫌いから
8. 他人を巻き込みたくなかったから
9. そのことについて思い出しにくくなったから
10. 自分にも悪いところがあると思ったから
11. 相関するほどの事ではないと思ったから
12. その他(具体的に)

【開 15】の方にお聞きします。

開 15 あなたが、同性性暴力の被害やそれに関する悩みを相談できる窓口などで配達してほしいと思うことはありますか。(Oはいくつでも)

1. メールによる相談ができる
2. チャット、LINEなどによる相談ができる
3. 電話による相談ができる
4. 24時間相談ができる
5. 相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる
6. 同性の相談員がいる
7. 匿名で相談ができる
8. 弁護士など、法的知識のある相談員がいる
9. 福祉の視点、心理的視点など、専門的知識の相談員がいる
10. 同性性暴力に関する専門の相談員がいる
11. その他(具体的に)
12. わからない

開 19 あなたは、性の多様性を尊重する取組としてどのようなことが必要だと思いますか。

(Oはいくつでも)

1. 市民に対する啓発
2. 幼少期からの教育
3. 相談窓口の設置
4. 社会制度(法制度など)の整備
5. 社会福祉(トイレ・更衣室など)の整備
6. 教育現場における環境整備
7. 行政職員や教職員に対する研修
8. 企業などに対する啓発
9. 同性団体のパートナーであることも認める行動の証明書などの発行
10. その他()
11. わからない
12. 必要なものはない

【男女共同参画社会について】

開 20 次のア～ホの取組について、知っていますか。あてはまる選択肢(番号)を選んでください。(Oはそれぞれ1つ)

項目	選択肢	知っている	知っているがよく	知っているが少し	ある(いた)ことは	知らない(いた)た
ア 瀬西市男女共同参画行動計画		1	2	3	4	
イ 瀬西市 市民活動・男女共同参画ハーモニセンター		1	2	3	4	
ウ 多様性社会(ダイバーシティ)		1	2	3	4	
エ フェンダー(社会的起業)		1	2	3	4	
オ ワークライフバランス(仕事と家庭の調和)		1	2	3	4	
カ アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)		1	2	3	4	
キ テートロV(恋人間で起こるDV)		1	2	3	4	

【性の多様性について】

開 16 あなたは、性の多様性に関する次のア～ホの取組を知っていますが、あてはまる選択肢(番号)を選んでください。(Oはそれぞれ1つ)

項目	選択肢	知っている	知っているがよく	知っているが少し	ある(いた)ことは	知らない(いた)た
ア) 性的マイノリティ(性的少数者、セクシュアルマイノリティ)		1	2	3	4	
イ) LGBT(レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー)		1	2	3	4	
ウ) カミングアウト		1	2	3	4	
エ) アウティング		1	2	3	4	
オ) SOG(ソウジ)		1	2	3	4	
カ) 瀬西市性の多様性を尊重する社会を実現するための条例		1	2	3	4	
キ) 瀬西市パートナーシップ宣言証明		1	2	3	4	

開 17 あなたは、家族や友人など身近な方から性的少数者(セクシュアルマイノリティ)であることを打ち明けられたとしたら、どのように思いますか。(Oは1つ)

1. 理解したいと思う
2. 応援したいと思う
3. いままで通り接する
4. 距離を置きたいと思う
5. その場にならないとわからない
6. 一部の人のことだけで、偏見な認識ではない
7. 連絡がある
8. その他()

開 18 あなたは今までに、自分のからだの性と心の性が異なることや、好きになる相手の性別などに悩んだことはありますか。(Oは1つ)

1. よくある
2. たまにある
3. ほとんどない
4. まったくない
5. 答えたくない

開 21 女性の社会進出は進みつつありますが、自治体の議員(知事や市町村長)や議員、企業の管理職などはまだ女性が少ないのが現状です。このように女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。(Oはいくつでも)

1. 家庭生活との両立が難しい
2. 男性優先の社会の仕組みや制度がある
3. 女性自身進出が難しいという女性の能力に対する偏見がある
4. 女性の能力発揮の機会が男性と同じように与えられていない
5. 女性の進出に関する認識や理解が足りない
6. 男性になるほうがよい(なるものか)と思っている人が多い
7. 女性自身が役割に対する関心やチャレンジ精神がない
8. その他(具体的に)
9. わからない

開 22 男女共同参画社会の実現に向けて、瀬西市が今後特に力を入れていくべきだと思いますものはありますか。(Oはいくつでも)

1. 男女共同参画の視点から、偏見の見直しや啓発を進める
2. 民間企業や団体などの管理職に女性の進出が働きやすいよう支援する
3. 女性や男性の働き方や悩みに関する相談の場を提供する
4. 男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実させる
5. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など両方に働きやすい環境を進める
6. 育児や介護などであっても仕事を続けられるよう支援する
7. 育児や介護などで一旦、仕事を辞めた人の再就職を支援する
8. 男女の平等と相互の理解や協力について広報・啓発をする
9. 同性暴力などの暴力を根絶するための取組を進める
10. その他(具体的に)
11. 特に必要はない

【自由意見】

性別にとらわれず、すべての人が個性や能力が尊重され、自分らしく生きることができるとともに男女共同参画社会を実現していくため、あなたのご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

調査内容は以上です。ご協力ありがとうございました。同封の返信用封筒にてご返送ください。